

オーナーズハンドブック

アシスタンス

代理店ネットワーク

ズームインおよびズームアウトには、マクラーレン正規代理店 ネットワークは定期的に拡充されており、連絡先を含む全店一覧は次の URL にてご確認いただけます。

<https://retailers.mclaren.com>

緊急時には、お客様の地域の緊急通報用電話番号までご連絡ください。

緊急でないサポートは、最寄りのマクラーレン正規代理店。

マクラーレン顧客サービス部門の連絡先詳細は以下をご覧ください。

<https://cars.mclaren.com/contact-us>



目次

- 1.01 運転の前に
- 2.01 運転操作装置
- 3.01 インストルメント
- 4.01 センターディスプレイ
- 5.01 快適機能と便利機能
- 6.01 メンテナンス
- 7.01 車両データおよび用語集
- 8.01 適合性に関する情報

はじめに

はじめに

運転する前に本書をよく読み、McLarenとその機能についてご理解ください。本書には、お客様にMcLarenが提供する利点や喜びを最大限にお届けするために必要な情報が記載されています。

本書では、マクラーレン車両でご利用いただけるすべてのオプションおよび機能について説明しています。一部の記述（ディスプレイおよびメニュー機能に関する説明を含む）は、モデル、国別仕様、オプション装備またはマクラーレン認定アクセサリーの有無によって、お客様の車両には該当しない場合があります。

i 注意: 本書に掲載されている画像は、お客様の車両の状態とは完全には一致しない場合があります。

お客様のマクラーレンに付属されている書類は、車両の一部を構成するうえで不可欠なものです。車両を売却される場合には、必ず付属書類も同時にお引き渡しください。

本書の内容は、必要な情報をすぐに見つけられるよう、章に分かれています。

運転の前に

運転席に着いた後に運転の準備を整え、すべての操作装置への安全かつ容易なアクセスを確保するために行う必要がある設定を詳しく説明します。

運転操作装置

この章は、お客様のマクラーレンの装備と運転操作装置、および運転中にそれらの操作装置を最も効果的に使用するための方法を詳しく説明します。

インストールメント

この章では、マクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）の機能の操作方法を含め、ドライバードisplayについて説明します。

センターディスプレイ

この章は、車両の各種設定の表示、変更手順を含め、マクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）について説明します。

快適機能と便利機能

快適な運転環境を得るためのシステムや機能について説明します。

メンテナンス

ここでは、お客様のマクラーレンのメンテナンスについて説明します。冬季にマクラーレンを運転する際のアドバイスや、海外で運転する際に不具合が発生した場合の対応策、その結果生じる可能性がある問題への対応方法についても説明します。ヒューズやランプに関する情報、パンク時の対処方法を説明します。

車両データおよび用語集

お客様のマクラーレンの様々なシステムに必要なフルードの仕様やその分量については、この章を参照してください。また、お客様のマクラーレンや車両の性能に関する具体的なデータが必要な場合もこの章を参照してください。

技術用語集では、McLarenに搭載されているいくつかのより複雑なシステムについても簡単に説明しています。より詳しい情報をお求めの場合は、マクラーレン代理店にお問い合わせください。

索引

目次と索引は、必要な情報を素早く見つけるために役立ちます。

はじめに

本書についての情報

McLarenは最新の技術を採用し、つねに先を行く技術を搭載するため車両仕様を更新し続けています。したがって、McLarenは随時設計、装備および技術的機能を変更する権利を留保します。

© McLaren Automotive Limited.

McLaren Automotive Limitedの書面による許可なく本書の一部または全部を複製、翻訳もしくは再版することを禁じます。

お客様のマクラーレンに搭載されている装備は、車両や市場仕様により本書の画像とは異なる場合があります。

当社のアプリケーションに含まれるすべての情報、図および仕様は、利用可能なデータに基づいており、発行の時点では正確です。地域の制限や規制により、ご利用いただけるオプションは市場によって異なる場合があります。このアプリケーション内の図は、必ずしもお客様の地域の市場でご利用いただける仕様またはオプションを反映しているとは限らず、オプション装備を示している場合があります。

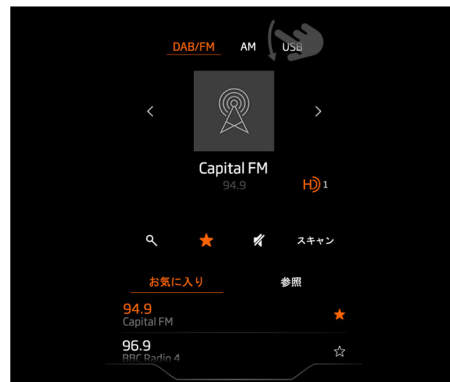
これらのアプリケーションに記載されている仕様は、情報目的専用であり、マクラーレンオートモーティブは、事前の通知なしで、または義務を負うことなく、いつでも製品の仕様を変更する権利を留保しています。仕様の詳細情報および標準装備とオプション装備に関する情報については、担当のマクラーレン代理店までお問い合わせください。

本車両は、特許により保護されています。
cars.mclaren.com/patentsを参照してください。

Printed in United Kingdom, 22QA750GP.

電子ユーザーマニュアル

お客様の車両に電子ユーザーマニュアルが装備されている場合、オーナーズハンドブックはセンターインフォテインメントタッチスクリーンでご覧いただけます。



マニュアルにアクセスするには、マクラーレンインフォテインメントシステム（MIS）画面上部のステータスバーを下にスワイプし、オーナーズハンドブックのアイコンをタッチします。

i 注意: この機能は、車両が動いているときには利用できません。運転者の注意が散漫にならないよう、電子ユーザーマニュアルは車両が停車しているときのみ利用できません。

はじめに

必要な言語を選択してから、目次ページからトピックを選択します。



「ホーム」アイコンは、各ページの上部と下部に表示されます。「ホーム」ボタンを選択すると、メイン目次ページに戻ります。



必要に応じて、これらのアイコンを使用して前または次のトピックに移動できます。

「Related Topics（関連トピック）」を選択すると、現在のセクション内のその他の情報にすばやくアクセスできます。



このアイコンは、ウェブブラウザの戻るボタンと同様に、前のビューに戻るのに使用できます。



このアイコンは、メイン目次ページに戻るのに使用できます。

記号

本書では以下の記号を使用しています。これらの記号は、記載されている情報の種類が一目で分かる、視覚的なメッセージを提供します。

警告	
	怪我や死亡事故につながるおそれのある行為への注意事項を示します。
注意	
	車両を損傷する可能性のある行為への注意事項を示します。また、お客様にとって役立つ情報や特定事項に関する追加情報を提供します。
環境保護上の注意	
	お客様およびお客様の車両が環境に及ぼす影響を最小限にするためのヒントを説明します。

運転上の安全



警告: お客様のマクラーレンに搭載されている電子システムは相互に作用しています。これらのシステムをみだりに改造すると、相互接続されている他のシステムの故障の原因となるおそれがあります。これらの不具合は、McLaren の運転安全上およびお客様自身の安全に重大な危険を生じるおそれがあります。
車両に間違った方法で装備を追加もしくは修正した場合も、運転安全に悪影響が生じる可能性があります。

車両の使用

車両を使用する際は以下の事項を遵守してください。

- 本書に記載されている安全上の注意のすべて
- 道路交通法および規則



警告: お客様のマクラーレンには、様々な警告ラベルが貼付されています。これらの警告ラベルは、お客様とその他の人々に様々な危険を知らせるためのものです。車両の警告ラベルは決して剥がさないでください。
警告ラベルを剥がすと、お客様や乗員が危険に気付くことができず、怪我などを負うおそれがあります。

はじめに

最低地上高

 **警告:** 急な上り坂または下り坂への進入の際、車両の下側を損傷する可能性があります。

以下の場合には注意して運転してください。

- 縁石への進入
- 急な上り坂への進入
- 急な下り坂から平坦な道への進入
- 悪路での走行
- 交通静穏化策が実施されているエリアでの走行
- その他、駐車場など、路面の高さの急激な変化や上昇が起こる環境での走行

「車体寸法」(7.05 ページ)を参照してください。

サーキット走行

車両の性能と信頼性を最大限に発揮するためには、サーキットでの走行の前に、以下の前提条件を満たしていることが重要です。

- エンジンオイルが標準動作温度である
- エンジンオイルレベルが3、4、5または6の白色のセグメントである（「エンジンオイルの点検」(6.02 ページ)参照）
- エンジンクーラントが標準動作温度である
- タイヤが安全な動作温度を超えていない

 **注意:** サーキット走行を行う場合は、事前にマクラーレン代理店にご相談ください。マクラーレンでは、サーキット走行の前後に車両を点検に出すよう推奨しています。

 **注意:** ご自分で完全にコントロールできる範囲内、また車両性能の限度を超えない範囲で走行してください。

クールダウン

サーキット走行時は、ブレーキやトランスミッションが高温になりパフォーマンスに影響が出る可能性があるため、マクラーレンではクールダウンする時間を取ることを推奨します。急ブレーキや必要以上のギアチェンジをせずに比較的低速で走行すると、空気の流れで車両を冷却できます。

マクラーレンでは、サーキットを出る前に車両を標準動作温度に下げる時間を取ることを推奨します。

 **注意:** パフォーマンス走行の直後に停車する場合、マクラーレンでは、すぐにはイグニッションスイッチをオフにせずにパーキングブレーキをかけることを推奨します。マクラーレンでは、エンジンをアイドリングさせてからイグニッションスイッチをオフにすることを推奨します。

 **注意:** サーキットおよび競技での使用上の注意については、サービスおよび保証ガイドを参照してください。

保存データ

お客様の車両にはデータを収集し、一時的または永続的に保存する多くのコンポーネントがあります。この技術データには、車両の状態、発生したすべての事象、お客様の車両に発生している可能性がある、または過去に発生した誤動作などに関する情報があります。

これらには、例えば次のものがあります。

- システムコンポーネントの作動状況（フルードレベルなど）
- 車両および個々のコンポーネントのステータスメッセージ（「ガラスウォッシャー液が少なくなっています」など）
- 重要なシステムコンポーネントの誤動作および欠陥（「ライトスイッチの故障」など）
- 特殊な運転状況での車両反応および作動状況（エアバックの展開など）
- 環境条件（外気温など）

このデータは、もっぱら技術的な性質のものであり、次の目的に使用できます。

- 不具合や欠陥の認識および修正の支援
- 車両機能の分析（事故後など）
- 車両機能の最適化

データは車両の動きを追跡するために使用することができません。

はじめに

お客様の車両が点検を受ける際には、次の技術情報を車両から読み取ることができます。

- 修理サービス履歴
- 保証事象
- 品質保証

この情報は特殊な診断テスターを使用して、サービスネットワーク（メーカーを含む）の従業員によって読み取ることができます。必要に応じて、より詳細な情報を得ることができます。

不具合が修正された後、この情報は不具合メモリーから削除されるか、または連続的に上書きされます。

車両を運転する場合、他の情報に関連する技術データを他者が追跡する状況が発生する可能性があります。

例えば、次のものがあります。

- 事故報告書
- 車両の損傷
- 目撃証言

マクラーレンは、衝突事故の際のお客様の行動に関する情報にはアクセスしません。あるいは、次の場合を除いて他者とその情報を共有しません。

- お客様の同意、またはリース車両の借主の同意を得た場合

- 警察また類似する官庁の正式な要求に応じる場合
- 法的手続に備えてメーカーの防衛の一環とする場合
- 法律の定めるところによる場合

さらに、マクラーレンは収集または取得した診断データを次の場合に使用することがあります。

- マクラーレンの研究に必要な場合
- 研究で必要な場合に使用できるよう適切な機密性を維持し、必要性が示されている場合
- 研究のため、特定の車両への関連付けがない要約データを他の組織と共有する場合

運転の前に

開閉.....	1.02
一般.....	1.02
ドアを開ける.....	1.04
ドアをロックする.....	1.05
ミスロック.....	1.06
個人用設定.....	1.07
車内からロック/ロック解除する.....	1.07
車内からドアを開ける.....	1.07
ドアを閉じる.....	1.08
自動ロック.....	1.09
フロントラゲッジルーム.....	1.09
リアラゲッジルーム.....	1.10
荷物の収納.....	1.13
リアラゲッジルームの収納.....	1.13
盗難防止システム.....	1.14
アラームシステム.....	1.14
イモビライザー.....	1.14
けん引防止.....	1.15
インテリアモーションセンサー.....	1.15
シート.....	1.17
安全性.....	1.17
マニュアルシート.....	1.17
電動シート.....	1.18
ステアリングホイールとステアリングコラム.....	1.22
ステアリングホイールの手動調整.....	1.22
ステアリングホイールの電動調整.....	1.22
ホーン.....	1.23

乗員の安全.....	1.24
シートベルト.....	1.24
補助拘束装置（SRS）.....	1.26
チャイルドパッセンジャー.....	1.29
ミラー.....	1.32
安全性.....	1.32
インテリアミラー.....	1.32
外部ミラー.....	1.32
照明.....	1.34
外部照明.....	1.34
ランプスイッチ.....	1.34
ハイビームヘッドランプ.....	1.35
ヘッドランプ.....	1.36
リアフォグランプ.....	1.36
方向指示器.....	1.37
ハザード警告灯.....	1.38
パーキングランプ.....	1.38
ウォッシャーとワイパー.....	1.40
フロントウィンドウワイパー.....	1.40
車両リフト.....	1.42
車両リフト.....	1.42

運転の前に 開閉

一般

キーレスエントリー機能を使用するリモコンキーの適当なボタンを押すことで、車両をロックおよびロック解除することができます。

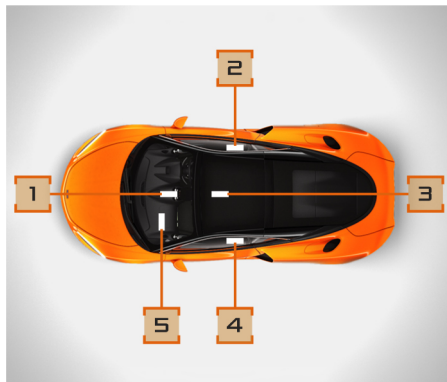
キーレスエントリー機能は、リモコンキーがセンサーから 1.2 m (3 フィート 11 インチ) の範囲内にある必要があります。

エンジンが停止している場合、電気的な状態に関わらず車両をロックすることができます。「車両の電気的狀態」(2.02 ページ)を参照してください。

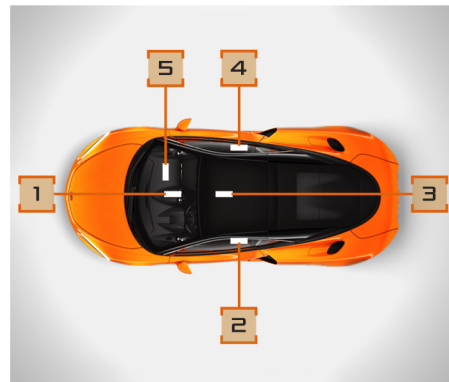
キーレスエントリー

キーレスエントリーを使用すると、リモコンキーがセンサーから 1.2 m (3 フィート 11 インチ) の範囲内にあれば、ドアを開けるだけで車両のロックを解除し、盗難防止アラームシステムを停止させることができます。使用者がリモコンキーを身に着ける、あるいはバッグなど非金属製のものに入れて携帯していれば、ほかに必要なものではありません。キーを外に出す必要も操作する必要もありません。

5つのセンサーによって、リモコンキーが車両の周囲のどこにあるか検出されます。



右ハンドルモデル



左ハンドルモデル

1. 車内フロントセンサー
2. 運転席ドアセンサー
3. 車内リアセンサー
4. 助手席ドアセンサー
5. 助手席フットウェルセンサー

リモコンキーエントリー

お客様のマクラーレンには2つのリモコンキーが付属しています。これらのリモコンキーを使って、離れた場所から車両をロックおよびロック解除することができます。

運転の前に 開閉

i 注意: 盗難防止のため、リモコンキーの操作は車両のすぐ近くで行ってください。

リモコンキーを使って、ロックおよびロック解除できるものは以下の通りです。

- ドア
- フロントラゲッジルーム
- リアラゲッジルーム
- フューエルフィルターフラップ
- センターコンソール収納ボックス
- グローブボックス



リモコンキーを使用して車両のロックを解除するには、ロック解除ボタンを押します。フロント、リアおよびサイドの方向指示器（市場により異なります）が2回点滅し、盗難防止アラームシステムが解除されます。

車両設定で「運転席側」と「両側」のどちらが選択されているかで、「ロック解除」ボタンの作動が変わります。「セキュリティ」(4.13ページ)を参照してください。

⚠ 警告: リモコンキーはエンジンを始動可能にする他、車両のその他の機能を有効にする場合も使用します。車両から離れる際には必ずリモコンキーを携帯してください。

i 注意: リモコンキーは、高レベルの電磁放射にさらさないでください。キーの誤作動の原因となることがあります。例えば、ノートパソコン、タブレット、パーソナルメディアプレイヤー、携帯電話などの近くには置かないでください。

解除ボタン	結果
1 回押す	「両側」を選択した場合、ボタンを 1 回押すと両側のロックが解除されます。 「運転席側」を選択した場合、ボタンを 1 回押すと運転席側のロックが解除されます。ボタンをもう一回押すと（短時間の間をおいて）、助手席ドアのロックが解除されます。
2 回押す	「両側」を選択した場合、ボタンを 2 回押すと両側のロックが解除され、運転席側のラッチが外れます。 「運転席側」を選択した場合、ボタンを 2 回押すと運転席側のみロックが解除され、ラッチが外れます。

運転の前に 開閉

リモコンキーの収納

セキュリティのために、車両の運転中はリモコンキーを身につけておくことをお勧めします。リモコンキーを車内に置きたい場合は、人目につく場所には決して収納しないでください。

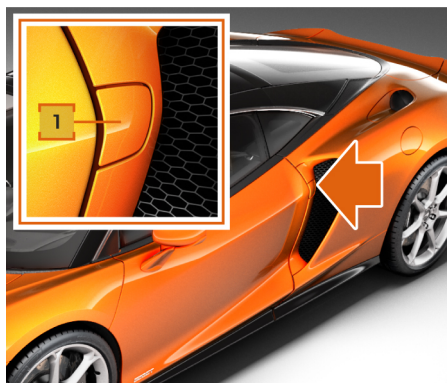
i 注意: ドライバーディスプレイに「車内にキーはありません」というメッセージが表示された場合は、リモコンキーを検出される位置に移動させてください。

i 注意: リモコンキーをセンターコンソールの収納ボックス、カップホルダー、シート間の収納ネット内、ドア収納ボックス内、あるいはシート背面の棚の上に置かないでください。これらの場所に置くとシステムはキーを検出できず、エンジンを始動できません。

放電したバッテリー

電池が完全に放電してしまった場合でも、機械式キーを使用して車両を動かすことができます。「ロック解除-放電したバッテリー」(6.25 ページ)を参照してください。

ドアを開ける



1. ドアリリースハンドル (1) の前端をしっかりと押し、ドアのロックを解除し、ラッチを外します。

i 注意: キーレスエントリー機能は、リモコンキーがセンサーから 1.2 m (3 フィート 11 インチ) の範囲内にある必要があります。

! 警告: ドアを開ける際には必ずドアの後方に立ってください。横に立つと開いたドアによって怪我を負うおそれがあります。ドアが開く速度は気温により左右されます。

i 注意: ドアはまず外側に開き、次に上方向に開くので、ドアを開ける前に横方向と上方向に十分なスペースがあることを確認してください。「車体寸法」(7.05 ページ)を参照してください。

2. キーレスエントリーを使用したときはフロント、サイド、およびリアの方向指示器 (市場により異なります) が 2 回点滅し、盗難防止アラームシステムが解除されます。

3. ドアラッチが外れ、ミラーが折りたたまれていた場合は展開され、ドアが少し持ち上がり、さらに自動的に外側および上方にスイングします。

i 注意: ドアを開けると、ウィンドウが少し下がります。ドアを閉じると、ウィンドウは完全に閉じた位置まで上がります。バッテリーの放電や氷点下の気温などによりウィンドウが下がらない場合は、ドアの開閉に注意してください。ドアを開閉する際に無理な力をかけないでください。無理な力を加えると、ドアシールやウィンドウを損傷するおそれがあります。

i 注意: 「ロック解除」ボタンを押し続けると、ウィンドウを自動的に下降させることができます。ウィンドウは、「ロック解除」ボタンから指を離すか、ウィンドウが既定の高さに下がるまで下降し続けます。「ホット Evac」(5.05 ページ)を参照してください。

運転の前に 開閉

- i** 注意: リモコンキーを使用して車両をロック解除した後、ドアやラゲッジルームを開かなかった場合、車両は 30 秒後に再びロックされます。

ドアをロックする



1. ドアを閉じます。「ドアを閉じる」(1.08 ページ)を参照してください。
2. リモコンキーを使用して車両をロックするには、ロックボタンを押します。フロント、リア、およびサイドの方向指示器（市場により異なります）が、車両の周りをぐるりと回るように順に素早く点滅します。これで、盗難防止アラームシステムが作動しました。



3. キーレスエントリー機能を利用する場合、サイドダクト内にあるタッチセンサースイッチ (1) を押します。

- i** 注意: キーレスエントリー機能は、リモコンキーがセンサーから 1.2 m (3 フィート 11 インチ) の範囲内にある必要があります。
- i** 注意: ロックスイッチは 1 回押しを感知します。
- i** 注意: ロックスイッチは、タッチで作動します。タッチ反応や操作音はありません。
- i** 注意: ロックスイッチを押し続けると、ウィンドウが自動的に上昇します。ウィンドウは、完全に閉じるまで上昇し続けます。

運転の前に 開閉

4. 方向指示器が点滅して、盗難防止アラームシステムが有効になったことを示します。



注意: ドアを開けると、車両の他の部品との接触を避けるためにドアガラスが少し下がります。ドアを閉じると、ドアガラスが閉位置まで自動的に上昇します。何らかの理由でドアガラスが上昇しない場合、「挟み込み」が検出された可能性があります。ガラスの溝に挟まった異物やガラスの位置決めがずれが原因と考えられます。ガラスの溝に異物が挟まっていないか確認し、ロックボタンを押し続けます。ドアが確実に閉まっていて、上昇を妨げる障害物がなければ、ガラスは上昇します。ガラスが閉まらない場合やガラスが自動的に上昇しない現象が繰り返し発生する場合は、マクラレン代理店にお問い合わせください。

ミスロック



ドア、フロントラゲッジルーム、またはテールゲートを開けたまま、もしくはリモコンキーを車内に置いたまま車両をロックしようとすると、ミスロックを示す警告音が鳴ります。

ドア、フロントラゲッジルーム、およびテールゲートをすべて閉じたことを確認した後に、車両をロックし直してください。



注意: フロントラゲッジルームを開けたまま、車両をロック/盗難防止アラームシステムを有効にすることができます。長い発信音が鳴り、この状態を警告します。この音は、ドアが開いている状態やリモコンキーが車内にある状態でのミスロックを知らせる短い発信音とは異なります。フロントラゲッジルームは、フロントラゲッジルームリッドを閉じるとすぐに盗難防止アラームシステムが有効になります。これにより、車両の他の部分はロックしたままフロントラゲッジルーム内のチャージポイントにマクラレンのバッテリーチャージャーを接続することができます。

運転の前に 開閉

個人用設定

同乗者を乗せずに運転することが多いお客様は、運転席ドアのみをロック解除するようにロッキングシステムを変更することができます。「セキュリティ」(4.13 ページ)を参照してください。

運転席ドアのみをロック解除する設定にしている場合、助手席ドアはドアの内側のハンドルを引いてリモコンキーの「ロック解除」ボタンを再度押すか、ダッシュボードにある「セントラルロッキング」ボタンを押さなければロック解除できません。

車内からロック/ロック解除する



1. 車両をロックするには、「セントラルロッキング」ボタンを押します。ボタンのランプが点灯し、車両がロックされたことを示します。ドアは車内から開けることができます。
2. 車両をロック解除するには、再度セントラルロッキングボタンを押します。すると、ボタンのランプが消えます。

車内からドアを開ける

ドアはロックされているときでも随時車内から開けることができます。車両が停止しており、道路や交通の状況が安全なとき以外はドアを開けないでください。

i 注意: ドアはまず外側に開き、次に上方向に開くので、ドアを開ける前に横方向と上方向に十分なスペースがあることを確認してください。



ドアハンドルを矢印で示すように上方向に引き、ドアオープナーが作動するまでドアを外側に押します。すると、ドアは自動的に外側、次いで上方向にスイングします。

運転の前に 開閉

i 注意: リモコンキーが車内にない状態でドアハンドルを使用して車両のロックを解除すると、盗難防止アラームシステムが作動し、アラームが鳴る場合があります。

ドアを閉じる

ドアを下方方向に押し引きし、確実にラッチしたことを確認してください。

⚠ 警告: ドアを閉じる際は、手や他の物体がドアエッジにかからないようにしてください。特に、ソフトクローズラッチ装着車の場合は、1つ目のラッチがかかった時点でドアが自動的に全閉状態までロックされるため、注意が必要です。挟み込み防止機能は搭載されていないため、ドアとドア開口部の間に物体や身体の一部があってもドアの全閉動作は中止されません。重傷や車両の損傷が発生する可能性があります。

i 注意: ドアを無理に閉じないでください。ドア開口部またはドアシールが損傷するおそれがあります。

ウィンドウが閉じない場合は、挟み込み防止機能が作動していることが考えられます。以下の方法のうち1つを試してください。

- ドアを再度開けて閉じる
- サイドダクトのロックスイッチによる車両のロック



挟み込み防止機能が解除されない場合は、ロックスイッチ (1) を数秒間押し続けます。ロックスイッチから指を離すまでウィンドウが上昇を続けます。この方法は、上記の方法では問題を解決できない場合にのみ試してください。

i 注意: ドアを無理に閉じないでください。ドアシールまたはウィンドウを損傷するおそれがあります。

運転の前に 開閉

自動ロック

ドアおよびラゲッジルームは車両が走行を開始すると自動的にロックされます。

i 注意: 事故発生時に衝撃力が既定のレベルを超えると、ドアのロックは自動的に解除されます。

オートマチックロック機能はセンターインフォテイメントタッチスクリーンの車両設定セクションで選択できます。詳しくは、「自動ドアロック」(4.13 ページ)を参照してください。

オートマチックロックがオンの場合、車両が発進してロックされると、インテリアセントラルロッキングボタンが点灯します。

フロントラゲッジルーム

! 警告: ラゲッジルームの最大荷物積載量を超えないようにしてください。「車両重量」(7.07 ページ)を参照してください。

i 注意: ラゲッジルームは、車両が停止していない限り開きません。発車したときにラゲッジルームが開いている場合、ドライバーディスプレイにメッセージが表示されます。

i 注意: ラゲッジルームのラッチが外れていたり開いていたりする場合は、ギアを選択できません。車両を移動する必要がある場合は、D または R を 5 秒間押し続けて、これをオーバーライドし、ギアを選択します。

! 警告: ラゲッジルームが開いていたりラッチが外れている場合は、運転者の視界が制限されるため、車両は低速で移動する必要があります。

開ける



リモコンキーのラゲッジリリースボタンを押します。ラゲッジルームのロックが完全に解除され、少し開きます。

運転の前に 開閉



または、ドアボタンまたはダッシュボードボタンを押してラゲッジルームのロックを完全に解除して少し開けます。

ラゲッジルームリッドの前面を持ち上げると、ガスストラットにより完全に開いた位置で支持されます。

閉じる

ラゲッジルームリッドをしっかりと下ろし、確実にラッチしたことを確認してください。

i 注意: ラゲッジルームにリモコンキーを置き忘れないでください。置き忘れた場合、車両がロックされて車外に締め出されてしまうおそれがあります。

i 注意: 事前に車両をロックしていた場合、リッドを閉じるとロックはそのまま方向指示器が点滅します。

ラゲッジルームは、ラゲッジルームリッドを閉じるとすぐに盗難防止アラームシステムが有効になります。

i 注意: ラゲッジルームを開けたまま、車両をロック/盗難防止アラームシステムを有効にすることができます。この機能により、車両の他の部分はロックしたままバッテリーを充電することができます。長い発信音が鳴り、この状態を警告します。

リアラゲッジルーム

! 警告: ラゲッジルームの最大荷物積載量を超えないようにしてください。「車両重量」(7.07 ページ)を参照してください。

! 警告: 固定していない物品を車内に置かないでください。急ブレーキや急な進路変更時、事故発生時に乗員が飛び出した物品により怪我を負うおそれがあります。「荷物の固定」(1.13 ページ)を参照してください。

i 注意: ラゲッジルームは、車両が停止していて、かつニュートラルが選択されていない限り開きません。発車したときにラゲッジルームが開いている場合、メッセージがドライバーディスプレイに表示されます。

i 注意: ラゲッジルームのラッチが外れていたり開いていたりする場合は、ギアを選択できません。車両を移動する必要がある場合は、DまたはRを5秒間押し続けて、これをオーバーライドし、ギアを選択します。

! 警告: ラゲッジルームが開いていたりラッチが外れている場合は、運転者の視界が制限されるため、車両は低速で移動する必要があります。

i 注意: テールゲートを開ける前に、十分な頭上空間があることを確認してください。

運転の前に 開閉

開ける



リモコンキーのラゲッジリリースボタンを押します。ラゲッジルームのロックが完全に解除され、少し開きます。

マクラーレンに電動テールゲートが装備されている場合、テールゲートは自動的に開きます。



または、「ダッシュボード」ボタンを押してラゲッジルームのロックを完全に解除して少し開けます。

テールゲートの後部を持ち上げると、ガスストラットにより完全に開いた位置で支持されます。

マクラーレンに電動テールゲートが装備されている場合、テールゲートは自動的に開きます。

閉じる



警告: 閉じる際は、手や他の物体がテールゲートエッジにかからないようにしてください。

パワークローズ機能を装備した車両では、テールゲートは自動的に閉じ、挟み込み防止機能は、閉じるのを妨げている物体または身体の一部を検知しないことがあります。重大な傷害や車両の損傷が発生することがあります。

運転の前に 開閉

ソフトクローズラッチ装備車の場合、1つ目のキャッチがかかった時点でテールゲートは自動的に引き続き全閉状態になろうとします。挟み込み防止機能は搭載されていないため、ドアとドア開口部の間に物体や身体の一部があってもテールゲートの全閉動作は中止されません。重大な傷害や車両の損傷が発生する可能性があります。

マクラーレンに電動テールゲートが装備されている場合は、クローズボタンを押すとテールゲートは自動的に閉じます。

あるいは、ラゲッジルームリッドをしっかりと下ろし、確実にラッチしたことを確認してください。

 **注意:** ラゲッジルームにリモコンキーを置き忘れないでください。置き忘れた場合、車両がロックされて車外に締め出されてしまうおそれがあります。

 **注意:** 事前に車両をロックしていた場合、テールゲートを閉じるとロックはそのまま方向指示器が点滅します。

 **注意:** パワークローズ機能は、テールゲートのボタンでのみ操作できます。

ラゲッジルームは、テールゲートを閉じるとすぐに盗難防止アラームシステムが有効になります。

リアラゲッジルームの詳細については、「リアラゲッジルームの収納」(1.13 ページ)を参照してください。

運転の前に 荷物の収納

リアラゲッジルームの収納

-  **警告:** リアラゲッジルームの最大荷物積載量を超えないようにしてください。「車両重量」(7.07 ページ)を参照してください。
-  **警告:** 車両のハンドリング特性は、車両に負荷がかかると変化します。
-  **警告:** 負荷が均等に分散されていない場合、車両のハンドリング特性は変化します。
-  **警告:** リアラゲッジルームに大きな物体を収納すると、運転者の視界が遮られることがあります、リアビューミラーを使用できないことがあります。
-  **警告:** リアラゲッジエリアには、固定できない物を収納しないでください。急ブレーキや急な進路変更時、事故発生時に乗員が飛び出した物品により怪我を負うおそれがあります。
-  **警告:** マクラーレンは、マクラーレン荷物固定製品を使用しているかどうかにかかわらず、衝突時に荷物を移動させたことによって生じた損傷または傷害について一切の責任を負いません。
-  **警告:** この車両は、車外で荷物を運ぶようには設計されていません。マクラーレンは、荷物を車外に収納したことによる損傷または傷害について一切責任を負いません。

リアラゲッジルームへのアクセス方法の詳細については、「リアラゲッジルーム」(1.10 ページ)および「リアラゲッジルームを開ける-放電したバッテリー」(6.30 ページ)を参照してください。

荷物の固定

-  **警告:** 各荷物固定ポイントは、最大荷物積載量 15 kg に対応するように設計されています。荷物の重量に応じて、適切な数の荷物固定ポイントが使用されていることを確認してください。



フロントシートの後ろには2つの荷物固定ポイントがあります。



リアラゲッジルームには4つの折りたたみ式荷物固定ポイントがあります。

荷物固定製品と荷物固定製品の正しい使用方法については、マクラーレン代理店にお問い合わせください。

運転の前に 盗難防止システム

アラームシステム

アラームシステムが有効になっているときに以下のいずれかが開けられると、警告が表示され警告音が鳴ります。

- ドア
- フロントラゲッジルームリッド
- リアテールゲート

i 注意: 開けられた開口部を閉じてでもアラームは停止しません。アラームを止めるには車両のロックを解除します。

アラームシステムはまた、以下の機能を備えています。

- けん引防止
- インテリアモーション検知センサー
- センターコンソール収納ボックスの状態検出

i 注意: インテリアモーションセンサーまたは自動アラームを有効にするには、センターコンソールの収納ボックスを閉じておく必要があります。

アラームシステムを有効にする

車両をロックします（キーレスシステムまたはリモコンキーを使用）。約5秒後に盗難防止アラームシステムが有効になります。



車両をロックすると、「セントラルロッキング」ボタンのランプが約60秒間点灯し、この時間を超えると、ランプが点滅し続けます。

アラームシステムを解除する

車両のロックを解除します（キーレスシステムまたはリモコンキーを使用）。アラームが解除され、「セントラルロッキング」ボタンのランプが点滅を停止します。

イモビライザー

イモビライザーはお客様のマクラーレンが不正に始動されるのを防ぎます。

車両が車内にリモコンキーがないことを感知すると、イモビライザーが自動的に起動します。

車内にリモコンキーがあることが感知されると、イモビライザーは解除されます。

i 注意: イモビライザーは、エンジンが停止中の場合のみ作動します。

運転の前に 盗難防止システム

けん引防止

けん引防止は、吊り上げけん引やトレーラー積載による車両の盗難を防止するように設計されています。

どのような方法でも、車両が持ち上げられたり傾けられたりするとアラームが作動します。

けん引防止は車両がロックされてから約 30 秒後に起動し、車両のロックが解除されると停止します。

けん引防止を無効にする



1. けん引防止を無効にするには、イグニッションスイッチをオフにして運転席ドアを開け、運転席ドア後端のボタンを押します。スイッチのランプが点滅し、けん引防止が無効になったことを示します。

i 注意: イグニッションスイッチがオンのままでは、けん引防止を無効にすることはできません。

2. 運転席ドアを閉め、車両をロックしてください（キーレスシステムまたはリモコンキーを使用）。けん引防止は車両のロックを解除するまで無効になります。

インテリアモーションセンサー

車両がロックされているときに、例えば何者かがウィンドウを破ったり開いた窓から車内に侵入するなどして車内で動作が感知されるとアラームが作動します。

インテリアモーションセンサーは車両がロックされてから約 30 秒後に起動し、車両のロックが解除されると停止します。

i 注意: アラームの誤作動を防止するため、車両を離れる際にはウィンドウを閉じ、またインテリアミラーに物などをぶら下げないでください。

インテリアモーションセンサーを無効にする



運転の前に 盗難防止システム

1. インテリアモーションセンサーを無効にするには、イグニッションスイッチをオフにして運転席ドアを開け、運転席ドア後端のボタンを押します。スイッチのランプが点灯し、インテリアモーションセンサーが無効になったことを示します。
-  注意: イグニッションスイッチをオンにしたままでは、インテリアモーションセンサーを無効にすることはできません。
2. 運転席ドアを閉め、車両をロックしてください（キーレスシステムまたはリモコンキーを使用）。インテリアモーションセンサーは車両のロックが解除されるまで無効になります。

運転の前に シート

安全性

⚠ 警告: 運転席シートの調整は車両を停止して行ってください。シートの移動により道路や交通状況への注意がおろそかになったり、ハンドル操作を誤ったりするおそれがあります。結果として、事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告: シートはリモコンキーが車内にないときでも移動できます。お子様だけを車内に残さないでください。偶然シートが動いた場合にお子様が怪我を負うおそれがあります。

⚠ 警告: シートの動作によって手などを挟まれないように注意してください。万一の事故の際に負傷する危険性を低減するため、以下の事項をお守りください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく装着できるように、また同時にフロントエアバッグからできる限り遠い位置となるようにシートの位置を設定してください。運転席シートの位置は、ドライバーが車両を安全に運転できる位置でなければなりません。運転席シートからペダルまでの距離は、ドライバーがペダルを完全に踏み込むことができる距離でなければなりません。ドライバーの胸からエアバッグカバーの中心までの距離は 25 cm (10 インチ) 以上でなければなりません。ステアリングホイールを握ったときに、ドライバーの肘が軽く曲がるようにする必要があります。

- 乗員は常にシートベルトを正しく装着してなければなりません。
- 助手席シートは、無理な姿勢とならない範囲内でできる限り後方に設定してください。

- ⚠ 警告:** マクラーレンは、この車両にチャイルドシートを装着することはお奨めませんが、もし使用する場合は、以下のガイドラインに従ってください。
- 身長 1.5 m (4 フィート 11 インチ) 未満、または 12 歳未満のお子様は、適切なチャイルドシートにより保護しなければなりません。現行の国および地域の法規の特殊要件を参照してください。
 - 助手席シートにチャイルドシートを装着する場合は、シートを最後端の位置に設定してください。

マニュアルシート

マニュアルシートの前後位置調整



レバーを引き上げて好みの位置までシートを移動し、レバーを離してシートをロックします。

⚠ 警告: 運転する前に、必ずシートが確実にロックされていることを確認してください。

i 注意: フットウェル、シートの背後、下あるいは横に物や荷物がないことを確認してください。物が置かれているとシートを損傷するおそれがあります。

運転の前に シート

マニュアルシートの背もたれリクライニング調整

⚠ 警告: 怪我を負う危険性を最小限にするため、背もたれはできる限り垂直に近い角度に設定してください。

i 注意: シートの背もたれは、リアバルクヘッドに触れるまで後ろに倒すことはしないでください。時間の経過とともに損傷の原因となることがあります。



レバーを引き上げてシートの背もたれを必要な位置までリクライニングし、レバーを離します。

マニュアルシートの高さ調整



シートが好みの高さになるまでスイッチを上または下に押します。

i 注意: 高さ調整は運転席シートでのみ行うことができます。

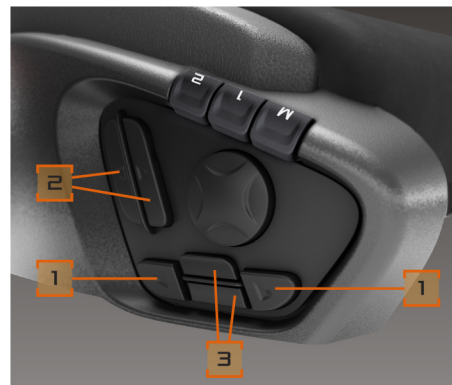
電動シート

電動シート調整

シート調整スイッチはシートベースの側面にあり、車両がアウェイクモードにある場合に使用可能です。「車両の電气的状態」(2.02 ページ)を参照してください。

i 注意: フットウェルまたはシートの背後、下あるいは横に物や荷物がないことを確認してください。物が置かれているとシートを損傷するおそれがあります。

前後位置調整



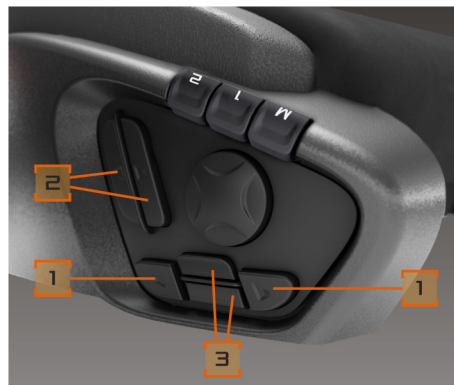
シートが目的の位置になるまでスイッチ (1) を押します。

運転の前に シート

電動シートの背もたれリクライニング調整

⚠ 警告: 怪我を負う危険性を最小限にするため、背もたれはできる限り垂直に近い角度に設定してください。

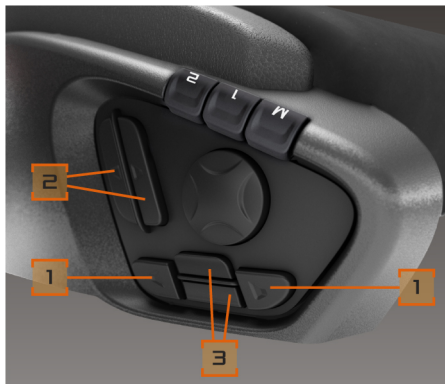
i 注意: 背もたれをリクライニングした場合、シートベースはリアバルクヘッドとの相対位置に応じて自動的に前方に移動します。シートベースを後方に移動した場合、背もたれをいっぱいまでリクライニングすると背もたれが自動的に上がり、リアバルクヘッドとの接触を防止します。



背もたれが目的の位置になるまでスイッチ (2) を押します。

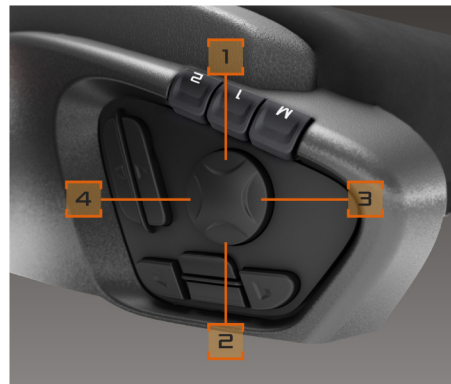
⚠ 警告: 助手席シートの下に物がないことを確認してください。物が置かれていると乗員分類システムが正常に機能しないおそれがあります。

電動シートの高さ調整



シートが目的の高さになるまでスイッチ (3) を押します。

電動シートのランバーサポート調整



ランバーサポートの位置は、(1) を押すと上がり、(2) を押すと下がります。

(3) を押してランバーサポートを膨張させるか、(4) を押して収縮させます。

メモリー位置の保存

個別のシート、ドアミラー、およびステアリングホイールの位置は、ドライバー 2 人分まで保存することができます。

i 注意: ドアミラーおよびステアリングホイールの位置は、運転席の「メモリー」ボタンを使用してのみ保存および呼び出すことができます。

運転の前に シート

- i** 注意: ステアリングホイールの位置は、電動ステアリングコラムが取り付けられている場合にのみ保存および呼び出すことができます。



シート、ミラー、ステアリングホイールを好みの位置に調整します。「ステアリングホイールの電動調整」(1.22 ページ)、「外部ミラー」(1.32 ページ)を参照してください。

「メモリー設定」ボタン (1) を押しながら、同時にいずれかの「メモリーポジション」ボタン (2) を押して設定を保存します。

メモリー位置の呼び出し

- !** 警告: 車両が走行しているときはシート、ミラー、ステアリングホイールの位置を呼び出すことはできません。道路や交通状況への注意がおろそかになるおそれがあります。結果として、運転操作を誤り、事故につながるおそれがあります。

- i** 注意: ドアミラーおよびステアリングホイールの位置は、運転席の「メモリー」ボタンを使用してのみ保存および呼び出すことができます。

- i** 注意: ステアリングホイールの位置は、電動ステアリングコラムが取り付けられている場合にのみ保存および呼び出すことができます。



必要な設定が保存されているボタン (2) を、シート、外部ミラーおよびステアリングホイールの調整が終わるまで押し続けます。

コンフォートイグジット

- !** 警告: シートの動作によって手などを挟まれないように注意してください。

自動シートスライドが有効のときは、イグニッションをオフにして運転席ドアを開くと、運転席シートが後ろいっぱいまで移動し高さが最低位置になり、ステアリングホイールが内側に移動し最高位置になります。

これによって車両から簡単に降りることが可能になります。この機能のスイッチのオン/オフ方法は「コンフォートエントリー/イグジット」(4.10 ページ)を参照してください。

- i** 注意: 電動ステアリングコラムが取り付けられている場合のみ、ステアリングホイールの位置が変化します。

コンフォートエントリー

乗車後、ステアリングコラムの左側にあるコントロールレバーを使用して、運転席シートとステアリングホイールを直前の位置に戻すことができます。

- i** 注意: 電動ステアリングコラムが取り付けられている場合のみ、ステアリングホイールの位置が変化します。

運転の前に シート

この機能は、「乗車/降車快適機能を使用できません。キャンセルするにはOKを押してください」がドライバーディスプレイに表示されている時のみ使用できます。

車両はイグニッションオフ、運転席ドア閉、乗車/降車快適機能がONである必要があります。

1. コントロールレバーを手前に引いて、自動シートスライドを開始します。
2. 機能をキャンセルしたい場合は、コントロールレバーを操作するか、運転席ドアを開けます。「乗車/降車快適機能が復帰します。中止するにはレバーを操作するかドアを開いてください」メッセージがドライバーディスプレイに表示されます。

i 注意: この機能では、自動シートスライドを使用する前の位置にシートとステアリングホイールを戻します。前の位置が保存されたメモリー位置のいずれかでない限り、メモリー位置は使用されません。

3. レバーを使用する前に、シートまたはステアリングホイールを手動で調整すると、機能は失われ、次に自動シートスライドを使用するまで利用できなくなります。

i 注意: エンジンを始動して「シート」または「ステアリングコラム」スイッチを押すか、シートが所定の位置に戻っているときにステアリングコラムの左側にあるコントロールレバーを操作して、自動シートスライドをキャンセルします。

4. 自動シートスライドをキャンセルすると、この機能を使用してシートとステアリングホイールを前の位置に戻すことができなくなります。ドライバーディスプレイのメッセージは消え、コントロールレバーは通常使用時の状態に戻ります。この機能は、次回自動シートスライドが使用されたときに利用可能になります。
5. シートとステアリングホイールが前の位置に戻ると、ドライバーディスプレイのメッセージが消えて、プロセスが完了したことを確認する警告音が鳴ります。

オートヒートシート

オートヒートシートには、センターインフォテイメントタッチスクリーンの温度調節画面を使用してアクセスすることができます。「オートヒートシート」(5.09 ページ)を参照してください。

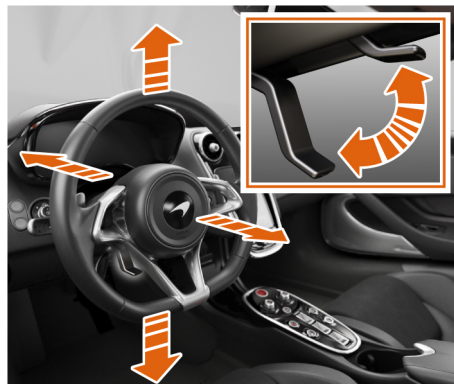
i 注意: オートヒートシート機能は、エンジンが作動している場合にのみ使用可能です。

運転の前に ステアリングホイールとステアリングコラム

ステアリングホイールの手動調整

⚠ 警告: ステアリングホイールの位置調整は必ず停車して行ってください。道路や交通状況への注意がおろそかになるおそれがあります。結果として、運転操作を誤り、事故につながるおそれがあります。

ステアリングホイールは高さや前後位置を調整することができます。



レバー（拡大図）を下に押し、以下の条件を満たすようにステアリングホイールの位置を決めます。

- ステアリングホイールを握ったときに、腕が若干曲がった状態になること。

- 両足を自由に動かすことができること。
- ドライバーディスプレイ上の情報がすべてはっきりと見えること。

レバーを引き上げてステアリングホイールを固定します。運転する前に、レバーがロックされていることを確認してください。

ステアリングホイールの電動調整

⚠ 警告: ステアリングホイールの位置調整は必ず停車して行ってください。道路や交通状況への注意がおろそかになるおそれがあります。結果として、運転操作を誤り、事故につながるおそれがあります。

ステアリングホイール位置は、車両がアウェイクモードの場合に、コラムコントロールスイッチを使用して高さや前後位置を調整することができます。「車両の電气的状態」(2.02 ページ)を参照してください。

コラムコントロールスイッチはステアリングコラムの左側にあります。



1. 高さ: 上昇

運転の前に ステアリングホイールとステアリングコラム

2. 高さ: 下降
3. リーチ: 遠
4. リーチ: 近

コラムコントロールスイッチを1と2の方向に移動すると、ステアリングホイールの高さを上下に調整できます。

コラムコントロールスイッチを3と4の方向に移動すると、ステアリングホイールの位置を前後に調整できます。

i 注意: 「コラムコントロール」スイッチでは、ステアリングホイールの位置を一度に一方方向にしか調整できません。

コラムコントロールスイッチを使用して、次の状態になるようにステアリングホイールを調整します。

- ステアリングホイールを握ったときに、腕が若干曲がった状態になること。
- 両足を自由に動かすことができること。
- ドライバーディスプレイ上の情報がすべてはっきりと見えること。

ステアリングホイールの自動調整

電動シートを装着している場合は、シートとミラーの位置を保存したときに電動ステアリングホイールの位置も保存されます。「メモリー位置の保存」(1.19 ページ)を参照してください。

! 警告: ステアリングホイールの移動中はホイールやコラムに手を触れないようにしてください。

i 注意: 「コラムコントロール」スイッチを操作することで、あらゆる自動調整動作をキャンセルできます。

コンフォートエントリー/イグジット

コンフォートエントリー/イグジットが有効のときは、エンジンをオフにして運転席ドアを開くと、ステアリングホイールとコラムが内側にいっぱいまで移動し（ドライバーから遠ざかる方向）、一番上まで上がった状態になります。

この機能のスイッチのオン/オフ方法は「コンフォートエントリー/イグジット」(4.10 ページ)を参照してください。

ステアリングホイールとコラムは、ステアリングコラムの左側にあるコントロールレバーを使用して直前の位置に戻すことができます。「メモリー位置の保存」(1.19 ページ)を参照してください。

! 警告: ステアリングホイールの移動中はホイールやコラムに手を触れないようにしてください。

i 注意: 「コラムコントロール」スイッチを操作することで、あらゆる自動調整動作をキャンセルできます。

ホーン

ホーンを操作するには、ステアリングホイールの中央を押します。

i 注意: ホーンはイグニッションスイッチがオフのときでも作動します。

運転の前に 乗員の安全

シートベルト

シートベルトとチャイルドシートは衝突時の衝撃に対し乗員を拘束し、それによって車内衝突による負傷やむち打ち症の危険を最小限に抑制するための最も有効な手段です。

 **警告:** シートベルトは着用していないときや誤った着用をしたとき、あるいはシートベルトバックルに完全に締結されていないときは本来の機能を果たすことができません。怪我を防止するために、乗員全員が常に各々のシートベルトを正しく着用するようにしてください。

- ベルトは以下の条件を満たすように装着してください。
- 骨盤のできる限り低い位置、すなわち腹部ではなく股関節部にかける。
 - 体に密着させる。
 - ねじれをなくす。
 - 肩の中央部を通る位置にかける。
 - ベルトが首と肩の間の鎖骨の中心を通るようにかける。
 - 肩ベルトを上方向に引き、ベルトを骨盤部に密着させる。

乗員が使用しているシートベルトで他の物体を固定しないでください。
あまり厚手の衣類を着用するのは避けてください。

鋭い縁や壊れやすい物、特にそれらの物が乗員の衣類に付いていたりポケットに入っていたりする場合、その部分にはシートベルトをかけないでください。シートベルトが損傷したり、乗員が負傷したりするおそれがあります。

各シートベルトは一度に1人の乗員しか使用することはできません。

決してお子様を他の乗員の膝に座らせないでください。

身長 1.5 m (4 フィート 11 インチ) 未満、または 12 歳未満のお子様は、適切なチャイルドシートにより保護しなければなりません。チャイルドシートはメーカーの取扱説明書に従って装着してください。現行の国および地域の法規の特殊要件を参照してください。

 **警告:** 妊娠中の女性は、母親と胎児の最大限の安全のためにシートベルトを着用する必要があります。腰ベルトは腹部の下の方の部分に、肩ベルトは胸部中央から腹部側面を通るようにかけます。ベルトが緩んだりねじれたりしていないことを確認してください。

 **警告:** シートベルトが本来の保護水準を発揮するのは、シートバックレストを垂直に近い位置に設定し、乗員が真っ直ぐに座っている場合のみです。

 **警告:** シートベルトやバックルが極端に汚れたり損傷したりしていると、シートベルトは正常に機能しません。ベルトラッチがバックルと完全に締結できることを確認してください。

シートベルトに損傷がないか、鋭い縁に当たっていたり引っかかっていたりしないかを定期的に点検してください。事故の際にベルトが裂け、乗員が怪我を負うおそれがあります。

ベルトに損傷がある場合や、重い負荷がかかった場合はシートベルトの点検を依頼してください。シートベルトの修理や交換は必ずマクラレーン代理店に依頼してください。

運転の前に 乗員の安全

シートベルトの着用



1. 無理のない姿勢で、操作装置類に容易に手が届くようにシートを調整します。
2. シートベルトラッチを持ち、体の前を通します。その際、ベルトが首と肩の間の鎖骨の中心を通り、胸部から骨盤に至るようにかけます。
3. ベルトを正しい位置に配置してラッチをバックルに差し込み、カチッと音がして締結したことが確認できるまで押し込みます。
バックルからラッチを引き、確実にラッチがはまり込んでいるか確認してください。

シートベルトテンショナー

シートベルトにはベルトテンショナーが組み込まれています。ベルトテンショナーは事故の際にシートベルトに張力をかけ、乗員を強く引っ張ります。

⚠ 警告: 助手席に乗員がいない場合は、ベルトラッチを助手席のシートベルトバックルに差し込まないでください。事故の際にベルトテンショナーが作動する可能性があります。

⚠ 警告: ベルトテンショナーは誤った座位置や間違った装着を補正することはありません。ベルトテンショナーは乗員をバックレストの方向に引き戻しはしません。

ベルトテンショナーは正面衝突または追突が発生し、車両が急減速または急加速した場合に、ベルトラッチがシートベルトバックルに締結されていることを条件としてベルトごとに作動します。

ベルトテンショナーが作動するとパンという音がし、場合によっては少量の煤塵が放出され、補助拘束装置警告灯が点灯します。

⚠ 警告: ベルトテンショナーが作動したら（または、作動したかどうか分からない場合は）、絶対に車両を運転しないでください。直ちに最寄りのマクラーレン代理店にご相談ください。

ベルトフォースリミッター

シートベルトにはベルトフォースリミッターが組み込まれています。ベルトフォースリミッターはフロントエアバッグに同調し、衝撃を受けた際にベルトにかけられた張力を徐々に解放し、乗員が受ける力を低減します。

シートベルト警告灯

⚠ 警告: ドライバーディスプレイのシートベルト警告灯と警告音が、車両の乗員に対し各々シートベルトを着用するように促します。ドライバーと乗員がシートベルトを着用するとシートベルト警告灯が消灯し、警告音が止まります。

運転の前に 乗員の安全

補助拘束装置 (SRS)

エアバッグシステム

お客様のマクラレーンには以下のエアバッグが装備されています。

- 運転席フロントエアバッグ (ステアリングホイール内)
- 助手席フロントエアバッグ (ダッシュボード上部内)
- サイドヘッドエアバッグ (ドア内)

警告: エアバッグが正常に作動するのは、ステアリングホイール、助手席エアバッグカバー、ドアトリムが覆われていない場合のみです。

警告: エアバッグは正しく着用したシートベルトの代用となるものではなく、シートベルトが提供する乗員保護の水準を高めるものです。

警告: 万一の事故の際に怪我を負う危険性を低減するため、以下の事項を遵守してください。

- ドライバーの胸部からエアバッグカバーまで、少なくとも 25 cm (10 インチ) 以上の距離を確保してください。
- 車両が走行中はダッシュボード上にかがみ込まないでください。
- ダッシュボードに足を乗せないでください。

- ステアリングホイールはリムの外側を握ってください。ステアリングホイールの内側を握っていると、エアバッグが展開したときに怪我を負うおそれがあります。
- 乗員、特にお子様は、車内からドアに寄りかからないでください。
- 乗員とエアバッグの展開空間の間に他の物体がないことを確認してください。
- エアバッグは高速で展開するため、エアバッグの膨張によって怪我を負う危険性があります。

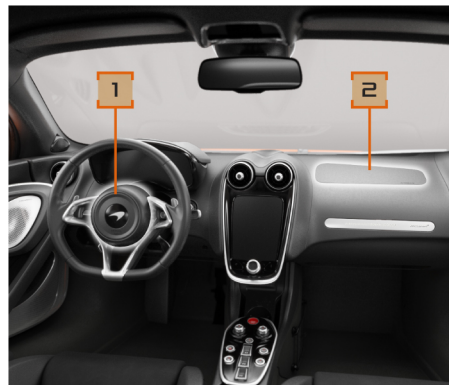
エアバッグの交換

警告: マクラレーンでは部品の動作寿命によってエアバッグが不作動となることがないよう、15 年ごとにエアバッグを交換することをお奨めしています。

エアバッグシステムの修正

障害のある方が車両を使用できるようにエアバッグシステムを修正する必要がある場合は、最寄りのマクラレーン代理店にご相談ください。マクラレーン代理店に関する詳しい情報は、サービス保証ガイドを参照してください。

フロントエアバッグ



運転席フロントエアバッグ (1) はステアリングホイールの正面に展開し、助手席フロントエアバッグ (2) はダッシュボードの正面上方に展開します。

フロントエアバッグは、乗員が頭部および胸部に怪我を負う危険性をより低減できるとシステムが判断したときに展開します。

注意: 助手席フロントエアバッグは、オーバーヘッドコンソールの「PASSENGER AIR BAG OFF (助手席エアバッグ OFF)」警告灯が点灯していないときだけ展開します。「乗員分類システム - 助手席」(1.27 ページ)を参照してください。

運転の前に 乗員の安全

サイドヘッドエアバッグ

⚠ 警告: サイドヘッドエアバッグの展開時に乗員が怪我を負う危険性を低減するために、必ず次の事項をお守りください。

- 乗員とエアバッグの展開空間の間には物を置かない。
- ドアにアクセサリ等を取り付けない。
- 衣服のポケットに重い物や鋭い物体を入れておかない。
- 乗員、特にお子様は、車内からドアに寄りかからないでください。



サイドヘッドエアバッグは各ドアパネルの上部に組み込まれており、車両の衝撃が発生する側の乗員が頭部に怪我を負う危険性をより低減できるとシステムが判断したときに展開します。

i 注意: 助手席側ヘッドエアバッグは、助手席に乗員がいなければ展開しません。

乗員分類システム - 助手席

このシステムはシートベースに内蔵された容量性重量マットを使用し、同時に助手席シートベルトのシートベルトバックルが締まっているかを確認することで、助手席の乗員の有無を判定します。このシステムは、エアバッグが必ず大人用に展開するようにするために、助手席にチャイルドシートの幼児がいる場合や助手席に誰もいない場合は、助手席フロントエアバッグをオフにします。



エアバッグの状態はオーバーヘッドコンソールの「PASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグ OFF）」警告灯により表示されます。

「PASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグ OFF）」警告灯はイグニッションスイッチをオンにすると点灯し、5秒後に消灯します。

この警告灯は、助手席に乗員がいなかったときやチャイルドシートが装着されているときは継続点灯します。

i 注意: 「PASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグ OFF）」警告灯は、助手席に大人の乗員がいなかった限り常時点灯します。

運転の前に 乗員の安全

「PASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグ OFF）」警告灯が点灯しているときは、助手席フロントエアバッグは非アクティブになります。助手席側サイドヘッドエアバッグおよびベルトテンショナーは、「PASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグ OFF）」警告灯が点灯していても常にアクティブです。

 **警告:** チャイルドシートを装着しているのに「PASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグ OFF）」警告灯が点灯していない場合は、フロントエアバッグは非アクティブにはなっていません。助手席エアバッグが展開した場合、お様が重大な怪我を負うおそれがあります。

 **警告:** 乗員分類システムが正しく機能するように、マクラレーンは座席の下に物を置かないことをお奨めしています。また、マクラレーンは毛布、クッション、あるいはシートカバー、ヒーター、マッサージ器などのアフターマーケット機器などを追加装備しないことをお奨めしています。これらのアイテムは、乗員分類システムの性能に著しく影響します。マクラレーンは、シートカバー、ヒーター、マッサージ器などのアフターマーケット機器の取り付けはしないことを推奨しています。

 **警告:** 作動中の電子部品または12Vのアクセサリソケットに接続されている電子部品は、絶対に助手席に置かないでください。乗員分類システムの動作に影響することがあります。

 **警告:** 乗員分類システムに何らかの液体（雨水を含む）がかかった場合、性能に影響することがあります。シートに乗員がいない場合でも「PASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグ OFF）」警告灯が点灯していないときは、チャイルドシートを取り付けたり乗員をシートに座らせたりしないでください。速やかに最寄りのマクラレーン代理店にご相談ください。

 **警告:** 先の尖ったものを助手席に置かないでください。シートクッションが破裂すると、乗員分類システムが損傷する恐れがあります。

 **警告:** 乗員分類システムが正しく機能するように、チャイルドシートシステムの下には決して物（クッションなど）を置かないでください。チャイルドシートのベース全体が常にシートに接していなければなりません。チャイルドシートを正しく取り付けしていない場合、万一の事故の際に本来の保護水準を提供できず怪我の原因になります。

エアバッグの展開

衝突が発生すると、補助拘束装置がエアバッグを展開して乗員を保護します。このシステムは乗員に可能な限り最高の保護を提供するために、展開するエアバッグの数や、各エアバッグを衝突の激しさに応じてどの程度膨張させるかを制御します。

このシステムはセンサーを使用して、迅速に衝突の重大度と車両乗員数を評価します。これらすべての要素がわかると、システムは必要なエアバッグを展開し、インパクトゾーンの膨張圧を調整して乗員の安全を確保します。

事故後、エアバッグは膨張プロセスの後ほぼ即座に減圧を開始します。エアバッグを膨張させるために使われたガスはエアバッグの通気口から排出され、それによって乗員が衝撃によって重大な怪我を負う危険性を低減します。

エアバッグは乗員の動きを減速し、制限することによって、身体への負荷を低減します。ただし、エアバッグは正しく装着したシートベルトに取って代わるものではありません。

 **警告:** エアバッグが展開するとパンという音がし、少量の微粒子が放出されることがあります。この騒音はお客様の聴覚に害を与えることはありません。また、微粒子は健康上危険なものではなく、火災の発生を示すものでもありません。この微粒子は、喘息やその他の呼吸器系の問題がある方の場合、一時的に呼吸困難を引き起こす可能性があります。呼吸困難を防止するには速やかに車外に出るか、ウィンドウを開けてください。

 **警告:** エアバッグの展開後は、エアバッグの部品が高温になっていますので触れないでください。エアバッグの交換は、マクラレーン代理店に依頼してください。

運転の前に 乗員の安全

正規外着座（OOP）

お客様のマクラレーンのエアバッグシステムは、正規外着座（OOP）状態の小さいお子様に対しの確に動作することを試験で確認済みです。OOP状態は衝突によってエアバッグが展開した際に、小さいお子様がパッセンジャーシートの不適切な位置に座っていた場合に発生します。

補助拘束装置（SRS）警告灯



補助拘束装置は、イグニッションスイッチがオンでエンジンが動作中のとき、定期的にセルフテストを実行します。

ドライバーディスプレイのこの警告灯はイグニッションスイッチをオンにすると点灯し、エンジンが始動してから5秒後に消灯します。



警告: 以下のいずれかの事項が発生した場合は、直ちにマクラレーン代理店にご相談ください。

- イグニッションスイッチをオンにしても警告灯が点灯しない
- エンジン始動後5秒が経過しても警告灯が消灯しない
- エンジン始動後に警告灯が再び点灯する

安全機能

万一事故に巻き込まれた場合、お客様や救急隊員を支援するために以下の事象が発生します。

- ドアロックの解除
- ハザード警告灯の点灯
- 室内照明の点灯

場合により、燃料システムのスイッチがオフになります。

チャイルドパッセンジャー



警告: お子様をチャイルドシートで安全に固定している場合でも、お子様だけを車内に残さないでください。お子様が車両の一部で思わぬ怪我をしたり、ドアを開け、暑さや寒さに長時間さらされて重傷を負ったり、命にかかわる傷害を受けるおそれがあります。

お子様がドアを開けた場合、それによって他人に怪我をさせたり、車両から抜け出して思わぬ怪我をしたり、通過する車両によって怪我をするおそれがあります。

チャイルドシートシステムを直射日光にさらしてはなりません。チャイルドシートシステムの金属部品でお子様が火傷をするおそれがあります。

重い物体や堅い物体をしっかりと固定せずに車内に置かないでください。

積荷を固定しなかったり、不適切な場所に置いたりすると、急ブレーキや急激な方向変更あるいは事故の際にお子様は怪我をする危険が増大します。

チャイルドシートシステム

マクラレーンは、この車両にチャイルドシートを装着することはお奨めしませんが、もし使用する場合は、以下のガイドラインに従ってください。

運転の前に 乗員の安全

身長が1.5 m（4 フィート 11 インチ）未満または12才未満のお子様を同乗させるときは、その体重に合った適切なチャイルドシートにしっかり固定してください。詳細については、マクラレーン代理店にお問い合わせください。

現行の国および地域の法規の特殊要件を参照してください。



警告: 助手席エアバッグが作動している場合は、チャイルドシートシステムを後ろ向きに固定しないでください。状態は「PASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグOFF）」警告灯に表示されます。



警告: 「PASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグ OFF）」警告灯が点灯していない場合、助手席ではチャイルドシートシステムを後ろ向きに使用してはなりません。助手席では、チャイルドシートシステムを前向きに使用してください。助手席側の警告ラベルで確認することができます。

警告: 助手席にチャイルドシートを前向きに取り付ける場合は、助手席を完全に後方に移動し、高さを最も低い位置にする必要があります。手動の助手席は高さの調整ができません。

警告: チャイルドシートシステムを正しく取り付けしていない場合、事故や急ブレーキの際にお子様固定されず、怪我をするおそれがあります。チャイルドシートシステムを取り付けるときは、チャイルドシートの正しい使用に関するメーカーの指示に従ってください。

KISI チャイルドシート機能

お客様のマクラレーンには、シートベルトを一時的にロックしてチャイルドシートを助手席にしっかりと固定するように設計された、助手席側のオートマチックロックシートベルト、KISIシステムが装着されています。

1. 助手席側シートベルトを完全に引き出します。KISIシステムは、シートベルトを完全に引き出さない限り作動しません。

注意: 車両を坂道に駐車させている場合、慣性ロックによりシートベルトが引き出せない場合があります。この状態が生じた場合は、シートベルトを少し緩めてから、慣性ロックにかからないように慎重にシートベルトを引き出します。

2. チャイルドシートメーカーの説明に従ってシートベルトをチャイルドシートに渡して、ベルトラッチをバックルにかみ合わせます。

運転の前に 乗員の安全

3. 下部セクションが固定装置にしっかりと締め付けられ、上部セクションが収縮できるようにベルトを調整します。ベルトが収縮し、KISIシステムはカチッと音をたてて固定されます。
4. シートベルトを可能な限り収縮したら、上部セクションを引っ張ってシートベルトがロックされていることを確認します。



注意: シートベルトが完全に収縮すると KISI システムは解除され、通常のシートベルトとして装着できます。KISI システムは一度ロックを解除すると、次にチャイルドシートを使用するときにシートベルトを完全に引き出した状態からあらためて KISI システムを作動させる必要があります。

運転の前に ミラー

安全性

 **警告:** 運転の前に、道路や交通の状況を最も良く視認できるようにすべてのミラーを調整してください。

インテリアミラー



ミラー下部のスイッチ (2) を押して、インテリアミラーの自動調光機能を有効または無効にします。自動調光が有効な場合、インジケータライト (1) が点灯します。

有効な場合、ライトセンサー (3) が明るい光を検出すると内部ミラーが自動的に暗くなります。

リバースギアが選択された場合または周囲の光レベルが高い場合、自動調光機能は無効になります。

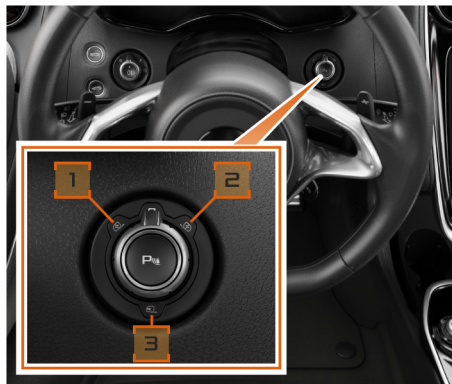
外部ミラー

 **警告:** 一部の市場では、外部ミラーに凸面鏡を採用しています。こうしたミラーは視野が広がりますが、鏡に映った像の大きさが小さくなります。これは、対象物が見かけよりも実際には近くにあることを意味します。
後続車までの距離を誤認し、事故の原因となることを防止するために、車線変更時は後続車までの実際の距離を確認してください。

ステアリングホイールとセンターコンソール間のダッシュボードに外部ミラーの調整つまみがあります。

運転の前に ミラー

ミラーの調整



1. イグニッションスイッチをオンにします。
2. 左側ミラーを調整する場合は調整つまみを左 (1) に、右側ミラーを調整する場合は右 (2) に回します。
3. 調整つまみを上下左右に動かし、ミラーを好みの位置に調整します。

外部ミラーを折りたたむ

1. イグニッションスイッチをオンにします。
2. ミラーを折りたたむには、調整つまみを (3) の位置に回します。
3. ミラーを展開するには、調整つまみを (3) 以外の位置に回します。

i 注意: スイッチが (3) の位置にあるときは、スイッチを動かすまでミラーは折りたたまれています。

外部ミラーの自動折りたたみ

車両をロックしたときに、外部ミラーが自動的に折りたたまれるように設定することができます。ミラーは車両のロックを解除したときではなく、ドアを開けたときに展開されます。「自動折りたたみ」(4.10 ページ)を参照してください。

リバース時のミラーディップ

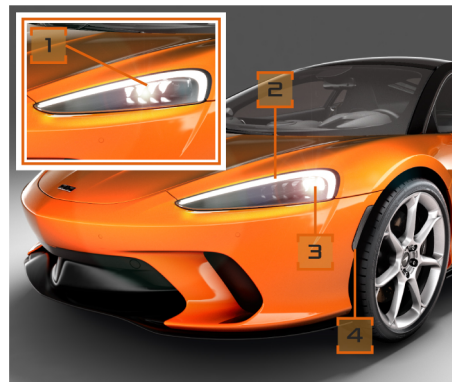
ギアをリバースにシフトしたときに、外部ミラーが下向きになるように設定することができます。これによって、車両後方の地面を確認できます。「リバース時の作動」(4.11 ページ)を参照してください。

熱線入りミラー

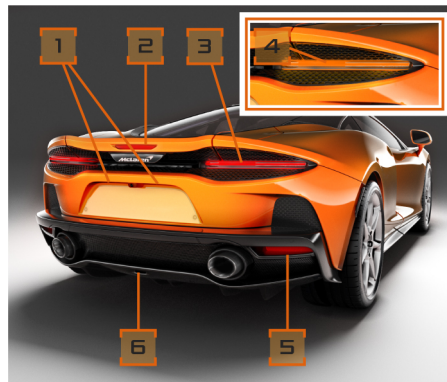
エンジン作動中にリアウィンドウの熱線をオンにすると、外部ミラーの熱線もオンになります。気温が 5°C (41°F) 以下になったときも、これらの熱線がオンになります。「熱線入りリアウィンドウ」(5.10 ページ)を参照してください。

運転の前に 照明

外部照明



1. ヘッドランプハイビーム
2. 方向指示器/サイドランプ
3. ヘッドランプロービーム
4. サイド方向指示器

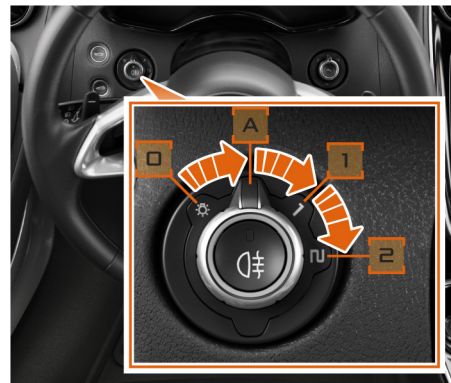


1. ナンバープレートランプ
2. センターハイマウントストップランプ
3. ストップランプ/テールランプ
4. 方向指示器
5. リフレクター
6. リバースランプとリアフォグランプ

ランプスイッチ

⚠ 警告: ランプは霧が発生しても自動的に点灯することはありません。
オートマチックランプコントロールはあくまでも補助機能であり、車両のランプを点灯する責任は常にドライバーが負います。

ランプスイッチはステアリングホイールと運転席ドアの間にあり、以下のポジションがあります。



(0) の位置では、ランプはオフです。

つまみを (A) の位置に回すと、オートマチックランプコントロールがオンになります。

運転の前に 照明

つまみを (1) の位置に回すとサイドランプが、(2) の位置に回すとヘッドランプが点灯します。サイドランプ警告灯がドライバーディスプレイに点灯します。

オートマチックランプコントロール

周辺光が所定のレベルより下がると、サイドランプとロービームヘッドランプが自動的に点灯します。

オートマチックランプコントロールをオンにするには、ランプスイッチを (A) の位置に回します。

i 注意: ランプスイッチが (A) 位置に設定されているときに車両が雨を検知した場合、現在の外部ランプの照明レベルに関わらず、ロービームヘッドランプが自動的に点灯します。

i 注意: ランプスイッチが位置 (A) のときにリアフォグランプを点灯すると、周囲の光レベルに関わらず、ロービームヘッドランプも点灯します。リアフォグランプを消灯すると、周囲の光の条件に応じて、ロービームヘッドランプも消灯します。

サイドランプ

サイドランプは、ヘッドランプの下側に配された一連の発光ダイオードの組み合わせです。

サイドランプ、テールランプ、ナンバープレートランプは、ランプスイッチを (1) の位置に回すと点灯します。

 ドライバーディスプレイにサイドランプ通知灯が点灯します。

i 注意: 周辺光が所定のレベルより下がると、ロービームヘッドランプも自動的に点灯します。

ロービームヘッドランプ

ヘッドランプをオンにするには、ランプスイッチを (2) の位置に回します。

 ドライバーディスプレイにロービーム通知灯が点灯します。

i 注意: お客様のマクラーレンは、道路の左側または右側のどちらを走行しても同一のロービームヘッドランプ設定が適用されません。

ハイビームヘッドランプ



ハイビームに切り替えるには、ハイビームレバーを奥に押します。

 ドライバーディスプレイにハイビームヘッドランプ通知灯が点灯します。

ロービームに戻すには、ハイビームレバーを手前に引きます。

パッシングランプ

ハイビームレバーを手前いっぱいに引きます。

ハイビームレバーを引いている間だけハイビームヘッドランプが点灯します。

運転の前に 照明



ドライバーディスプレイにハイビームヘッドランプ通知灯が点灯します。

ヘッドランプ

スタティックアダプティブヘッドランプ



スタティックアダプティブヘッドランプは、ヘッドランプを点灯しながら旋回するとき、進行方向を強く照らします。

高速道路ファンクションライティング

高速道路ファンクションライティングは、車速が事前設定したしきい値を超える場合に、ヘッドランプ照明を強くします。

リアフォグランプ



警告: ランプは霧が発生しても自動的に点灯することはありません。



注意: リアフォグランプが作動するのは、ランプスイッチが (A) または (2) の位置にある場合のみです。



ランプスイッチの中央にあるリアフォグランプボタンを押します。



ドライバーディスプレイにあるリアフォグランプ通知灯およびスイッチ内のランプが両方とも点灯します。

運転の前に 照明

i 注意: ランプスイッチが位置 (A) のときにリアフォグランプを点灯すると、周囲の光レベルに関わらず、ロービームヘッドランプも点灯します。リアフォグランプを消灯すると、周囲の光の条件に応じて、ロービームヘッドランプも消灯します。

方向指示器



左方向指示器をオンにするには、方向指示器/ハイビームレバーを下 (1) に押します。

右方向指示器をオンにするには、方向指示器/ハイビームレバーを上 (2) に押します。



ドライバーディスプレイにある対応する通知灯が点滅します。

レバーはステアリングホイールを直進位置に戻すと、元の位置に戻ります。

方向指示器 - 車線変更

高速道路で車線変更する際には方向指示器/ハイビームレバーを抵抗が感じられる位置まで動かします。該当する方向指示器が3回点滅します。

照明に関する詳細については「ランプスイッチ」(1.34 ページ)を参照してください。

運転の前に 照明

ハザード警告灯

ハザード警告灯はイグニッションスイッチがオフの場合も作動します。ハザード警告灯はエアバッグが展開したときには安全機能として自動的に点灯します。

ハザード警告灯の操作



1. 「ハザード警告灯」ボタンを押します。
2. すべての方向指示器ランプとドライバーディスプレイの両方の方向指示器警告灯が点滅します。
3. ハザード警告灯をオフにするには、再度ハザード警告灯ボタンを押します。

i 注意: ハザード警告灯が自動的にオンになった場合は、「ハザード警告灯」ボタンを1回押してハザード警告灯をオフにしてください。

パニックアラーム

パニックアラーム機能は、ホーンの鳴動と方向指示器ランプの点滅を繰り返すことによって注意を引くように設計されています。

パニックアラームはハザード警告灯ボタンを3秒以上押し続けることによって作動させることができます。

ホーンはパニックアラームが60秒間作動し続けると停止しますが、方向指示器ランプは点滅を続けます。ホーンはハザード警告灯ボタンを3秒以上押し続けることによって再び作動させることができます。

パニックアラームをオフにするには、「ハザード警告灯」ボタンを短く押します。

パーキングランプ



i 注意: パーキングランプはイグニッションスイッチがオフのときにのみ作動します。

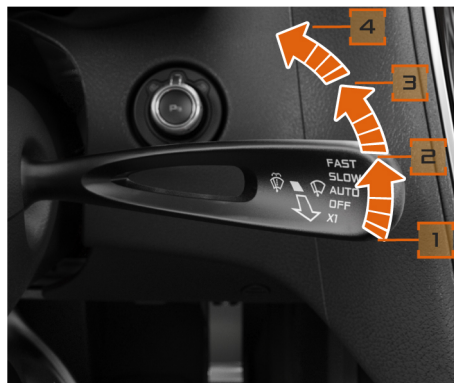
1. パーキングランプをオンにするには、左側の場合は方向指示器/ハイビームレバーを下に、右側の場合は上に、抵抗が感じられる位置まで押します。車両にロックがかかると、選択したパーキングランプが点灯します。
2. パーキングランプをオフにするには、左側の場合は方向指示器/ハイビームレバーを下に、右側の場合は上に、抵抗が感じられる位置まで押します。すると、選択したパーキングランプがオフになります。

運転の前に 照明

-  注意: 両側のパーキングランプを作動させるには、方向指示器/ハイビームレバーを押し下げしてから押し上げます。無効にするには、方向指示器/ハイビームレバーを再び押し下げしてから押し上げます。

運転の前に ウォッシャーとワイパー

フロントウィンドウワイパー



1. フロントウィンドウワイパーオフ
2. 自動ワイパー
3. 低速ワイパー
4. 高速ワイパー

i 注意: 雨天時以外はフロントウィンドウワイパーを作動させないでください。ワイパーを作動させると、ほこりなどによりワイパーブレードやフロントウィンドウに思いがけない傷が付くことがあります。

フロントウィンドウワイパーの操作

1. イグニッションスイッチがオンになっていることを確認してください。
2. ワイパーレバーを必要な位置に移動します。

i 注意: フロントウィンドウワイパーのスイッチがオンのときに車両が停止すると、フロントウィンドウワイパーは車両が動き出すまで自動的に間欠ワイパーに切り替わります。

自動ワイパー

インテリアミラーの裏側のフロントウィンドウに設置されているレインセンサーがウィンドウの水滴量を計測し、最適な速度でワイパーを作動させます。

自動ワイパーを選択するには、フロントウィンドウワイパーレバーを自動ワイパーポジション(2)に設定します。

ワイパーが拭き取り動作を1回行います。それ以降の拭き取り頻度は、フロントウィンドウの濡れ具合によって変わります。

自動ワイパーポジションは、雨模様もしくは降雨時以外は選択しないでください。

レインセンサーの感度の調整方法については「ワイパー感度」(4.11 ページ)を参照してください。

低速ワイパー

ワイパーを低速で動作させるには、ワイパーレバーを(3)の位置に設定します。

スイッチを切るには、レバーを(1)の位置に設定します。

高速ワイパー

ワイパーを高速で動作させるには、ワイパーレバーを(4)の位置に設定します。

スイッチを切るには、レバーを(1)の位置に設定します。

一回拭き取り



運転の前に ウォッシャーとワイパー

1. 低速で1回だけの拭き取りを行うには、ワイパーレバーを短く押し下げて離します。ワイパーが1回低速動作します。ウォッシャーは作動しません。
2. 高速で1回だけの拭き取りを行うには、ワイパーレバーを下に押し続けます。レバーを離すまで、フロントウィンドウワイパーが連続高速拭き取りを実行します。

フロントウィンドウウォッシャー/ワイパー



ワイパーレバーを手前に引きます。
フロントウィンドウウォッシャー/ワイパーは、レバーを引いている間動作します。レバーを2秒以上引くと、ワイパーは高速で動作します。

レバーを離すと、ワイパーはその時点の動作サイクルを完了して収納位置に戻ります。一定時間後に、ワイパーはもう1回動作してフロントウィンドウに残ったウォッシャー液を拭き取ります。

i 注意: ウォッシャージェットの位置は車両製造時に設定されており、調整の必要はありません。不具合が発生した場合は、マクラーレン代理店にご相談ください。

ワイパー停止位置:

通常の停止位置に加えて、別の位置が2つあります。

車両がロック、スリープまたはアウェイクモードになっていることを確認します。

ワイパーコントロールレバーを手前に引くと、ワイパーはレバーを引くたびに次の停止位置に移動します。

冬季用停止

ワイパーを垂直に停止させて、豪雪時期のワイパーフーム損傷のリスクを減らし、積もった雪を簡単に取り除けるようにします。

サービス停止

ワイパーを斜めに停止させて、ワイパーブレードを交換しやすくします。「ワイパーブレードの交換」(6.34 ページ)を参照してください。

通常停止

ワイパーをフロントウィンドウの下端に沿って水平に停止させます。

運転の前に 車両リフト

車両リフト

i 注意: ドライバーディスプレイの「車両リフト」アイコンが琥珀色になっているか、車両リフトの故障に関するメッセージがドライバーディスプレイに表示されている場合、システムは使用できません。その場合は車両を高速で運転せず、速やかにマクラール代理店にご連絡ください。

車両リフト機能には、次のオプションがあります。

- ・「車両リフト - 上昇」(1.42 ページ)
- ・「車両リフト - 下降」(1.43 ページ)

車両リフトを使用すると、現在の車高に応じて車両を上昇/下降させることができます。

車高を上昇させることができるのは、走行速度が50km/h (31mph) 以下のときだけです。60km/h (37mph) を超えると、車高は自動的に下降します。

i 注意: サスペンションは長時間上げた状態を保つことができますが、時間が経つと緩んで下がる可能性があります。

車両を長時間上昇したままの位置にしておくと、次にエンジンを始動したときにシステムがリセットされ、車両が通常的車高に戻る場合があります。

走行中に車両リフトを使用した場合、ステアリングの感覚がわずかに変化することがあります。これは異常ではなく、車両の動作に影響を与えるものではありません。

- i** 注意: 車両リフトは、エンジンが作動している場合にのみ使用可能です。
- i** 注意: 発進モードがアクティブの場合、車両リフトは使用できません。
- i** 注意: 車両リフトの昇降中は、車両のハンドリングモードは使用できません。
- i** 注意: エンジンがエコスタート-ストップシステムによって停止されている間に車両リフトが要求された場合、エンジンは自動的に再始動します。

車両リフト - 上昇

! 警告: 車両リフトをジャッキシステムとして使用しないでください。車両リフトを使用して車両の底部に入ると、重傷を負う可能性があります。

- i** 注意: 車両が通常的車高の場合、車両前部の上昇オプションのみ使用できます。
- i** 注意: ステアリングホイールを過度に回すと、車両リフトの開始が遅れます。
- i** 注意: 車両を運転する前には、必ずディスプレイの車両リフトアイコンを確認してください。



車両を上昇させるには、コントロールレバーの端にあるボタンを押します。

i 車高の変更を確認する上昇音が聞こえ、ドライバーディスプレイの車両リフトアイコンが点滅します。

車両の上昇中にエンジンを停止するとシステムは停止し、エンジンが再始動したときにのみ上昇を継続します。

上昇から下降に切り替えるには、コントロールレバーの端にあるボタンを押します。車両は下降を始め、ドライバーディスプレイに変更を確認するアイコンが表示されます。

運転の前に 車両リフト

車両が完全に上昇すると確認音が鳴り、車両が上昇位置を維持している間はドライバーディスプレイの車両リフトアイコンが点灯します。

車両リフト - 下降

- i** 注意: 停止している間に車両を下げるには、エンジンが作動し、運転席のドアが完全に閉じていなければなりません。
- i** 注意: 車両が上昇状態のときは、車両を下降させるオプションのみ使用できます。
- i** 注意: 車両の下降中は、車両を高速で運転しないでください。車両が自動下降し始めると、下降を示す音が鳴り、システムをコントロールできる車両リフトメニューがドライバーディスプレイに表示されます。
- i** 注意: 車両を運転する前には、必ずドライバーディスプレイの車両リフトアイコンを確認してください。



車両を下げるには、コントロールレバーの端にあるボタンを押します。

 車高の変更を確認する下降音が鳴り、ドライバーディスプレイの車両下降アイコンが点滅します。

下降から上昇に切り替えるには、コントロールレバーの端にあるボタンを押します。車両は上昇を始め、ドライバーディスプレイに変更を確認するアイコンが表示されます。

車両が下がると確認音が鳴り、ドライバーディスプレイの車両下降アイコンが消灯します。

運転操作装置

始動および走行.....	2.02	電子制御ブレーキ予備充填.....	2.28
車両の電气的状態.....	2.02	エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC)	2.28
イグニッションのスイッチをオンにする.....	2.03	タイヤ空気圧監視システム (TPMS)	2.31
インストールメントと警告灯.....	2.03	クルーズコントロール.....	2.33
シームレスシフトギアボックスのギア位置.....	2.06	概要.....	2.33
パーキングブレーキ.....	2.06	クルーズコントロールの使用.....	2.33
ブレーキペダル.....	2.08	クルーズコントロールの取り消し.....	2.34
エンジンの始動/停止.....	2.08	クルーズコントロールの速度を上げる.....	2.35
走行.....	2.10	クルーズコントロールの速度を下げる.....	2.35
排気ガス温度監視.....	2.12	保存した速度の呼び出し.....	2.36
パーキングセンサー.....	2.12	アクティブスピードリミッター (ASL)	2.37
リアビューカメラ (RVC)	2.13	速度上限の設定.....	2.37
シームレスシフトギアボックス.....	2.15	アクティブスピードリミッター (ASL) のキャンセル.....	2.38
概要.....	2.15	慣らし運転.....	2.39
ギア位置.....	2.15	慣らし運転.....	2.39
アクセルペダル位置.....	2.16	標準/道路での使用.....	2.39
マニュアル/オートマチックモード.....	2.16	サーキットでの使用.....	2.40
ハンドリングとパワートレインコントロール.....	2.19	給油.....	2.41
アクティブダイナミクスコントロール.....	2.19	燃料の給油.....	2.41
「ACTIVE (アクティブ)」ボタン.....	2.19	推奨燃料.....	2.42
ハンドリングコントロール.....	2.20	冬季の走行.....	2.44
パワートレインコントロール.....	2.21	冬季の走行.....	2.44
発進コントロール.....	2.24		
走行安全システム.....	2.26		
一般.....	2.26		
アンチロックブレーキシステム (ABS)	2.26		
ブレーキアシストシステム.....	2.27		
ブレーキディスクワイピング.....	2.27		
ヒルホールドコントロール.....	2.27		
ブレーキステア.....	2.28		

運転操作装置 始動および走行

車両の電气的状態

この車は以下に説明する基準に応じて、次の状態のうちひとつを発動します。

i 注意: ロック状態を除き、以下のどの状態からでもエンジンを始動することができます。車両がスリープモードにあるときは、「START/STOP (始動/停止)」ボタンを2秒以上押す必要があります。

i 注意: 車両はバッテリーの残量が少なくなっていることを検知すると、エネルギーを節約するためにアウェイクモードになります。イグニッションの使用は停止されますが、クランキングは行うことができます。これは、エンジンを始動してバッテリーの充電を開始できるようにするためです。

ロック

ローパワーモードにロックされます。

スリープ

ローパワーモードになりますが、ロックはされません。

アウェイク

スリープモードの状態ではドアを開けるか「START/STOP (始動/停止)」ボタンを押すと、この状態になります。

時刻、オドメーター、バッテリーの状態、およびフューエルゲージはドライバーディスプレイで確認できます。

60秒間操作を行わないとスリープモードに戻ります。

イグニッション

アウェイクモードのときに「START/STOP (始動/停止)」ボタンを押すとこの状態になります。

ウィンドウとヒーター/エアコン調節ダイヤルが操作できるようになります。ドライバーディスプレイメニューおよびマクラーレンインフォテインメントシステム (MIS) が使用可能です。

i 注意: イグニッションオンの状態にはタイムアウトはありません。バッテリーが上がる可能性があるので注意してください。

クランキング

「エンジンの始動/停止」(2.08 ページ)を参照してください。

パワーセービングモード

非常にまれな状況下で、車両が十分な電圧を供給することができない場合、パワーセービングモードが有効になります。

! 警告: パワーセービングモードが有効な場合、温度調節およびステアリングは低減効果で動作します。

i 注意: パワーセービングモードが有効な場合、「バッテリー管理有効-オーナーズマニュアル参照」というメッセージがドライバーディスプレイに表示されます。

駐車日数



車両がアウェイクモードのときは、「駐車日数」の残りがドライバーディスプレイに表示されます。これはエンジンを始動したり、バッテリーチャージャーに接続せずにバッテリーが放電するまで車両を駐車できる日数を示します。

運転操作装置 始動および走行

イグニッションのスイッチをオンにする



1. リモコンキーが車内にあることを確認してください。
2. エンジンを始動せずにイグニッションスイッチをオンにするには、ブレーキペダルを踏まずに「START/STOP（始動/停止）」ボタンを押します。

i 注意: 車両がアウェイクモードのときは、ブレーキペダルを解放して「START/STOP（始動/停止）」ボタンを2回押します。

3. イグニッションスイッチがオンになり、油温計、水温計、燃料計が作動し、セルフテストのためにいくつかの警告灯が点灯します。ドライバーディスプレイ全体が点灯します。

インストルメントと警告灯

警告灯は点灯時の色によって分類されます。

- 赤またはアンバー色の警告灯 - 故障が検知されたことを示します。赤ランプによって表示された故障は、アンバー色による表示よりも重要度の高い故障です。
- 青または緑色の通知灯 - システムや機能の電源がオンになり動作中であることを示します。

警告灯

	「タイヤ空気圧監視システム（TPMS）」（2.31 ページ）
	「シートベルト」（1.24 ページ）
	「リアフォグランプ」（1.36 ページ）
	「補助拘束装置（SRS）」（1.26 ページ）
	「エレクトロニクススタビリティコントロール（ESC）」（2.28 ページ）
	「走行」（2.10 ページ）

運転操作装置 始動および走行

	「アンチロックブレーキシステム（ABS）」（2.26 ページ）
	「ブレーキペダル」（2.08 ページ） 「パーキングブレーキ」（2.06 ページ）
	オイル圧低下警告灯。点灯した場合は、安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラレーン代理店にご連絡ください。
	エンジンクーラント過熱警告灯。点灯した場合は、安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラレーン代理店にご連絡ください。
	バッテリー充電切れ警告灯。点灯した場合は、安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラレーン代理店にご連絡ください。
	エレクトロニックスタビリティコントロールシステム故障警告灯。点灯した場合は、故障の状態に合わせた運転を行ってください。マクラレーン代理店にお問い合わせください。
	燃料残量低下警告灯。点灯した場合は、できるだけ早く給油してください。「燃料の給油」（2.41 ページ）を参照してください。

	一般障害警告灯。点灯した場合は、ドライバーディスプレイにメッセージが表示されます。安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラレーン代理店にご連絡ください。
	一般障害注意灯。点灯した場合は、ドライバーディスプレイにメッセージが表示されます。安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラレーン代理店にご連絡ください。

通知灯

	「方向指示器」（1.37 ページ）
	「ハイビームヘッドランプ」（1.35 ページ）
	「ランプスイッチ」（1.34 ページ）
	「ランプスイッチ」（1.34 ページ）
	「方向指示器」（1.37 ページ）

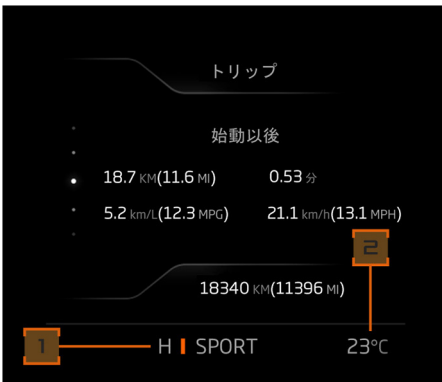
運転操作装置 始動および走行

ドライバーディスプレイの概要



1. 「タコメーター」 (3.02 ページ)
2. 「スピードメーター」 (3.03 ページ)

ドライバーディスプレイ - 左側



ドライバーディスプレイには、ドライバーにとって重要な情報が表示され、表示情報は、選択されているモードや車両の設定に応じて変化します。

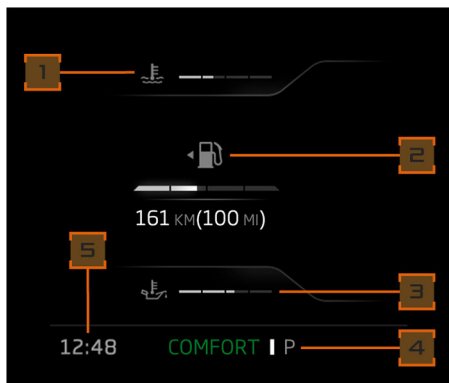
1. 「ハンドリングコントロール」 (2.20 ページ)
2. 外気温度



メニューはコントロールレバーを使って操作します。

運転操作装置 始動および走行

ドライバーディスプレイ - 右側



1. 「水温」 (3.16 ページ)
2. 「燃料残量および範囲」 (3.16 ページ)
3. 「オイル温度」 (3.15 ページ)
4. 「パワートレインコントロール」 (2.21 ページ)
5. 時間

シームレスシフトギアボックスのギア位置

ギアボックスはフルオートマチックまたはマニュアルモードで動作します。ドライバーがマニュアルモードを選択しない限りオートマチックモードが選択されます。「ギア位置」 (2.15 ページ) および「マニュアル/オートマチックモード」 (2.16 ページ) を参照してください。マニュアルモードがアクティブのときは、ギアチェンジはギアシフトパドルを用いて行います。「ギアシフトパドル」 (2.18 ページ) を参照してください。

パーキングブレーキ

i 注意: 急な下り坂の斜面に駐車する場合は、フロントホイールを縁石の方向に向けま
す。急な上り坂の斜面に駐車する場合は、
フロントホイールを縁石の反対方向に向け
ます。

パーキングブレーキの状態

! パーキングブレーキ作動表示灯が点滅して
いるときは、パーキングブレーキの作動/
解除がされなかったことを意味します。この問
題を解決するには、再度パーキングブレーキの
作動 / 解除操作を行ってください。「パーキン
グブレーキの操作」 (2.07 ページ) を参照してく
ださい。

運転操作装置 始動および走行

パーキングブレーキの操作



パーキングブレーキを作動させるには、スイッチを外側に引きます。これで、ドライバーディスプレイの赤色パーキングブレーキ作動ステータスランプが点灯します。

- i** 注意: 車両のパーキングブレーキは電子式であり、パーキングブレーキをかけたり外したりするときはスイッチを軽い力で切り替えるだけです。



パーキングブレーキを解除するには、ブレーキペダルを踏み込んだままパーキングブレーキスイッチを内側に押し込みます。これで、ドライバーディスプレイの赤色パーキングブレーキ作動ステータスランプが消灯します。

警告: パーキングブレーキを手動で解除した場合、車両が動き出すことがあります。

- i** 注意: パーキングブレーキが手動で解除されない場合、前進および後退ギアを入れて車両を走行させると、以下の条件が満たされた場合に限り、自動的に解除されます。
 - 運転席ドアが閉じられている
 - 運転席シートベルトが締結されている

- i** 注意: パーキングブレーキを手動でかけなかった場合、エンジンを切れば自動的に作動します。
- i** 注意: パーキングブレーキはイグニッションがオンになっていないと解除できません。パーキングブレーキは、車両がスリープモードのときを含め、イグニッションの状態にかかわらず作動させることができます。
- i** 注意: 車両走行中にフットブレーキが完全に故障した場合でも、パーキングブレーキをかけることにより減速することができます。

運転操作装置 始動および走行

ブレーキペダル

⚠ 警告: 運転席のフットウェルには物を置かないでください。フロアマットやカーペットが適切に固定されており、ペダル操作の妨げにならないことを確認してください。ペダルの間に物が挟まった場合、ブレーキやアクセルの操作ができず事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告: ブレーキシステムはエンジンが回転している間はサーボアシストが働いています。ブレーキはエンジンを停止しても機能しますが、強い力でペダルを踏まないとブレーキが利きません。

⚠ 警告: ブレーキペダルに足を乗せたまま走行しないでください。足を乗せているとブレーキがオーバーヒートして制動力が低下し、事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告: 走行中にブレーキ警告灯が点灯した場合は、安全に速やかに停車し、直ちにマクラレン代理店にご連絡ください。

ブレーキディスクおよびパッド

⚠ 警告: ブレーキパッドを新品に交換した場合は、なじむまで一定の時間がかかります。交換後 1,000 km (625 マイル) までは急ブレーキが必要となるような走行は避けてください。

ブレーキディスクおよびパッドの摩耗は、運転スタイルや走行条件によって変わります。

ブレーキ警告灯

ⓘ ブレーキ警告灯はイグニッションスイッチをオンにするとシステムテストとして点灯します。それ以外のときにブレーキ警告灯が点灯した場合は故障を示します。安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラレン代理店にご連絡ください。

エンジンの始動/停止

⚠ 警告: 車両が閉じられた場所にあるときは決してエンジンをかけないでください。排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。排気ガスを吸い込むと意識を失い死に至るおそれがあります。

ⓘ 注意: エンジンの始動時にアクセルペダルを踏み込まないでください。

エンジンの始動

1. リモコンキーが車内にあることを確認します。



運転操作装置 始動および走行

- ブレーキペダルを踏み、「START/STOP (始動/停止)」ボタンを押して放すとエンジンが始動します。
- エンジンがクランキング中に再度「START/STOP (始動/停止)」ボタンを押すとクランキングが停止します。
- 「START/STOP (始動/停止)」ボタンを押します。エンジンが停止し、車両はアイクモードになります。「車両の電気状態」(2.02ページ)を参照してください。イモビライザーがアクティブになります。

エンジンの停止

- ブレーキペダルを踏みます。
- ニュートラルを選択します。



i 注意: エンジンが停止すると、パーキングブレーキは自動的にかけられます。自動パーキングブレーキは、運転席ドアを開けたままパーキングブレーキスイッチをオフの位置で押し続けると無効にすることができます。

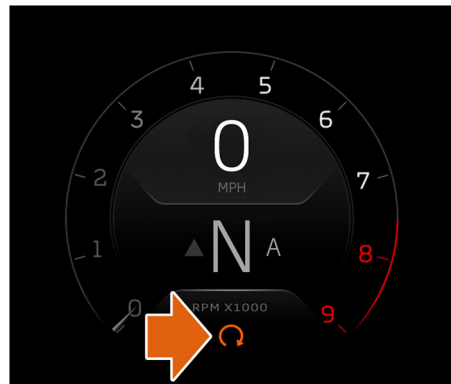
エコスタート-ストップシステム

このシステムは燃料消費と排気ガス排出量の削減が可能になる条件の場合、自動的にエンジンを停止し、必要に応じて再び始動させます。

自動的にエンジンを停止させるには、システムが次の条件を満たしている必要があります:

- ドライバーの存在を検出していること
- 走行速度が前回の停止から 10 km/h (6 mph) を超えていること
- エンジンが標準動作温度であること
- 車両バッテリーがフル充電されていること
- エアコンの要求が高すぎないこと
- コンフォートパワートレインモードが有効であること

システムの操作



極低速で、ステータスアイコンがドライバーディスプレイに表示されます。

条件を満たしていない場合、アイコンはオレンジ色に点灯し、システムは使用できません。

すべての条件が満たされ、システムが使用可能な場合、アイコンは緑色に点灯します。

ブレーキペダルが踏み込まれた場合、システムは自動的にエンジンを停止し、車両は減速して完全に停止します。

「ENGINE STOPPED (エンジン停止)」というメッセージがドライバーディスプレイに表示されます。

運転操作装置 始動および走行

ブレーキペダルが解放される、またはエンジンの再始動が必要な状態が検出されると、エンジンは自動的に再始動します。

i 注意: エンジン停止中にパーキングブレーキがかかっている場合、ブレーキペダルを解放しても、エンジンは再始動しません。ブレーキペダルを踏み込み、パーキングブレーキの解除後、ブレーキペダルを解放してオートマチックリスタートを実行します。

i 注意: エンジンは電気、エアコンまたはその他の車両需要を維持するためにブレーキペダルが解放される前に、自動的に再始動することができます。

停止



「エコスタート-ストップオフ」ボタンを押して、システムを停止させます。ボタンのライトが点灯し、ドライバーディスプレイのステータスランプが消灯します。

システムを起動するには、もう一度ボタンを押します。

i 注意: エンジンが自動的に停止しているときに「エコスタート-ストップオフ」ボタンが押された場合、エンジンは再始動します。

i 注意: システムが停止していてもイグニッションをオンにすると、デフォルトで起動します。

走行

発進

⚠ 警告: 運転中は決してエンジンを停止しないでください。ステアリングやフットブレーキのアシスト機能が働かなくなります。ステアリングやブレーキの操作に大きな力が必要になるため、車両がコントロール不能になり事故につながるおそれがあります。

i 注意: エンジンが標準運転温度になるまではエンジン回転数をあまり上げないように走行してください。

i 注意: 車速が約 15 km/h (9 mph) に達するとドアがロックされます。オートロックはセンターディスプレイで設定できます。「自動ドアロック」(4.13 ページ)を参照してください。

i 注意: 駐車の際に切り返し操作が多い場合、ステアリングアシストは少し硬めに感じるかもしれません。これは正常であって、オーバーヒートからステアリングシステムを保護するためです。

i 注意: r 冷機状態から始動した場合、エンジンアイドリングの回転数が上昇し、ギアチェンジが行われる回転数が暖機時よりも高くなる可能性があります。触媒コンバーターが短時間で作動温度に達し、エンジン排出ガスを低減します。

運転操作装置 始動および走行

1. エンジンが動作中にブレーキペダルを踏み続けます。
2. ドライブギアまたはリバースギアを選択するか、ギアシフトパドルを用いてシフトアップを行います。詳しい説明は「ギアシフトパドル」(2.18 ページ)および「ギア位置」(2.15 ページ)を参照してください。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチを解除します。ドライバーディスプレイの赤色ステータスランプが消灯します。



警告: パーキングブレーキを手動で解除した場合、車両が動き出すことがあります。



注意: パーキングブレーキが手動で解除されない場合、前進および後退ギアを入れて車両を走行させると、以下の条件が満たされた場合に限り、自動的に解除されます。

- すべてのドアを閉めている
 - 運転席シートベルトが締結されている
4. アクセルペダルを慎重に踏み込みます。

エンジン警告灯



エンジン警告灯はイグニッションスイッチをオンにすると点灯し、故障がなければエンジンを始動するとすぐに消灯します。

走行中にこの警告灯が点灯した場合はエンジンマネージメントの故障が検出され、エンジン性能が低下している可能性があります。安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラレーン代理店にご連絡ください。

フェイルセーフモード

車両またはシステム性能を制限しないと車両にそれ以上の損傷が生じる可能性のある不具合を車両システムが検知すると、フェイルセーフモードが自動的に作動します。このモードで運転する場合は注意が必要です。直ちにマクラレーン代理店にご相談ください。

経済走行

燃費を改善するには、以下のことに気をつけてください。

- 停止した状態から走行を開始するときはゆっくりと、滑らかに加速してください。
- マニュアルモードではできる限り早めにシフトアップし、エンジンが高回転になるのを避けてください。



シフトアップで最大限の省燃費性能を維持できるときは、ギアシフトインジケーター (GSI) が点灯します。



注意: 市場によっては利用可能でない場合があるので、マクラレーン代理店にご相談ください。

- エンジンに高い負荷をかけたり極端に高回転にするのを避けてください。
- 不要時はエアコンのスイッチを切ってください。
- 渋滞しやすい場所の走行は避けてください。
- 全体的な道路や交通状況に合った運転スタイルを身につけてください。アクセルやブレーキをゆっくりと、滑らかに操作できるように時間に余裕を持たせてください。

運転操作装置 始動および走行

排気ガス温度監視

車両は常時、排気ガス温度を監視し、触媒コンバーターに過熱により生じる損傷が起こらないようにしています。

過剰な排気ガス温度が検出されると、ドライバーディスプレイに警告が表示されます。

このメッセージを確認したら、直ちに車両の速度を落としてください。高いエンジン回転数と高いエンジン負荷（フルスロットル）を伴う車両操作を中断し、排気ガスの温度が下がるのを待ってください。このメッセージは温度が下がるまで点灯を続けます。

排気ガス温度が過剰なレベルのまま下がらないと、別の警告が表示され、フェイルセーフモードが起動します。車両を再度始動するまで、エンジン性能が制限されます。

i 注意: 触媒コンバーターの過熱警告は、通常の走行中に表示されることはほとんどなく、極端な運転条件の結果起こります。高い排気ガス温度は例えば、長時間のサーキット走行、長時間高回転を維持し続けること、スロットル操作を急激に何度も変化させることなどによって引き起こされることがあります。

i 注意: 高い排気ガス温度は触媒コンバーターに損傷を引き起こす可能性があるため、慎重な運転を行うことで避けなければなりません。

警告が引き続き表示される場合はマクラーレン代理店にご連絡ください。

パーキングセンサー



パーキングセンサーは、低速での運転操作時に障害物があるとドライバーに警告します。このシステムはフロントバンパー内の4個の超音波センサー、リアバンパー内の4個の超音波センサーおよび2個の音響器で構成されています。各音響器はピッチが異なり、障害物が車両のフロント側にあるのかリア側にあるのかを判別できます。

運転操作装置 始動および走行

エンジン作動中にドライブが選択されている場合、フロントパーキングセンサーは自動的にオンになります。リアパーキングセンサーは、リバースギアを選択すると自動的に作動します。パーキングセンサーボタンの周囲のランプがアンバー色で点灯する場合、パーキングセンサーが作動していることを示します。

フロントパーキングセンサーは、車両のギアがニュートラルに入っており、システムを手動でオンにした場合に、有効にできます。

フロントバンパーの中央のセンサーの検知範囲は、約 1 m (3 フィート) です。リアバンパーの中央のセンサーの検知範囲は、約 1.5 m (5 フィート) です。

検知範囲内に障害物があると、断続的なトーンが鳴ります。車両が障害物に近づくと、トーンの周期が短くなります。センサーから障害物までの距離が約 40 cm (1 フィート 6 インチ) 以下になると、トーンが連続音になります。

⚠ 警告: パーキングセンサーは、子供や動物などの動く物は至近距離まで近づかないと検知することができません。常に警戒を怠らず、必ずミラーを使用し、振り向いて後方を確認しながら操作を行ってください。

i 注意: パーキングセンサーはあくまでも目安に過ぎず、運転の際にドライバーが障害物を目視確認する代わりとなるものではありません。パーキングセンサーは細い柱や、縁石などの地表近くの小さい障害物など、一部の障害物は検知できません。

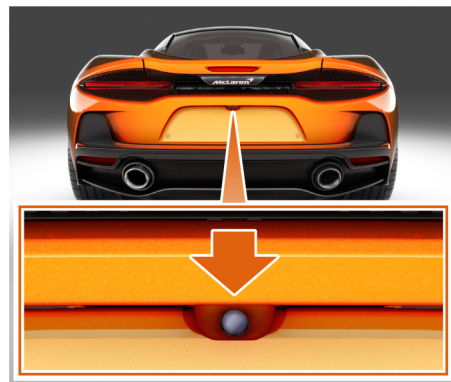
リアパーキングセンサーはリバースギア以外にシフトすると自動的にスイッチがオフになります。車速が 26 km/h (16 mph) を超えてドライブが選択されている場合、フロントパーキングセンサーは自動的にオフになります。ボタンの中央を押して、パーキングセンサーを手動で起動している場合、車速が 20 km/h (12 mph) に減速されると、フロントパーキングセンサーが再び起動されます。

パーキングセンサーは、ボタンの真ん中を押し続けることで、手動でオフにできます。また走行中かニュートラル状態のときにボタンの中央を押すと、パーキングセンサーの近接ビューがセンターインフォテイメントタッチスクリーンに表示されない設定にできます。リバースギアが選択されている場合、パーキングセンサーを手動でオフにすることはできません。手動でオフにすると、ボタンの周りのライトが消灯します。

システムを手動でオフにしても、リバースギアを選択するとフロントとリアのセンサーがオンになり、もう一度ドライブまたはニュートラルを選択するまで解除されません。

故障が見つかったと、システムが無効になり、ドライバードisplayにメッセージが表示され、パーキングセンサーボタンのランプが点滅します。センサーに泥や氷、雪などが付着している場合は取り除いてください。問題が解決しない場合はマクラーレン代理店にご連絡ください。

リアビューカメラ (RVC)



リアビューカメラ (RVC) は、リアバンパーの中央に取り付けられています。機能をアクティブにすると、ライブビデオ画像がドライバードisplayに表示されます。

i 注意: ビデオ画像がぼやけていたり不鮮明な場合は、水で湿らせた柔らかい布でレンズを慎重に清掃してください。

ライブビデオ画像には、色付きのグリッドが表示されます。このグリッドは車両後部と障害物の距離を測るためのガイドとして使用できます。

運転操作装置 始動および走行

 注意: リアビューカメラはあくまでも目安に過ぎず、運転の際にドライバーが障害物を目視確認する代わりとなるものではありません。リアビューカメラは、周辺光や気象条件によっては一部の障害物を表示しない場合があります。

RVC は、リバースギアを選択すると自動的にアクティブになり、前進ギアを選択してから 10 秒後に自動的にオフになります。また、前進車速が 10 km/h (6 mph) を超えると直ちにオフになります。

運転操作装置

シームレスシフトギアボックス

概要

ギアボックスは7速デュアルクラッチシームレスシフトギアボックスを採用し、オートマチックまたはマニュアルモードで動作します。

ドライバーがマニュアルモードを選択しない限りオートマチックモードが選択されます。「マニュアル/オートマチックモード」(2.16ページ)を参照してください。

オートマチックモードでは、ギアボックスは次の条件に基づき最も適切なギアを選択し、ドライバーの運転スタイルに合わせてシフトポイントを自動的に最適化します。

- 「パワートレインコントロール」(2.21ページ)。
- 「アクセルペダル位置」(2.16ページ)。
- 車速。
- ブレーキ踏力。

i 注意: エンジンやギアボックスが暖まるまでは、高回転走行や高負荷走行は行わないでください。
滑りやすい路面を走行する際にリアホイールを長時間スピンさせないでください。ドライブレインが損傷するおそれがあります。

ギア位置



ギア位置ボタンのいずれかを押してください。

i 注意: ドライブ、ニュートラル、リバースのうちどれが選択されているかを示すため、ボタンの文字が赤く点灯します。

ドライブ

□ 7速前進ギアをすべて利用できます。マニュアルモードが選択されていない限り、ギアチェンジはオートマチックになります。

ドライブを選択してブレーキを放すと、車両はアクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き始めます。これにより、駐車時や渋滞時の運転操作が楽になります。

ニュートラル

N ギアはかみ合っていない。ブレーキを放すと、車両を押したり、けん引したり自由に動かすことができます。ニュートラルの詳しい使用法は「回収のためのけん引」(6.46ページ)を参照してください。

ニュートラルはどの速度でも「N」ボタンを押すことで選択できます。「D」ボタンを押すか、ギアシフトパドルを用いてシフトを開始し、車速に適切なギアを選択します。

リバース

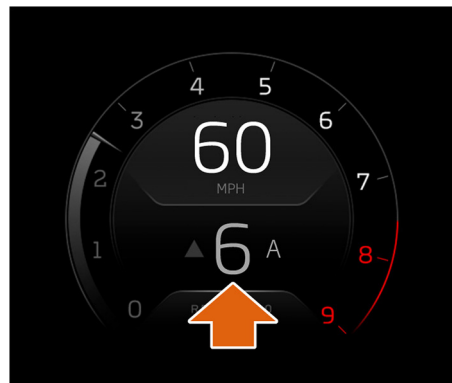
R 通常は、車両が静止している状態でリバースギアを選択します。駐車操作時にドライブからリバースにすばやく変更し、再びドライブに戻すといった操作を繰り返し行う必要がある場合、10 km/h (6 mph) 以下の速度であれば走行したままリバースまたはドライブにギアチェンジすることができます。

i 注意: 速度が10 km/h (6 mph) 以上のときにリバースまたはドライブにチェンジした場合、トランスミッションはセルフプロテクション機能によりニュートラルに入ります。
10 km/h (6 mph) 以下の速度で走行中は、「N」ボタンを押すことによってニュートラルを選択できます。

運転操作装置

シームレスシフトギアボックス

リバースを選択してブレーキを放すと、車両はアクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き始めます。これにより、駐車時の運転操作を楽に行うことができます。



選択したギア（マニュアルモード）またはギア位置（オートマチックモード）がドライバーディスプレイに表示されます。

i 注意: システムに通信障害が発生した場合は、ギア位置は表示されません。障害を通知するために、ドライバーディスプレイに警告メッセージが表示されます。

アクセルペダル位置

ドライバーの運転スタイルに応じ、シームレスシフトギアボックスのギアチェンジのパターンが変わります。

アクセルペダルを軽く踏むドライバーの場合は、低めのエンジン回転数でシフトアップが行われます。アクセルペダルを強く踏むドライバーの場合は、高いエンジン回転数でシフトアップが行われます。

キックダウン

キックダウンは自動モードの場合、迅速な加速を達成するように設計されています。

抵抗が感じられる点からさらにアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、ペダルがカチッとなるのが感じられます。ギアボックスが即座に選択可能な最低ギアにシフトダウンし、最大加速が行われます。ペダルから力を抜くとキックダウンが終了し、通常のギアチェンジパターンに戻ります。

i 注意: ペダルを緩く踏んだ場合でも、車速によってはギアボックスがシフトダウンすることがあります。

マニュアル/オートマチックモード

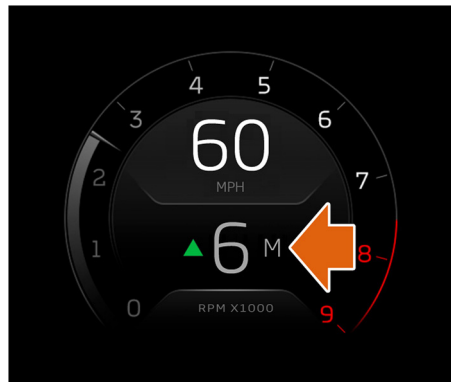


「ACTIVE（アクティブ）」ボタン（2）を押してアクティブダイナミクスパネルをオンにします。

「ACTIVE（アクティブ）」ボタンが点灯します。走行モードを切り替えた場合はそれぞれのボタンが点灯します。「ACTIVE（アクティブ）」ボタンを再度押すことによって、選択した走行モードを随時非アクティブにできます。マニュアルモードを選択するには「MANUAL（マニュアル）」ボタン（1）を押します。

運転操作装置

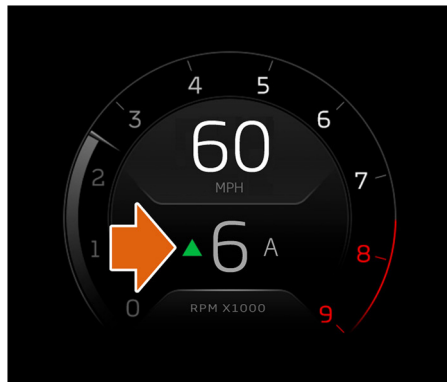
シームレスシフトギアボックス



ギアボックスモードインジケータには、Mと現在選択されているギアが表示されます。すべての前進ギアチェンジは、ギアシフトパドルを使用して行います。「ギアシフトパドル」(2.18ページ)を参照してください。

ギアシフトモード (PSC) はインジケータで、最適な性能を維持するためにシフトアップが必要になると音を鳴らして知らせます。

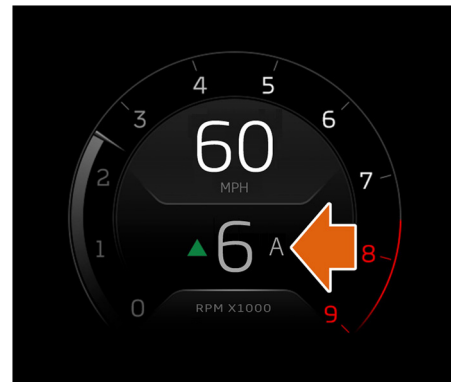
設定オプションについては、「ギアシフトモード」(4.10 ページ)を参照してください。



マニュアルモードで省燃費走行時には、シフトアップを行うことで最適な省燃費性能が維持できる場合にギアシフトインジケータ (GSI) が点灯します。要求される加速または原則がより高いギアに合わない場合は、GSI は点灯しません。「経済走行」(2.11 ページ)を参照してください。

i 注意: 市場によっては利用可能でない場合があるので、マクラーレン代理店にご相談ください。

再度「MANUAL (マニュアル)」ボタンを押すとオートマチックモードに戻ります。



ギアボックスモードインジケータにAと表示されます。ギアチェンジはすべて自動的に行われますが、ギアシフトパドルを操作するとギアボックスは一時的にマニュアルモードになります。このモードは、ドライバーがマニュアルギアチェンジを続けている間アクティブになります (8秒以内)。ギアボックスモードインジケータにA/Mと表示されます。「ギア位置インジケータ」(3.14 ページ)を参照してください。

i 注意: マニュアルギアチェンジを行わずに8秒間が経過すると、ギアボックスはオートマチックモードに戻ります。

運転操作装置

シームレスシフトギアボックス

ギアシフトパドル



シフトアップするには、右パドルを手前に引きます。シフトダウンするには、左パドルを手前に引きます。現在のギア位置がギア位置ディスプレイに表示されます。「ギア位置インジケータ」(3.14 ページ)を参照してください。

i 注意: 一体型パドルとセンターピボット構造により、どちらのパドルを使用してもシフトアップ、シフトダウンができます。上述の方法以外にも、左パドルを押すことによってシフトアップ、右パドルを押すことによってシフトダウンすることができます。

ギアシフトパドルは選択したハンドリングおよびパワートレインモードに関係なく動作します。また、ギアチェンジの際にアクセルペダルを離す必要もありません。

! 警告: マニュアルモードの場合、本車両は安全のためにエンジン回転数をモニタし、必要に応じてオートマチックギアチェンジを行うことがあります。

! 警告: 滑りやすい路面では、エンジンブレーキを作動するためのシフトダウンはしないでください。

i 注意: オートマチックモードでパドルを操作した場合、ギアチェンジをしないまま8秒間が経過するとギアボックスはオートマチックモードに戻ります。

ブレーキをかけているときに選択可能な最低ギアにすぐにシフトするには、パドルでダウンシフトを選択して押し続けます。そうすると、最適なギアに達するかパドルを離すまで、低いギアへ順番にシフトしていきます。

車速が 10 km/h (6 mph) 以下の場合、またはギアを選択したまま停車した場合、パドルをシフトダウン方向に押し続けるとニュートラルになります。

ニュートラルはどの速度でも「N」ボタンを押すことで選択できます。「D」ボタンを押すか、ギアシフトパドルを用いてシフトを開始し、車速に適切なギアを選択します。

Pre-Cog

ギアボックスは次のギアチェンジを予測して必要なギアをあらかじめ選択することにより、迅速でシームレスなギアチェンジを確実にします。

車両が加速中でも、ギアボックスが次に高いギアをあらかじめ自動的に選択します。急加速後すぐにシフトダウンが必要な場合は、シフトダウンパドルを軽く引いて Pre-Cog 位置に保持し、次に低いギアをあらかじめ選択します。準備ができたなら、ほぼ一瞬でシフトダウンするためにパドルをいっぱいまで引きます。

減速中にシフトアップをあらかじめ選択するには、シフトアップパドルを軽く引いて Pre-Cog 位置に保持し、次に高いギアをあらかじめ選択します。準備ができたなら、あらかじめ自動選択されたシフトダウンのかわりに、ほぼ一瞬でシフトアップするためにパドルをいっぱいまで引きます。

運転操作装置

ハンドリングとパワートレインコントロール

アクティブダイナミクスコントロール

アクティブダイナミクスパネルのハンドリングコントロールスイッチとパワートレインコントロールスイッチを使用することにより、ドライバーが車両のハンドリング特性やパフォーマンス特性を調節することができます。

アクティブダイナミクスパネルには以下のボタンがあり、エンジンが動作中かイグニッションスイッチがオンになっている場合にのみ機能します。



1. エンジン「START/STOP（始動/停止）」ボタン。「車両の電气的状態」（2.02 ページ）を参照してください。

2. 「パワートレインコントロール」（2.21 ページ）
3. 「発進コントロール」（2.24 ページ）
4. 「エコスタート-ストップシステム」（2.09 ページ）
5. 「「ACTIVE（アクティブ）」ボタン」（2.19 ページ）
6. 「ハンドリングコントロール」（2.20 ページ）

「ACTIVE（アクティブ）」ボタン



「ACTIVE（アクティブ）」ボタンを押して、アクティブダイナミクスパネルをオンにします。これにより、発進、ESC オフ、ハンドリングとパワートレインコントロールが有効になります。「ACTIVE（アクティブ）」ボタン、ハンドリングスイッチ、パワートレインスイッチが点灯します。

i 注意: アクティブダイナミクスパネルがオンの場合、現在のハンドリングとパワートレインモードが、ドライバーディスプレイにアンバー色で表示されます。パネルがオフの場合、ハンドリングとパワートレインモードは白色で表示されます。

運転操作装置

ハンドリングとパワートレインコントロール

i 注意: イグニッションをオフにすると、アクティブダイナミクスパネルのボタンもオフになります。ハンドリングとパワートレインコントロールのモードは保存されますが、コントロールを操作するには、次にイグニッションスイッチをオンにしたときに再度「ACTIVE (アクティブ)」ボタンを押す必要があります。ボタンを押さなかった場合、車両はオートマチックギアチェンジに戻ります。

ハンドリングコントロール

ハンドリングコントロールスイッチは、プロアクティブシャシーコントロールIIシステムに影響を与えます。

モードの選択



1. 「ACTIVE (アクティブ)」ボタンを押してアクティブダイナミクスパネルをオンにします。



2. ハンドリングコントロールを回して、以下のモードのいずれかを選択します。

運転操作装置

ハンドリングとパワートレインコントロール

モード

C	コンフォート	最も柔らかいサスペンション設定となり、コーナリング時の優れたボディコントロールを保ちながらソフトな乗り心地を実現します。
S	スポーツ/ノンアクティブ	固めのサスペンションとなり、安定感のある乗り心地と強化されたハンドリング特性を実現します。
T	トラック	最も固いサスペンションとなり、レーシングカー並みのハンドリングと走行特性を実現します。 エレクトロニクススタビリティコントロール警告灯が常時点灯します。

i 注意: ドライバーディスプレイに表示される情報は、選択したハンドリングモードに応じて変化します。「ハンドリングおよびパワートレインディスプレイ」(3.14ページ)を参照してください。

選択したモードは選択が変更、イグニッションがオフ、またはアクティブダイナミクスパネルが解除されるまで作動状態になります。

i 注意: 選択時に以下の条件がすべて満たされていないと、条件が満たされるまでそのモードになりません。

- 不具合条件が存在していないこと
- エレクトロニクススタビリティコントロールなど、車両のダイナミクス機能またはスタビリティ機能がアクティブになっていない
- 車両が走行中の場合は、ステアリングホイールが直進位置になっており、左右に旋回していない

アクティブダイナミクスパネルがオフの場合は、ドライバーディスプレイのハンドリング表示に「ノンアクティブ」と表示されます。詳しくは、「ハンドリングおよびパワートレインディスプレイ」(3.14ページ)を参照してください。

車両がノンアクティブモードの場合は、そのハンドリング特性はスポーツハンドリングモードのものと一致します。

i 注意: トラックハンドリングモードでも、エレクトロニクススタビリティコントロールシステムは動作しています。詳しい説明は「エレクトロニクススタビリティコントロール (ESC)」(2.28ページ)を参照してください。

パワートレインコントロール

モードの選択



1. 「ACTIVE (アクティブ)」ボタンを押してアクティブダイナミクスパネルをオンにします。

運転操作装置
ハンドリングとパワートレインコントロール



2. パワートレインコントロールを回して、以下のモードのいずれかを選択します。

シフトパターンは、選択したパワートレインモードに応じて異なります。

アクティブなモード

オートマチックモード		
C	コンフォート	ギアチェンジは車両の本来のパフォーマンスを損なうことなしに、経済的に最適な方法で行われます。
S	スポーツ	ギアチェンジは高めのエンジン回転数で、シフトにかかる時間は短縮され、さらにシリンダーカットで向上されています。「シリンダーカット」(7.13 ページ)を参照してください。
T	トラック	ギアチェンジはスロットルレスポンスに応じて瞬時に行われ、シリンダーカットによりさらに向上します。「シリンダーカット」(7.13 ページ)を参照してください。

マニュアルモード		
C	コンフォート	ギアチェンジは最も快適な方法で行われ、シリンダーカットにより向上します。「シリンダーカット」(7.13 ページ)を参照してください。
S	スポーツ	ギアチェンジは短いシフト間隔で行われ、イグニッションカットによりさらに向上します。「イグニッションカット」(7.14 ページ)を参照してください。
T	トラック	最も鋭敏なギアチェンジパターンです。ギアチェンジは瞬時に行われ、慣性プッシュによりさらに向上します。「慣性プッシュ」(7.14 ページ)を参照してください。

i 注意: ドライバーディスプレイに表示される情報は、選択したパワートレインモードに応じて変化します。「ハンドリングおよびパワートレインディスプレイ」(3.14 ページ)を参照してください。

運転操作装置

ハンドリングとパワートレインコントロール

i 注意: 公道でトラックモードを使用することは推奨できません。トラックモードは、あくまでもハイパフォーマンスサーキット/オフロードのみでの使用を目的としています。

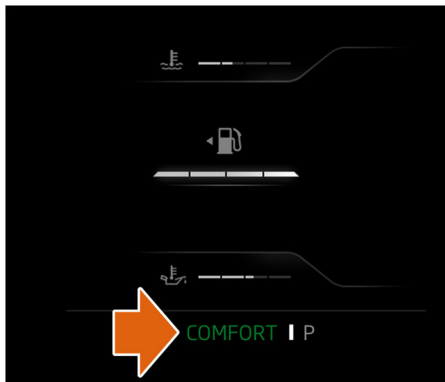
選択したモードは選択が変更、イグニッションがオフ、またはアクティブダイナミクスパネルが解除されるまで作動状態になります。

アクティブダイナミクスパネルがオフの場合は、ドライバーディスプレイのパワートレイン表示に「ノンアクティブ」と表示されます。詳しくは、「ハンドリングおよびパワートレインディスプレイ」(3.14 ページ)を参照してください。

ノンアクティブモード

オートマチックモードとマニュアルモードのどちらの場合も、ギアチェンジは短いシフト間隔で行われ、慣性プッシュによりさらに向上します。「慣性プッシュ」(7.14 ページ)を参照してください。

エコノミーモード



車両がいずれかのパワートレインモードでオートマチックギアシフトを選択しているときは、穏やかに走行している限りトランスミッションは経済的なシフトパターンで動作します。これは、車速、アクセル、ブレーキおよび路面の勾配に基づいて決定されます。

現行のアクティブなシフトパターンに応じて、エコノミーモードが作動中には「Non-Active (ノンアクティブ)」、「Comfort (コンフォート)」、「SPORT (スポーツ)」または「TRACK (トラック)」の表示が緑色に変わります。その他の燃費節約方法についての情報は「経済走行」(2.11 ページ)を参照してください。

i 注意: アクティブダイナミクスパネルがオンの場合、現在のハンドリングとパワートレインモードが、ドライバーディスプレイにアンバー色で表示されます。パネルがオフの場合、ハンドリングとパワートレインモードの「ノンアクティブ」は白色で表示されます。

運転操作装置 ハンドリングとパワートレインコントロール

発進コントロール

発進コントロールは、停止状態から発進する際に最大の加速力が得られるように設計されています。

⚠ 警告: サーキット以外では発進コントロールを起動しないでください。発進コントロールを起動する前に、すべてのドア、ラゲッジルーム、サービスカバーが閉じられていること、周囲の状況が最大加速運転を行うために支障がないことを確認してください。

i 注意: 発進コントロールはオートマチックモード、マニュアルモードのいずれでも、またハンドリングモードやパワートレインモードにかかわらず動作しますが、アクティブダイナミクスパネルがアクティブになっていないと使用できません。

i 注意: 発進手順はどの時点でも以下のいずれかの操作によって中止できます。

- パーキングブレーキの適用
- 「ACTIVE (アクティブ)」ボタンを押して車両のダイナミクスパネルのスイッチをオフにする
- 「LAUNCH (発進)」ボタンを押して発進コントロールのスイッチをオフにする

i 注意: 故障があった場合や発進手順を正しく実行しなかった場合は、ドライバーディスプレイに「発進モード使用不可-オーナーズマニュアルを参照」という警告メッセージが表示されます。発進手順を繰り返し、正しく行われていることを確認してください。警告メッセージが消えない場合は、マクラーレン代理店にご連絡ください。

i 注意: 発進モードは以下の条件を満たしている場合にのみ使用できます。

- 両方のドアが閉まっている
- 通常車高および車両リフト機能非アクティブ
- 大気高度がエンジンパフォーマンスに悪影響を及ぼさない
- エンジンクーラントが標準動作温度である

発進コントロール手順

1. ステアリングホイールが直進位置になっていることを確認します。
2. ブレーキペダルを左足でしっかりと踏み、ローギアを選択します。



3. 「ACTIVE (アクティブ)」ボタンを押してアクティブダイナミクスパネルをオンにします。

運転操作装置

ハンドリングとパワートレインコントロール



4. 「LAUNCH（発進）」ボタンを押します。

i 注意: ギアボックスモードインジケータでLが点滅します。詳しくは、「マニュアル/オートマチックモード」(2.16 ページ)を参照してください。また、「発進モードアクティブ-フルスロットル待ち」がドライバーディスプレイに表示されます。

5. 左足でブレーキペダルを踏みながら、右足でアクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。エンジン回転数が3,200 rpm まで上昇します。

i 注意: 発進コントロールを中止するには、アクセルペダルを踏む前にブレーキペダルを解放するか、発進コントロールが非アクティブになるまで約 100 秒間待ってください。「発進モード中止-オーナーズマニュアルを参照」というメッセージがドライバーディスプレイに表示されます。

i 注意: 「発進モード作動中-ブースト準備中」というメッセージがドライバーディスプレイに表示されます。十分に昇圧したら、「発進モード作動中-ブースト準備完了」というメッセージがドライバーディスプレイに表示されます。

6. ブレーキペダルから左足を離すと、最大加速が得られるように発進コントロールシステムが発進コントロールを実行します。

i 注意: 発進コントロールを中止するにはアクセルペダルを離すか、発進コントロールが非アクティブになるまで約 5~10 秒間待ってください。発進が中止されたらアクセルペダルを離し、再度アクセルを踏んで走行を開始します。「発進モード中止-オーナーズマニュアルを参照」というメッセージがドライバーディスプレイに表示されます。

7. 発進コントロールは中止するまで手順を正しく実行することで動作します。

i 注意: 発進コントロール時にはオートマチックでギアシフトが行われ、トラクションが最適化されます。この操作は発進コントロールが中止されるまで続行されます。発進コントロールを中止するにはアクセルペダルを離すか、ブレーキをかけるか、ギアシフトパドルのいずれかを操作します。

運転操作装置 走行安全システム

一般

本章では以下の安全システムについて説明します。

- アンチロックブレーキシステム (ABS)
- ブレーキアシストシステム
- ブレーキディスクワイピング
- ヒルホールド
- ブレーキステア
- 電子制御ブレーキ予備充填
- エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC)

 **警告:** スピードを出し過ぎると、特にカーブや、濡れた、または凍結した路面の走行時に事故が発生する危険性が高くなります。先行車両との間には常に安全な車間距離を保ってください。

必ず、道路の状況や天候条件に合わせた運転を行ってください。また、通行者や路上の物体から十分な距離を保ってください。

 **注意:** 冬季の条件下でアンチロックブレーキシステム、ブレーキアシストシステム、エレクトロニックスタビリティコントロールの効果を最大限に発揮させるためには、ウィンタータイヤやスノーソックスの使用が必要となることがあります。

アンチロックブレーキシステム (ABS)

アンチロックブレーキシステムは、ブレーキングによるホイールのロックを防止します。これによって、ブレーキをかけながら車両を操舵することが可能になります。

アンチロックブレーキシステムは、路面の状況にかかわらず、車速が約8km/h (5mph) 以上のときに作動します。滑りやすい路面ではブレーキを穏やかに踏んだときにも効果を発揮します。

 **警告:** ポンピングブレーキは行わないでください。ブレーキペダルをしっかりと、一定の力で踏んでください。ポンピングブレーキを行うとブレーキの効果が低減します。

ブレーキをかけた際にアンチロックブレーキシステムが作動すると、警告灯が点滅し、ブレーキペダルから波動が伝わります。

アンチロックブレーキシステムが作動した場合は、ブレーキが必要なくなるまでブレーキペダルを踏み続けてください。

 **警告:** 必ず、周囲の道路状況や天候条件に合わせた運転を行ってください。通行者や路上の物体から十分な距離を保ってください。

アンチロックブレーキシステム (ABS) 状態表示灯



システムが故障した場合は状態表示灯が点灯します。車両を運転しないでください。速やかにマクラーレン代理店にご連絡ください。

 **警告:** アンチロックブレーキシステムが故障した場合は、ブレーキアシストシステムやエレクトロニックスタビリティコントロールも非アクティブになります。アンチロックブレーキシステムが故障した場合は、ブレーキをかけた際にホイールがロックするおそれがあります。これによって停止距離が長くなり、またハンドル操作が利かなくなる可能性があります。

運転操作装置 走行安全システム

ブレーキアシストシステム

ブレーキアシストシステムは急ブレーキを踏んだ状況で作動します。急ブレーキを踏むと、ブレーキアシストシステムによりブレーキの踏力が自動的に増大し、停止距離が短縮されます。

非常ブレーキが必要なくなるまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。アンチロックブレーキシステムがホイールのロックを防止します。

ブレーキペダルを離すとブレーキは通常どおり作動します。ブレーキアシストシステムは非アクティブになります。



警告: ブレーキアシストシステムが故障した場合でもブレーキは作動します。ただし、制動力が自動的に増大されることはないため、停止距離が長くなる可能性があります。

ブレーキディスクワイピング

ブレーキディスクワイピングは、フロントウィンドウワイパーのスイッチをオンにすると自動的に作動します。この機能は強雨時にブレーキディスクに水分が付着するのを防止し、ブレーキ性能を改善します。

ヒルホールドコントロール

坂道で車両を停止するためにブレーキペダルが踏まれた場合、この機能はペダルを離した後も2秒間ブレーキをかけ続け、スムーズな発進をアシストします。

運転操作装置 走行安全システム

ブレーキステア

ブレーキステアはトルクベクトリングディファレンシャル効果を実現しますが、軽量化と反応速度の改善のためにブレーキシステムに組み込まれています。

トルクベクトリングによって、ディファレンシャルがリアの各ホイールに伝達する力の量を変化させ、最適の安定性とトラクションを実現します。

コーナリング時に車両がアンダーステアになりつつあることを検知すると、システムはリアの内輪に軽くブレーキをかけます。これによって車両のヨーレートが増大し、車両のアンダーステアに対する抵抗が増します。横方向のGも増大し、ハンドリング特性が向上します。

ドライバーがコーナーからの立ち上がりでスロットルを開け過ぎると、リアの内輪の速度が増し、ブレーキステアが作動しなければ車両が不安定になるおそれがあります。この状況でも、ブレーキステアが再びリアホイール内側に軽くブレーキをかけることによって、トラクションと走行安定性を回復します。

電子制御ブレーキ予備充填

アクセルペダルが急に離された場合、電子ブレーキ予備充填機能が即座にブレーキパッドをディスクに触れさせ、素早いブレーキングを可能にします。

エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC)

エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC) は、走行安定性およびタイヤと路面間のトラクションを監視します。

エレクトロニックスタビリティコントロールは、ホイールがスピンを始めるか車両が滑り始めるとこれを検知し、個々のホイールにブレーキをかけるとともにエンジン出力を制限して車両を安定させます。また、濡れた路面や滑りやすい路面での発進の際にもアシストを行い、ブレーキング時の車両の安定性を向上させます。

 **注意:** エレクトロニックスタビリティコントロールは推奨指定タイヤの使用時に限り正常に作動します。

エレクトロニックスタビリティコントロールはエンジンを始動するとすぐ自動的にアクティブになります。

 **警告:** エレクトロニックスタビリティコントロール警告が点灯した場合、エレクトロニックスタビリティコントロールを解除しないでください。道路や交通状況に合わせた運転を行ってください。

トラクションコントロールシステム

トラクションコントロールシステムはエレクトロニックスタビリティコントロールに欠かせない部分です。

運転操作装置 走行安全システム

トラクションコントロールシステムはホイールのスピンを防止するためにトルクを低減します。ホイールのスピンを止めるためにさらに介入が必要な場合はリアホイールに個別にブレーキがかかります。トラクションコントロールシステムは個々の駆動輪にブレーキをかけてスピンを防止します。これにより、滑りやすい路面でも加速が可能になります。

警告: スピードを出し過ぎている場合、トラクションコントロールシステムが事故の危険性を低減することはできません。

エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC) を非アクティブにする

警告: エレクトロニックスタビリティコントロールを非アクティブにすると、車両がスリップする危険性が高まります。道路や交通状況に合わせた運転を行ってください。

警告: サーキット走行時、周囲の状況が適切である場合をのぞいて、エレクトロニックスタビリティコントロールを非アクティブにしないでください。

注意: エレクトロニックスタビリティコントロールを非アクティブにすると、以下の状態が発生します。

- 「ESC OFF」警告灯の点灯
- 「ESC OFF」ボタンの点灯
- エレクトロニックスタビリティコントロールによる走行安定性の改善が行われません

- エンジンのトルク制限解除および駆動輪のスピン
- アンチロックブレーキシステムはアクティブのままです

エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC) のダイナミックモード

エレクトロニックスタビリティコントロールのレベルは、現在アクティブなハンドリングモードに対応し、ドライバーの要求に合わせてさまざまなダイナミックモードに調節することができます。

エレクトロニックスタビリティコントロールのダイナミックモードは車速に関わらず選択できます。

スポーツハンドリングモードまたはトラックハンドリングモードがアクティブであることを確認してください（「ハンドリングコントロール」(2.20 ページ)参照）。



スポーツダイナミックモード

1. スポーツハンドリングモードを選択します。

エレクトロニックスタビリティコントロールはデフォルトでオンになっています。

2. 「ESC OFF」ボタンを短く押してスポーツダイナミックモードをアクティブにします。このモードでは、デフォルトの ESC オンモードに比べてよりダイナミックな自由度が得られます。

「ESC DYN」がドライバーディスプレイに表示されます。

運転操作装置 走行安全システム

トラックダイナミックモード

1. トラックハンドリングモードを選択します。

エレクトロニックスタビリティコントロールはデフォルトでオンになっています。

2. 「ESCOFF」ボタンを短く押して、トラックダイナミックモードをアクティブにします。このモードでは、スポーツダイナミックモードよりもさらにダイナミックな自由度が得られます。

「ESCDYN」がドライバーディスプレイに表示されます。

ESC オフ

1. スポーツハンドリングモードまたはトラックハンドリングモードを選択します。
2. ESCダイナミックモードになっていない場合、「ESC OFF」ボタンを軽く押して、ESCダイナミックモードをアクティブにします。
3. 「ESCOFF」ボタンを2秒間押し続け、その後5秒以内にもう一度押すと、エレクトロニックスタビリティコントロールが非アクティブになります。

ドライバーディスプレイに「ESCOFF」と表示され、「ESCOFF」ボタンのランプが点灯します。

エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC) の再開

エレクトロニックスタビリティコントロールを再びアクティブにすると、ドライバーディスプレイにあるエレクトロニックスタビリティコントロールオフ警告灯が消灯します。

i 注意: エレクトロニックスタビリティコントロールはイグニッションスイッチをオフにし、次にオンにすると再び自動的にアクティブになります。

再アクティブ手順



エレクトロニックスタビリティコントロールを再びアクティブにするには、以下のいずれかを実行します。

- 「ESCOFF」ボタンを軽く押して、ボタンのランプを消灯させます。
- ハンドリングコントロールのモードをコンフォートに変更します。
- イグニッションスイッチをオフにし、再びオンにします。

運転操作装置 走行安全システム

タイヤ空気圧監視システム (TPMS)

寒冷時に走行する場合は必ず各タイヤを点検し、タイヤ空気圧ラベルに記載された推奨空気圧になるように調整する必要があります。(車両のタイヤのサイズがタイヤ空気圧ラベルに記載されたサイズと異なる場合は、ご自分で適切な空気圧を判断する必要があります。)

特定の状況では、空気漏れではない場合でも、タイヤ空気圧監視システム (TPMS) の圧力警告が表示される可能性があります。これは、タイヤ空気圧を設定した場所と車両を走行させる場所との温度差に原因がある場合があります。例えば、エアコンが作動している場所または暑い車庫で空気圧を設定してから外を走行すると、走行開始からしばらくしてタイヤ空気圧警告が表示されることがあります。外気温が極度に変動した場合、または季節的な温度変化によって、警告が表示されることもあります。

⚠ 警告: タイヤ空気圧の警告を無視しないでください。すぐにタイヤ空気圧を点検し、必要場合は McLaren 代理店にお問い合わせください。

タイヤ空気圧監視システム (TPMS) の概要



タイヤ空気圧監視システムは、タイヤの空気圧が低下したときや、タイヤ温度が許容水準を超えたときに警告を発します。

このシステムは各タイヤバルブに配されたセンサーと車内に配されたレシーバを使用し、各タイヤのタイヤ空気圧と温度を監視します。センサーとレシーバ間の通信は無線周波 (RF) 信号によって行います。

i 注意: タイヤ空気圧監視システムは、車内または車両の近くで無線送信機 (無線式ヘッドホン、送受信機など) を使用すると干渉を受けることがあります。

i 注意: タイヤ空気圧監視システムは、車両が 10 km/h (6 mph) を超えて走行していると送信を開始します。システムの情報は最大 2 分遅延してドライバーディスプレイに表示されます。

タイヤ空気圧監視システム (TPMS) の操作

⚠ タイヤ空気圧の低下や上昇、またはタイヤ温度の上昇が検知されると、ドライバーディスプレイに関連するエラーメッセージが表示されるとともに、タイヤ空気圧監視システム警告灯が点灯します。

速やかに車両を停止し、すべてのタイヤを点検し、推奨空気圧まで空気を入れてください。「タイヤ空気圧」(6.38 ページ) を参照してください。この警告灯は、タイヤの空気圧を適正な空気圧にすると消灯します。

極端に空気圧が不足したタイヤで走行を続けるとタイヤがオーバーヒートし、タイヤの破損につながります。空気圧不足は燃費を悪くし、タイヤトレッドの寿命を短縮させ、車両のハンドリングや停止性能に悪影響を及ぼす可能性があります。

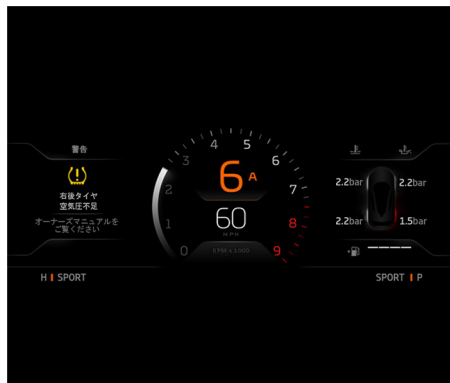
⚠ 警告: TPMS はタイヤの適切なメンテナンスに取って代わるものではありません。空気圧不足が TPMS 空気圧不足警告灯を点灯させるほどではない場合であっても、適正な空気圧を維持するのはドライバーの責任です。

運転操作装置 走行安全システム

タイヤはすべて、冷えている間に毎週点検し、タイヤ空気圧ラベルに記載の推奨空気圧になるように調整する必要があります。

ドライバーディスプレイの「車両情報」画面に移動して、現在のタイヤ空気圧を表示します。

「車両情報」(3.06 ページ)を参照してください。



このディスプレイには、4本のタイヤそれぞれの空気圧が表示されます。空気圧の値が緑色で表示されている場合は何もする必要はありません。赤字で表示されている場合はすぐ、該当するタイヤが適正な空気圧になるまで空気を入れてください。

タイヤ空気圧の減少の考えられる原因に関してタイヤを点検してください。

警告: ドライバーディスプレイに表示されるタイヤ空気圧は、圧力計で計測するよりも正確です。タイヤ空気圧監視システムは、タイヤ空気圧の手動による点検や、摩耗や損傷の点検の代わりとなるものではありません。このシステムは空気圧不足を警告するためのものであり、タイヤの空気を入れるものではありません。タイヤ空気圧監視システムにはタイヤの損傷を警告する機能はありません。タイヤの状態を定期的に点検してください。

警告: 頻繁に空気圧不足警告が発生する場合は、マクラーレン代理店にタイヤの点検を依頼してください。空気圧が不足したタイヤで走行を続けるとタイヤがオーバーヒートし、タイヤの破損につながります。

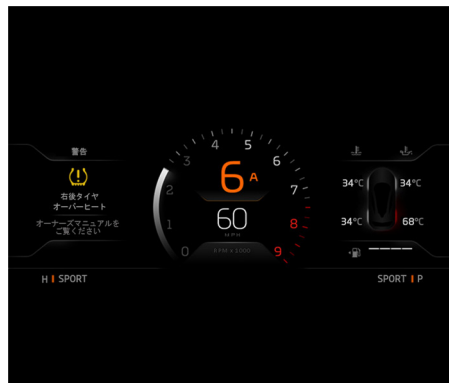
環境: タイヤの空気圧不足は燃費を悪化し、タイヤトレッドの寿命を短縮させ、車両のハンドリングやブレーキ性能に悪影響を及ぼす可能性があります。

環境: 少なくとも週に1回はタイヤ空気圧を点検してください。

タイヤ温度監視システムの動作

タイヤ温度の上昇が検知されると、タイヤ温度監視システムがドライバーディスプレイにエラーメッセージを表示します。

ドライバーディスプレイの「車両情報」画面に移動して、現在のタイヤ温度を表示します。「車両情報」(3.06 ページ)を参照してください。



このディスプレイには、4本のタイヤそれぞれの現在の温度が表示されます。温度が青色で表示された場合、タイヤはまだ最適な動作温度に達していません。温度が緑色で表示された場合、何もする必要はありません。赤色で表示された場合、タイヤの安全な動作温度を超えています。安全な温度になるまで、すなわち温度が緑色で表示されるようになるまで減速するか車両を停止してください。

タイヤの温度の上昇の考えられる原因に関してタイヤを点検してください。

運転操作装置 クルーズコントロール

概要

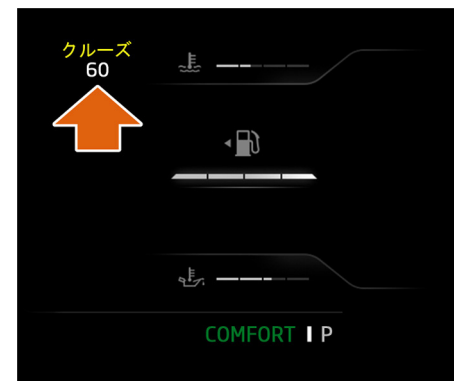
⚠ 警告: クルーズコントロールをアクティブにしたときは道路や交通状況に特に注意し、常に周囲の状況に対し安全な速度で走行してください。
ワインディングロードや滑りやすい路面、あるいは霧や強雨、降雪時など視界が悪い状況では決してクルーズコントロールを使用しないでください。

クルーズコントロールを使用すると、ドライバーはアクセルペダルを使用せずに一定の速度を維持することができます。これは、一定の速度を長時間維持できる高速道路走行時に便利な機能です。



クルーズコントロール機能はすべて、ステアリングコラムの右側にあるクルーズコントロールレバーで操作します。

クルーズコントロールの使用



クルーズコントロールをアクティブにするには、設定したい速度まで加速してレバーを短く上に押します。設定された速度がドライバーディスプレイに表示されます。

i 注意: クルーズコントロールは車速が 30 km/h (20mph) を超えないと作動しません。

アクセルペダルを踏むことにより、随時速度を上げることができます。アクセルペダルを離すと、車両はクルーズコントロール速度に戻ります。

運転操作装置 クルーズコントロール

 **警告:** クルーズコントロールを使用していることを常に意識し、長時間クルーズコントロールを超えた速度で走行しないでください。この状況でアクセルペダルを離した場合、予想したペースで車両が減速しないことがあります。

クルーズコントロールの取り消し



クルーズコントロールレバーを短く奥に押します。

クルーズコントロールがキャンセルされます。ドライバーディスプレイのインジケータは消灯しますが、直前に設定していた速度が保存されます。

 **注意:** 保存されている前回の速度は、エンジンスイッチをオフにするとクリアされず。

また、フットブレーキを踏んだ場合やニュートラルを選択した場合にも、クルーズコントロールがキャンセルされます。

 **注意:** エレクトロニックスタビリティコントロールがホイールスピンまたは車両のスリップを検知した場合、またはエレクトロニックスタビリティコントロールをオフにした場合、クルーズコントロールは自動的にキャンセルされます。

運転操作装置 クルーズコントロール

クルーズコントロールの速度を上げる



- レバーを短く上に押すと、車速が1 km/h (1mph) 刻みで上がります (選択した単位によります。「速度と距離の単位」(4.08ページ)を参照してください)。
- または、レバーを上押し続け、設定したい速度に達したらレバーを放します。
- または、新たに設定したい速度まで加速し、レバーを上押しします。

クルーズコントロールの速度を下げる



- レバーを短く下に押すと、車速が1 km/h (1mph) 刻みで下がります (選択した単位によります。「速度と距離の単位」(4.08ページ)を参照してください)。
- または、レバーを下押し続けると車両が減速するので、設定したい速度に達したらレバーを放します。

i 注意: クルーズコントロールレバーを使用して減速した場合、減速を早めるためにギアボックスがシフトダウンする場合があります。

ギアチェンジパドルを使用してシフトダウンした場合は、クルーズコントロールは停止しません。

運転操作装置 クルーズコントロール

保存した速度の呼び出し

 警告: 保存した速度は、周囲の道路や交通状況に合わない限り呼び出さないください。急加速は危険です。



クルーズコントロールレバーを手前に軽く引きます。

クルーズコントロールは保存した前回の速度に車速を調整します。

運転操作装置

アクティブスピードリミッター (ASL)

速度上限の設定

 **警告:** 速度制限を適切に順守することはドライバーの責務です。

 **警告:** アクティブスピードリミッター (ASL) 機能は急な下り坂など、一定の状況下においては車両が速度上限を超えることを許容することがあります。

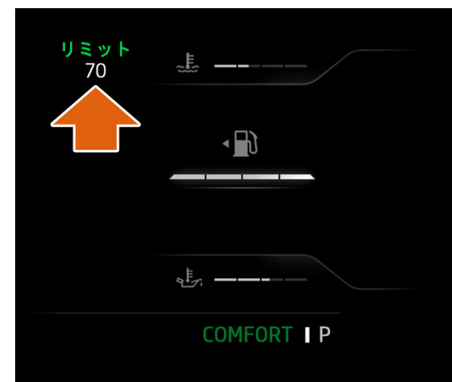
 **注意:** 車両が停止しているときでも ASL をアクティブにすることができます。速度上限はデフォルトの速度である 30 km/h (20 mph) に設定されます。

ドライバーは ASL コントロールから速度上限を設定することができます。

速度の選択



1. 車両を最大許容速度まで加速または減速し、レバーを短く下に押して、アクティブスピードリミッター (ASL) をアクティブにします。



2. 速度上限がドライバーディスプレイに表示されます。

 **注意:** スロットルペダルを所定の位置以上に踏み込むことで、ASL をオーバーライドできます。

運転操作装置

アクティブスピードリミッター (ASL)

アクティブスピードリミッター (ASL) の キャンセル



アクティブスピードリミッター (ASL) をキャンセルするには、レバーを短く奥に押します。ドライバーディスプレイのインジケーターが消灯します。

運転操作装置

慣らし運転

慣らし運転

新車時、または以下のいずれかの部品を交換したときは、以下の説明に従って慣らし運転を行ってください。

エンジンおよびギアボックス

1,000 km (625 マイル) 走行まで:

- 様々な道路とエンジン回転数で走行してください。
- 道路の制限速度の範囲内で、もしくは240 km/h (150 mph) 以下で走行してください。
- サーキットでの走行は行わないでください。
- エンジンに過剰な負荷をかけないでください (フルスロットルでの走行)。
- 2,000 rpm 未満のエンジン回転数での走行は避けてください。
- 一定の速度や負荷で長時間走行することは避けてください。
- キックダウンは使用しないでください。
- シフトダウンによって強いエンジンブレーキをかけないでください。
- 高速走行や高負荷走行後は2分以上経過するまでエンジンを停止しないでください。
- 10 分以上エンジンをアイドリングしないでください。

1,000 km (625 マイル) の慣らし運転期間が終了したら、徐々にフルパフォーマンスで使用できるようにします。

 **注意:** 慣らし運転中にエンジンやギアボックスの使用制限を守らない場合、早期摩耗や損傷が発生する可能性があります。

 **注意:** 慣らし運転に関する説明は、エンジンまたはトランスミッションの交換後の最初の 1,000 km (625 マイル) にも適用されます。

 **環境:** この助言は燃費の向上にも役立つものであり、慣らし運転後の通常の運転スタイルにも取り入れることをお勧めします。

ブレーキ

新しいブレーキには、初期のなじみ期間が必要です。最初の 1,000 km (625 マイル) までは急ブレーキを避けてください。

標準/道路での使用

- 高回転および高負荷走行を行う前にエンジンを暖機してください。エンジンが完全に動作温度に達するまではエンジン回転数が 5,000 rpm を超えないようにしてください。
- 高回転/高負荷走行後は、2 分以上経過するまでエンジンを停止しないでください。
- 10 分以上エンジンをアイドリングしないでください。

運転操作装置 慣らし運転

サーキットでの使用

 注意: 慣らし運転中にサーキット走行は行わないでください。

サーキット走行を行う場合は、事前にマクラーレン代理店にご相談ください。マクラーレンでは、サーキット走行の前後に車両を点検に出すよう推奨しています。

運転操作装置 給油

燃料の給油

 **警告:** 燃料は高い引火性があります。燃料を取り扱う際には火気、裸火、喫煙および携帯電話の使用は禁止されています。給油の前にエンジンを停止してください。

 **警告:** 燃料および気化した燃料は、健康を害するおそれがあります。気化した燃料を吸い込んだり、燃料が皮膚や衣服に付着したりしないように注意してください。

 **警告:** 非標準の給油ノズルを使用する場合は、必ず燃料フィルターをお使いください。
「燃料フィルターパイプを使用した給油」
(2.41 ページ) を参照してください。

給油口フラップは左側リアにあります。車両のロック、ロック解除に連動して自動的にロックまたはロック解除されます。

 **注意:** 車両がロックされているときにフューエルフィルターフラップを無理に開けようとしないでください。フラップやロックメカニズムが損傷するおそれがあります。

 **注意:** フューエルフィルターフラップはエンジンを停止しないとロック解除されません。

ガソリンスタンドの給油機による給油

1. エンジンを停止します。



2. 給油口フラップの後端を押します。ラッチが解除されます。
3. フラップを開けます。

 **注意:** この車には給油口キャップはありません。

4. 給油口にノズルを挿入して給油します。推奨燃料については「推奨燃料」(2.42 ページ) を参照してください。
5. ポンプのノズルがオフになった後は、タンクへの給油を続けしないでください。
6. ノズルを取り外します。
7. 給油口フラップを閉じます。ラッチが掛かる音がします。

燃料フィルターパイプを使用した給油

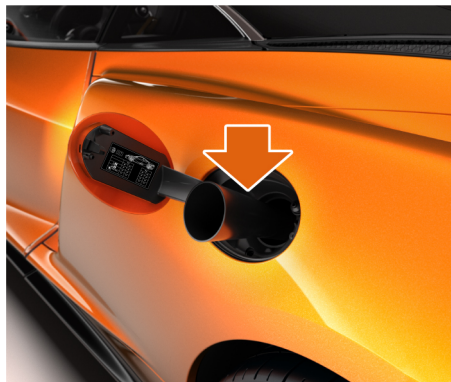
1. エンジンを停止します。



2. 給油口フラップの後端を押します。ラッチが解除されます。
3. フラップを開けます。

 **注意:** この車には給油口キャップはありません。

運転操作装置 給油



- ラゲッジルームから燃料フィラーパイプを取り出します。「燃料フィラーパイプ」(6.12 ページ)を参照してください。
- フィラーネックに燃料フィラーパイプを挿入します。
- 燃料フィラーパイプにノズルを挿入して給油します。推奨燃料については「推奨燃料」(2.42 ページ)を参照してください。
- 燃料を入れ過ぎないでください。



警告: 燃料がこぼれたり溢れたりしないように注意してください。こぼれた燃料はすぐに拭き取ってください。

- ノズルを取り外します。

- 燃料フィラーパイプを取り外し、よく拭いてフロントラゲッジルームに収納します。
- 給油口フラップを閉じます。ラッチが掛かる音がします。

推奨燃料

エンジンの性能を最大に引き出すためには、EN 228 規格に適合した 98 RON/88 MON 無鉛ガソリンを使用してください。

98 RON/88 MON が入手できない地域では、EN 228 規格に適合したオクタン価が 95 RON/85 MON 以上の無縁プレミアムガソリンを使用してください。



注意: 給油する燃料の品質に関する情報は給油機に表示されています。



注意: 給油機燃料が無鉛ガソリンに関する EN 228 の要件を満たしていない場合や燃料添加剤を使用した場合、エンジンが摩耗・損傷する可能性が高くなります。誤った燃料の使用によって生じた損傷は車両保証の対象外となります。



注意: この車両は、E10 燃料（エタノール含有量 10%）の使用に適しています。この車両は 10% を超えるエタノールを含有する燃料の使用には適しません。この車両は 10% を超えるエタノールを含有する燃料の使用が必要な装置を装備していません。

E85 燃料（85% エタノール含有）は使用しないでください。E85 燃料を使用すると、エンジンと燃料システムに深刻な損傷が発生します。

運転操作装置 給油

 注意: フューエルタンクに誤った種類の燃料を間違えて給油した場合は、エンジンを始動せずに、マクラーレン正規代理店にご連絡ください。

運転操作装置 冬季の走行

冬季の走行

冬のはじめに、マクラーレン代理店で車両を点検することを推奨します。この点検には以下の項目が含まれています。

- 不凍液/防錆剤濃度の点検
- フロントウィンドウウォッシャーシステムへの高濃度ウォッシャーフルードの補充
- バッテリーの点検
- タイヤ交換

ウィンタータイヤ

気温が7°C (45°F) 以下のときや、雪道または凍結路の走行時はウィンタータイヤを使用してください。アンチロックブレーキシステムとエレクトロニクススタビリティコントロールの効果を最大限に発揮させるためには、ウィンタータイヤを装着する必要があります。

安全なハンドリング特性を維持するために4輪とも同一メーカーおよびトレッドのウィンタータイヤを使用してください。センターインフォテイメントタッチスクリーンの「車両設定」でタイヤタイプを変更します。「タイヤ」(4.11 ページ)を参照してください。

ウィンタータイヤは非対称ではなく回転方向が指定されているため、タイヤのサイドにある回転方向マークに合わせて装着する必要があります。

 注意: マクラーレン指定のウィンタータイヤのみを使用してください。

 **警告: トレッドの深さが4 mm 未満になったウィンタータイヤは直ちに交換してください。そのようなタイヤは十分なグリップが得られないため冬季使用には不適切であり、使用した場合事故につながるおそれがあります。**

 注意: ホイールの交換は、必ずマクラーレン代理店で行ってください。不適切にジャッキアップした場合、車両を損傷するおそれがあります。

装着したウィンタータイヤに指定されている最高速度に関する助言や情報はマクラーレン代理店にお問い合わせください。ASL システムを使用して車両の最大速度を制限してください。「速度上限の設定」(2.37 ページ)を参照してください。

スノーソックス

マクラーレンは、マクラーレン車用として認定されたスノーソックスのみの使用を推奨します。スノーソックスを装着する場合は、以下の点に注意してください。

- スノーソックスは必ずリアホイールのみ、かつ左右両方に装着してください。
- メーカーの取付説明書に従います。

スノーソックスのパッケージに記載された最大許容速度を超えないようにしてください。雪道での走行が終わったら速やかにスノーソックスを取り外してください。

インストールメント

概要.....	3.02
概要.....	3.02
タコメーター.....	3.02
スピードメーター.....	3.03
ドライバーディスプレイ.....	3.04
概要.....	3.04
トリップ情報.....	3.05
車両情報.....	3.06
ナビゲーション.....	3.08
メッセージ.....	3.09
ディスプレイウィンドウ.....	3.13
ギア位置インジケータ.....	3.14
ハンドリングおよびパワートレインディスプレイ.....	3.14
エレクトロニクススタビリティコントロール（ESC）モードの表示.....	3.15
オイル温度.....	3.15
水温.....	3.16
燃料残量および範囲.....	3.16

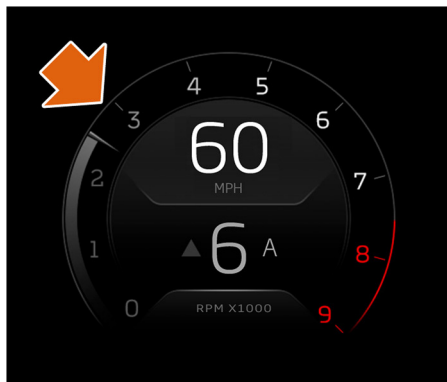
インストルメント 概要

概要

ドライバーディスプレイはイグニッションをオンにするとアクティブになります。「イグニッションのスイッチをオンにする」(2.03 ページ)を参照してください。

 **警告:** ディスプレイまたは車両の電気系統が故障している場合、ドライバーディスプレイにメッセージは表示されません。直ちにマクラーレン代理店にご相談ください。このような状況での車両の使用は危険です。

タコメーター



タコメーターディスプレイは、パワートレインおよびハンドリングモードがノンアクティブ、コンフォートまたはスポーツのときにドライバーディスプレイの中央に表示されます。ディスプレイの赤色の数字はエンジンの最高 RPM を表しています。

パワートレインまたはハンドリングモードでトラックを選択すると、タコメーターのスタイルが選択したモードに合わせて変更されます。「ディスプレイウィンドウ」(3.13 ページ)を参照してください。

 **注意:** 最高 RPM は動的であり、特定の条件下で低下します。例えば、エンジンオイルが通常の動作温度未満である場合、またはニュートラルギアが選択されている場合です。

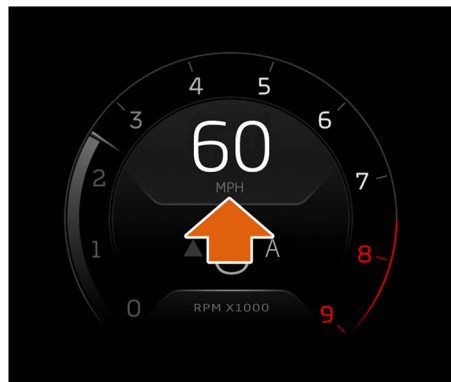
 **注意:** エンジンを長時間最高回転数もしくはそれに近い回転数で動作させないでください。最高 RPM に達するとエンジンを保護するために燃料供給が遮断されます。

シフトライト

パワートレインまたはハンドリングモードでトラックを選択すると、ドライバーディスプレイの上端にシフトライトが表示されます。シフトライトは、緑色ブロック、赤色ブロックおよび青色ブロックの3つのブロックで構成されています。各ブロックはエンジン回転数が増加すると点灯します。青色ブロックが点灯するポイントを超えてエンジン回転数が増加すると、急加速できません。

インストルメント 概要

スピードメーター



ノンアクティブまたはコンフォートパワートレインおよびハンドリングモードの場合、スピードメーターはドライバーディスプレイの中央に表示されます。

スポーツ、トラックパワートレインまたはハンドリングモードが選択されている場合、スピードメーターのスタイルは選択したモードを合わせ変更されます。「ディスプレイウィンドウ」(3.13 ページ)を参照してください。

- i** 注意: スピードメーターは、単位をマイルからキロメートルに変更すると、mph から km/h に切り替わります。「速度と距離の単位」(4.08 ページ)を参照してください。
- i** 注意: システムに通信障害がある場合は、車速は常に「0」と表示されます。障害を通知するために、ドライバーディスプレイに警告メッセージが表示されます。障害発生時には、状況に合わせた運転を行い、常に車速に気を配ってください。マクラレーン代理店にお問い合わせください。

インストールメント ドライバーディスプレイ

概要

警告は、ドライバーディスプレイのポップアップウィンドウに表示されます。

保存されているメッセージは、イグニッションがオンのときに随時見ることができます。「メッセージ」(3.09 ページ)を参照してください。

警告: 車両が走行中にメニューを操作・閲覧しようとする、道路や交通状況に対する注意が散漫になり、事故につながるおそれがあります。

警告: 警告メッセージを無視しないでください。適切な対応を怠ると、怪我を負ったり車両が損傷するおそれがあります。

時計

現在の時刻が表示されます。詳細については、「時間と単位」(4.06 ページ)を参照してください。

温度

警告: 表示された温度が氷点よりも高い場合であっても、路面が凍結している可能性があります。常に運転スタイルと速度を天候状況に合わせる必要があります。

温度は現在の外気温です。外気温の変化が表示されるまでに若干の時差があります。

外気温が3°C (37°F) より下がると低温警告メッセージが表示され、メッセージが表示された後で温度の表示色が変わります。

外気温が0°C (32°F) より下がると凍結警告が表示されます。

メニュー



ステアリングコラムの左側にあるコントロールレバーを使用することにより、メニュー構造を操作することができます。

以下のカテゴリーが利用可能です。

- 「トリップ情報」(3.05 ページ)
- 「車両情報」(3.06 ページ)
- 「ナビゲーション」(3.08 ページ)

メニューのナビゲーション

1. コントロールレバーを上または下に動かして (+ または -) 選択する項目をハイライトさせます。
2. レバーを手前に引いて選択した項目に入ります。
3. 次に、一覧の中から見たいトピックを選び、コントロールレバーを上または下に動かして (+ または -) 目的のトピックをハイライトさせます。
4. 構造内の次のメニューに移動するには、レバーを手前に引きます。
5. 各構造の最後に情報または画面の表示があり、ここで設定の変更または情報の表示ができます。

インストールメント ドライバースプレイ



6. 必要な機能の選択または設定を行った場合、レバーを手前に引いて確定します。

トリップ情報



ドライバースプレイには、次のトリップデータを表示できます。

- 「トリップ（開始後）」 (3.05 ページ)
- 「トリップ（長期）」 (3.06 ページ)

トリップデータをゼロにリセットするには、メニューから必要なオプションを選択し、レバーを手前（FORWARD）に引いて確定します。

トリップ（開始後）



今回の走行距離、時間、平均燃料消費量、および平均速度を表示します。

この情報はエンジンのスイッチをオフにして約2時間以上経過した場合もゼロにリセットされます。

インストールメント ドライバーディスプレイ

トリップ（長期）



前回のトリップメーターリセット後の走行距離、時間、平均燃料消費量、および平均速度を表示します。

オドメーター

オドメーターは各トリップ画面に表示され、車両が走行した合計距離を表示します。

車両情報

概要



車両情報画面では以下の項目を選択できます。

- 「メッセージ」（3.06 ページ）
- 「タイヤ」（3.07 ページ）
- 「オイルステータス」（3.07 ページ）
- 「バッテリー」（3.07 ページ）
- 「サービス」（3.08 ページ）
- 「車両識別番号」（3.08 ページ）

メッセージ



この画面はログに記録されたエラーメッセージがないことを確認します。

ログにエラーが記録されている場合は、この画面にエラーメッセージとメッセージをスクロールするための矢印が表示されます。

インストルメント ドライバードisplay

タイヤ



このディスプレイには4本のタイヤそれぞれの空気圧および温度が表示されます。白色で表示されている場合、何もする必要はありません。アンバー色または赤色の文字で表示されている場合、速やかにタイヤを検査し、空気圧を調整してください。

タイヤを点検し、減圧または温度上昇の原因を確認してください。

オイルステータス



オイルのレベルを示すゲージがオイル温度とともに表示されます。

エンジンオイルレベルの点検方法については、「エンジンオイル」(6.02 ページ)を参照してください。

バッテリー



バッテリーの充電状態を示すゲージが表示されます。

バッテリーを充電するには、「バッテリーの充電」(6.13 ページ)を参照してください。

エンジンを始動したりバッテリーを充電したりせずに駐車できる時間の長さについては、「駐車日数」(2.02 ページ)を参照してください。

インストルメント ドライバーディスプレイ

サービス

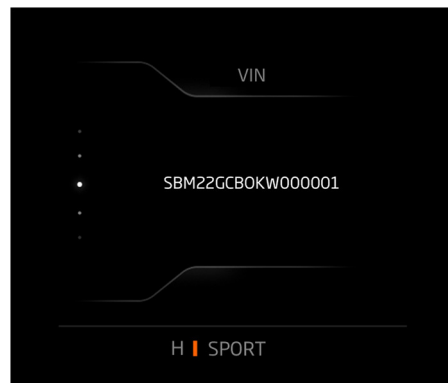


整備日まで約 30 日または 1,000 km (625 マイル) になると、上記画面が表示されます。

それ以降、イグニッションスイッチをオンにするたびに、減少していく時間/距離とともにこのメッセージが表示されます。整備を受けると、マクラレン代理店がこの画面をリセットします。

整備の期限を過ぎると、期限を超過した距離がこの画面に表示されます。

車両識別番号



車両識別番号 (VIN) を表示します。

ナビゲーション



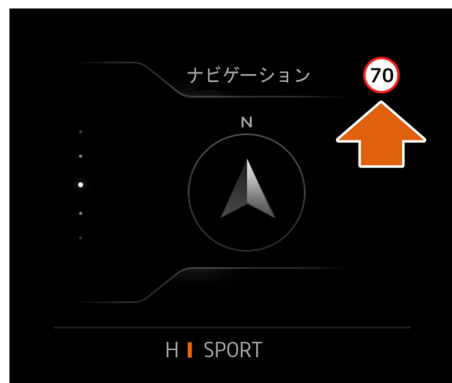
ドライバーディスプレイを使用してルート案内が開始されると、ナビゲーションによる最新の道案内がセンターインフォテイメントタッチスクリーンに表示されます。

ルートの設定およびナビゲーション機能の使用の詳細については、「ナビゲーション」(4.33 ページ)を参照してください。

ターンバイターン表示では、次の進行方向と距離が表示されます。

i 注意: 目的地をセンターインフォテイメントタッチスクリーンで設定していない場合、コンパスと現在の道路名のみが表示されます。

インストールメント ドライバードisplay



可能な場合、走行中の道路の速度制限がドライバードisplayに表示されます。

i 注意: この速度制限はあくまで参考であり、一時的または新しい速度制限が設定されている可能性があるため、必ず現地の速度制限情報を確認してください。

メッセージ

ドライバードisplayに、オーナーズハンドブックを参照するように指示するメッセージが表示されることがあります。

重大度を示すメッセージとともにアイコンが表示されます。

 操作が必要でない情報。

 操作が必要な情報。

 低リスクの障害情報。

 高リスクの障害情報。

i 注意: メッセージによっては、特定の機能で障害が発生していることを示すアイコンが異なる場合があります。

メッセージによっては、オーナーズハンドブックを参照してください。下記の表は、それらのメッセージが表示されたときにどうすべきかを示します。

! **警告: 警告メッセージを無視しないでください。適切な対応を怠ると、怪我を負ったり車両が損傷するおそれがあります。**

インストルメント ドライバーディスプレイ

メッセージ

メッセージ	アクション
ブレーキフルードが少なくなっています	ブレーキフルードを補充してください。「ブレーキフルード」(6.07 ページ)を参照してください。
ステアリングフルードが少なくなっています	パワーステアリングフルードを補充してください。「パワーステアリングフルード」(6.06 ページ)を参照してください。
左前輪タイヤ圧が低くなっています	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」(6.37 ページ)を参照してください。
右前輪タイヤの空気圧が低くなっています	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」(6.37 ページ)を参照してください。
左後輪タイヤの空気圧が低くなっています	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」(6.37 ページ)を参照してください。
右後輪タイヤの空気圧が低くなっています	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」(6.37 ページ)を参照してください。
クラッチの温度が高すぎます	この車は極端な条件のもとで走行が行われました。このような条件は、極度の坂道発進や急加速の繰り返し、急な上り坂での長時間に渡る低速走行によって生じることがあります。その結果、ギアボックスがエンジントルクを制限することがあります。車両を停止し、ニュートラルギアでエンジンを数分間アイドリングしてください。
クラッチ温度が高いです	この車は極端な条件のもとで走行が行われました。このような条件は、極度の坂道発進や急加速の繰り返し、急な上り坂での長時間に渡る低速走行によって生じることがあります。その結果、ギアボックスがエンジントルクを制限することがあります。車両を停止し、ニュートラルギアでエンジンを数分間アイドリングしてください。

インストルメント ドライバードisplay

メッセージ	アクション
ESC をオフにできません	ESC の停止条件が満たされていません。「エレクトロニクススタビリティコントロール (ESC) 」 (2.28 ページ) を参照してください。
左前輪タイヤの空気圧が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」 (6.37 ページ) を参照してください。
右前輪タイヤの空気圧が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」 (6.37 ページ) を参照してください。
左後輪タイヤの空気圧が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」 (6.37 ページ) を参照してください。
右後輪タイヤの空気圧が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」 (6.37 ページ) を参照してください。
ESC を減少できません	ESC の低減条件が満たされていません。「エレクトロニクススタビリティコントロール (ESC) 」 (2.28 ページ) を参照してください。
ローンチモードを利用できません	発進が可能な条件が満たされていません。「発進コントロール」 (2.24 ページ) を参照してください。
ローンチモードが中断されました	「発進コントロール」 (2.24 ページ) を参照してください。
現在の走行速度ではクルーズ制御は利用できません	「クルーズコントロールの使用」 (2.33 ページ) を参照してください。
左前輪タイヤの温度が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」 (6.37 ページ) を参照してください。

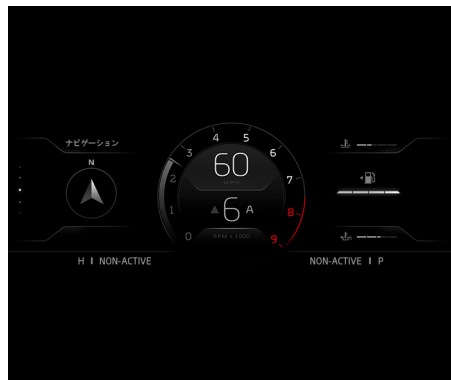
インストールメント ドライバーディスプレイ

メッセージ	アクション
右前輪タイヤの温度が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」(6.37 ページ)を参照してください。
左後輪タイヤの温度が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」(6.37 ページ)を参照してください。
右後輪タイヤの温度が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。「ホイールとタイヤの点検」(6.37 ページ)を参照してください。
バッテリー管理有効	車両が十分な電圧を供給することができない場合、パワーセービングモードが有効になります。室内温度制御とステアリングは低減効果で作動します。「車両の電氣的状態」(2.02 ページ)を参照してください。
キーバッテリーの残量が極めて低いです	「リモコンキーの電池の交換」(6.33 ページ)を参照してください。
キーの電池残量低下	「リモコンキーの電池の交換」(6.33 ページ)を参照してください。
ガラスウォッシャー液が少なくなっています	フロントウィンドウウォッシャーフルードを補充してください。「フロントウィンドウウォッシャーフルード」(6.09 ページ)を参照してください。

インストルメント ドライバースプレイ

ディスプレイウィンドウ

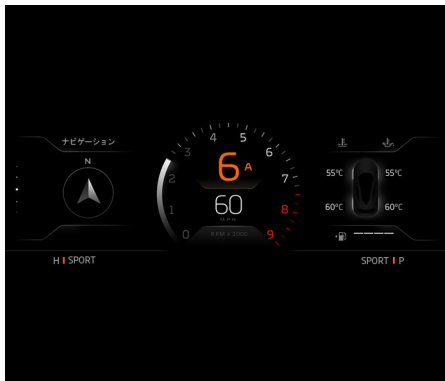
ノンアクティブ/コンフォートモード



ディスプレイウィンドウには、車両のコントロール設定および現在のパフォーマンス値が表示されます。車両がノンアクティブ/コンフォートモードの場合、上図のドライバースプレイが表示されます。

ドライバースプレイの中央部分に表示される情報は、選択したモードによって異なります。「スポーツモード」(3.13 ページ)と「トラックモード」(3.13 ページ)を参照してください。

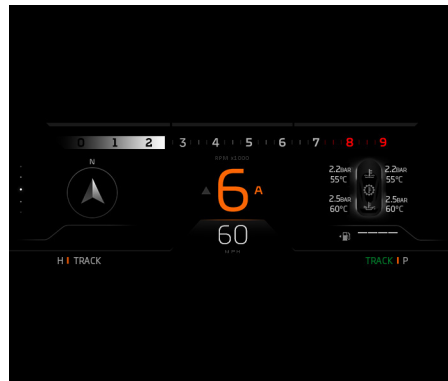
スポーツモード



ディスプレイウィンドウには、車両のコントロール設定および現在のパフォーマンス値が表示されます。車両がスポーツモードの場合、上図のドライバースプレイが表示されます。

ドライバースプレイの中央部分に表示される情報は、選択したモードによって異なります。「ノンアクティブ/コンフォートモード」(3.13 ページ)と「トラックモード」(3.13 ページ)を参照してください。

トラックモード



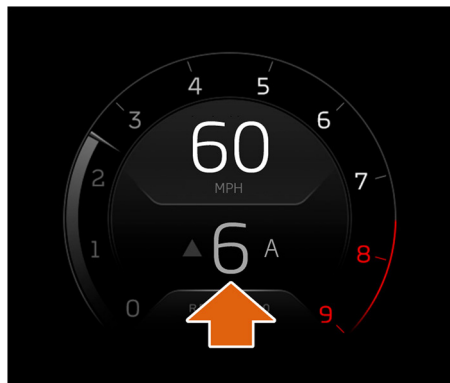
ディスプレイウィンドウには、車両のコントロール設定および現在のパフォーマンス値が表示されます。車両がトラックモードの場合、上図のドライバースプレイが表示されます。

ドライバースプレイの中央部分に表示される情報は、選択したモードによって異なります。「ノンアクティブ/コンフォートモード」(3.13 ページ)と「スポーツモード」(3.13 ページ)を参照してください。

シフトライトの詳細については、「シフトライト」(3.02 ページ)を参照してください。

インストールメント ドライバーディスプレイ

ギア位置インジケータ

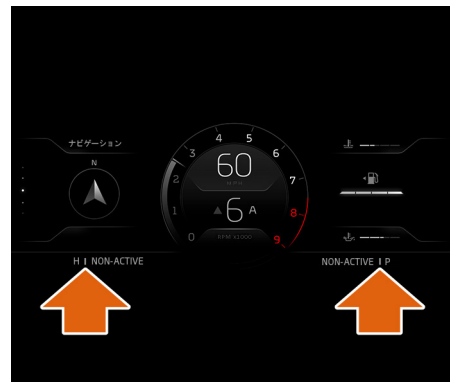


ギアインジケータは現在選択しているギア位置を表示します。ニュートラル、ギア1～7、またはリバース。インジケータは、オートマチックまたはマニュアルモードが選択されているかどうかに応じて、「A」または「M」が表示されます。

ギア位置インジケータは車両がスポーツまたはトラックモードの場合、ドライバーディスプレイの中心に移動して速度計と位置が換わります。「スポーツモード」(3.13 ページ)と「トラックモード」(3.13 ページ)を参照してください。

詳しくは、「マニュアル/オートマチックモード」(2.16 ページ)を参照してください。

ハンドリングおよびパワートレインディスプレイ



「ACTIVE (アクティブ)」ボタンを押していない (アクティブダイナミクスパネルがオフの場合)、ハンドリングおよびパワートレインディスプレイにはともに「Non-Active (ノンアクティブ)」と白字で表示されます。選択しているハンドリングおよびパワートレインモードが表示されている場合でも、すべての前提条件が満たされていないと、モードを切り替えることはできません。利用可能な各種設定に関する詳しい説明は、「アクティブダイナミクスコントロール」(2.19 ページ)を参照してください。

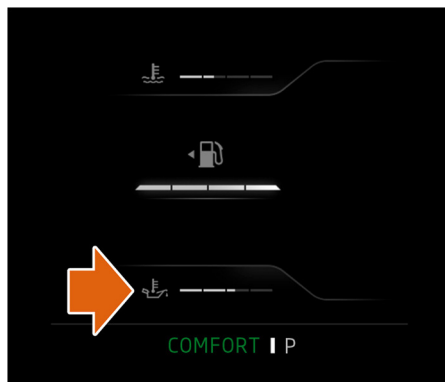
インストルメント ドライバードisplay

エレクトロニクススタビリティコントロール (ESC) モードの表示



選択しているエレクトロニクススタビリティコントロールモードを表示します。利用可能な各種設定に関する詳しい説明は、「アクティブダイナミクスコントロール」(2.19 ページ)を参照してください。

オイル温度



油温計はドライバードisplayの右側にあります。

エンジンを始動するとまず、ゲージの中央の数字は青色で表示されます。エンジンが暖まるにつれて、その色は標準温度を示す白色に変化します。

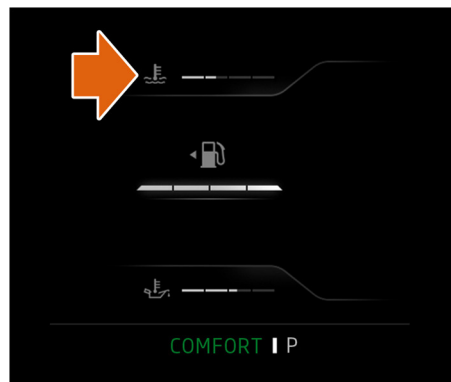
数字が赤色になると、高温であることが示されます。

ゲージが高温の赤色を示した場合は、標準温度になるまで減速してください。温度が上昇を続けた場合、ドライバードisplayに警告メッセージが表示されます。

安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。

インストールメント ドライバーディスプレイ

水温



水温は、ドライバーディスプレイの右側にカラーゲージ形式で表示されます。

エンジンを始動するとまず、ゲージの中央の数字は青色で表示されます。エンジンが暖まるにつれて、その色は標準温度を示す白色に変化します。

数字が赤色に変わると、高温であることが示されます。

ゲージが高温の赤色を示した場合は、標準温度になるまで減速してください。温度が上昇を続けた場合、ドライバーディスプレイに警告メッセージが表示されます。

安全に速やかに車両を停止し、マクラーレン代理店にご連絡ください。

燃料残量および範囲



燃料残量

燃料残量は、ドライバーディスプレイの右側にゲージ形式で表示されます。

到達可能距離（燃料）

到達可能距離は、次の給油が必要になるまでの予想航続距離です。

センターディスプレイ

はじめに	4.02
著作権.....	4.02
補足情報.....	4.02
システムコントロール.....	4.02
概要.....	4.04
設定	4.05
概要.....	4.05
接続.....	4.05
時間と単位.....	4.06
ライト.....	4.09
運転の好み.....	4.10
室内温度.....	4.12
ラジオ.....	4.12
HomeLink.....	4.12
セキュリティ.....	4.13
システム.....	4.15
電話	4.17
概要.....	4.17
デバイスのペアリング/接続.....	4.18
電話をかける.....	4.19
通話を受信.....	4.21
通話中のオプション.....	4.22
通話の終了.....	4.22
連絡先.....	4.22
メディア	4.24
概要.....	4.24
メディアコントロール.....	4.25
外部デバイスへの接続.....	4.26
USB および iPod.....	4.26
ストレージ.....	4.27

Bluetooth オーディオ.....	4.28
ラジオ.....	4.29
ラジオコントロール.....	4.29
ラジオデータシステム (RDS)	4.30
オーディオ	4.31
概要.....	4.31
ナビゲーション	4.33
概要.....	4.33
安全性.....	4.33
ナビゲーションの使用.....	4.33
目的地の設定.....	4.34
HomeLink	4.36
概要.....	4.36
プログラミング.....	4.36
ボタンラベルの編集.....	4.37
操作.....	4.38

センターディスプレイ はじめに

著作権

McLaren Automotive は本書で取り扱われるシステムを常時更新しています。このため、いつでも予告なしに仕様を変更する権利を留保します。

本書で提供される情報はすべて正確なものとなるように最大限の努力が払われていますが、McLaren Automotive またはその販売店は正確な情報またはそれに生じる結果に対して、当事者の怠慢によって生じた人的傷害を除く一切の責任を負いません。

補足情報

Wi-Fi 商標の所有権は「Wi-Fi アライアンス」事業者団体に帰属します。メーカーは、自社認定製品が IEEE 802.11 規格に基づく WLAN（無線ローカルエリアネットワーク）デバイスクラスに属することを示すために、「Wi-Fi」商標を使用する場合があります。

Bluetooth® ワードマークとロゴは Bluetooth® SIG Inc. の所有物であり、McLaren Automotive Ltd. はこれらのマークをライセンスの下に使用しています。Bluetooth QDID: B019632、B017641、B017642。

他の商標および商品名はそれぞれの所有者の商標および商品名です。

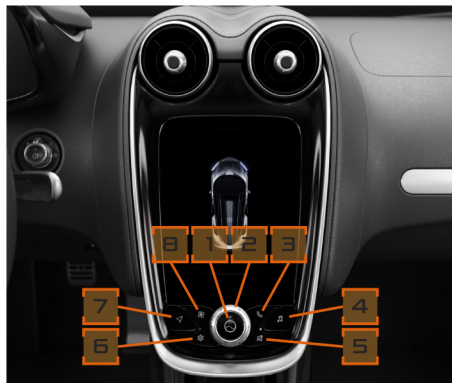
システムコントロール

イグニッションスイッチをオンにするとマクラーレンインフォテインメントシステム（MIS）が起動し、可能な場合には、前回流していた音楽の再生が再開されます。前回流していた音楽を流せない場合、MIS にホーム画面が表示されず、前回スタンバイモードだった場合は、スタンバイモードで起動し、車両のシルエットが表示されます。



 ボタンを押すと MIS が完全に起動し、ホーム画面が表示されます。

センターディスプレイ はじめに



1. ホーム、オン/スタンバイ
2. 音量
3. 電話
4. メディア
5. ミュート
6. 設定
7. ナビゲーション
8. クライメートコントロール

ホーム、オン/スタンバイ

 MIS をオンにするには、ホームボタン (1) を押します。

MIS がオンのときにボタンを短く押すと、システムのどの画面からでもホーム画面に戻ります。

ホームボタンを 3 秒間押し続けると、MIS がスタンバイモードに切り替わります。スタンバイモードからオンに切り替えるには、「ホーム」ボタンを押すだけです。

車両のイグニッションがオフの場合に MIS を使うには、ホームボタンを 1 秒間押したままにして、タイマーモードにアクセスします。このモードでは、ユーザーが延長しない限り、MIS は 15 分後にシャットダウンします。

音量

音量を上げるにはコントロール (2) を時計回りに回し、音量を下げるには反時計回りに回します。

設定した音量を示す水平バーが画面に短時間表示されます。

音量コントロールを使用して、現在アクティブなソースの音量を設定します。アクティブなソースの名前は画面に表示されます。

「ミュート」ボタン (5) を使用している場合 (「ミュート」(4.03 ページ)を参照)、音量コントロールを回すことでサウンドを回復できます。

 注意:音量コントロールのツマミを回して、音量を調整できます。一時的なオーディオソースの場合 (電話呼び出しなど)、そのソースがアクティブなときに音量を調整できます。

電話

 ボタン (3) を押すと、電話機能にアクセスできます。「電話」(4.17 ページ)を参照してください。

メディア

 「メディア」ボタン (4) を押して、保存または接続されているメディアにアクセスします。「メディア」(4.24 ページ)を参照してください。

ミュート

 ボタン (5) を押すと、システムのすべてのサウンドがミュートされます。ミュート記号  が画面に短時間表示されます。

サウンドを復旧するにはもう一度押します。音量コントロール (2) をどちらかの方向に回してサウンドを復旧することもできます。

設定

ボタン (6) を押すと、「設定」にアクセスできます。「概要」(4.05 ページ)を参照してください。

センターディスプレイ はじめに

ナビゲーション

 「ナビゲーション」ボタン (7) を押して、ナビゲーション機能を直接起動します。「ナビゲーション」(4.33 ページ)を参照してください。

クライメートコントロール

 「室内温度制御」ボタン (8) を押して、室内温度制御システムに直接アクセスします。「クライメートコントロール」(5.04 ページ)を参照してください。

ステータスバー

特定のシステムが作動しているとき、または機能がアクティブになっているときに、多くのアイコンが画面上部に表示されます。

 電話の信号強度インジケータ

 デバイスが接続されている場合、Bluetooth®アイコンが白色で表示されます。Bluetooth®デバイスが接続されていない場合、アイコンは表示されません。

以下のアイコンは、接続されたメディアデバイスと統合されたメディアシステムのアイコンと組み合わせて表示され、ステータスを示します。

 メディアミュート

概要

 マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) で利用可能なアプリケーションにアクセスするには、ホームボタンを押すか、ホームアイコンにタッチします。

- 「メディア」(4.24 ページ)
- 「電話」(4.17 ページ)
- 「ナビゲーション」(4.33 ページ)
- 「HomeLink」(4.36 ページ)
- 「オーディオ」(4.31 ページ)
- 「ムードライト」(5.11 ページ)

センターディスプレイ 設定

概要

「設定」アイコンにタッチして「設定」メニューを表示します。



または、画面を上から下にスワイプして「設定」アイコンにタッチし、「設定」画面を開きます。

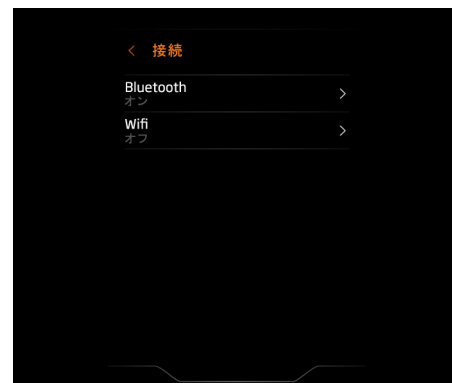
設定画面から以下の項目を選択できます。

- 「接続」 (4.05 ページ)
- 「時間と単位」 (4.06 ページ)
- 「ライト」 (4.09 ページ)
- 「運転の好み」 (4.10 ページ)
- 「室内温度」 (4.12 ページ)

- ナビゲーション
- 「ラジオ」 (4.12 ページ)
- 「HomeLink」 (4.12 ページ)
- 「セキュリティ」 (4.13 ページ)
- 「システム」 (4.15 ページ)

i 注意: 車両の仕様に応じて利用可能な設定が異なる場合があります。

接続

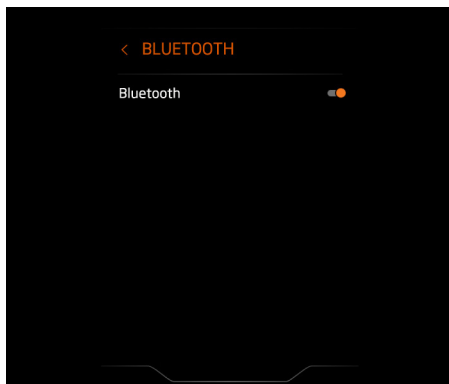


以下の接続設定を使用できます。

- 「Bluetooth」 (4.06 ページ)
- 「Wi-Fi」 (4.06 ページ)

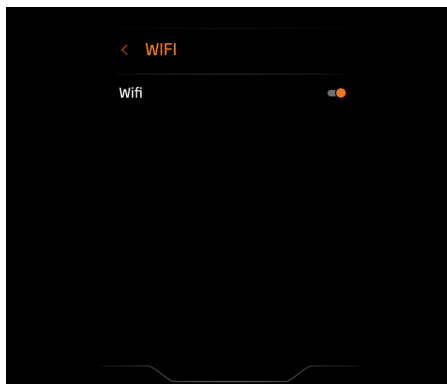
センターディスプレイ 設定

Bluetooth



「Bluetooth」にタッチすると、機能の「オン」と「オフ」が切り替わります。

Wi-Fi



「Wi-Fi」にタッチすると、機能の「オン」と「オフ」が切り替わります。

時間と単位

以下の時間と単位の設定を使用できます。

- 「言語」 (4.07 ページ)
- 「時刻形式」 (4.07 ページ)
- 「時刻調整」 (4.08 ページ)
- 「時間帯」 (4.08 ページ)
- 「速度と距離の単位」 (4.08 ページ)
- 「燃料消費単位」 (4.08 ページ)
- 「温度単位」 (4.09 ページ)
- 「圧力単位」 (4.09 ページ)

センターディスプレイ 設定

言語



リストから使用する言語を選択します。
以下の選択肢があります。

- アラビア語（サウジ）
- 中国語（広東語）
- 中国語（北京語）
- チェコ語
- オランダ語
- 英語（オーストラリア）
- 英語（英国）
- 英語（米国）

- フランス語
- ドイツ語
- ギリシャ語
- ハンガリー語
- イタリア語
- ポーランド語
- ポルトガル語（ブラジル）
- ロシア語
- スペイン語
- タイ語
- トルコ語

時刻形式



「12 時間」形式または「24 時間」形式を選択
します。

センターディスプレイ 設定

時刻調整



GPS同期を選択すると、GPS信号を使用して時間が自動的に調整されます。「GPS同期」にタッチすると、機能の「オン」と「オフ」が切り替わります。

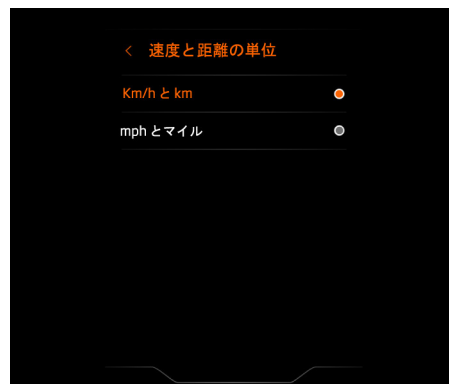
時間を手動で調整するには、「GPS同期」を「オフ」に設定する必要があります。

画面上のコントロールを使用して、時刻と日付を手動で調整します。

時間帯

地域に適したタイムゾーンを選択します。

速度と距離の単位



「km/h & km」または「mph & miles」を選択します。

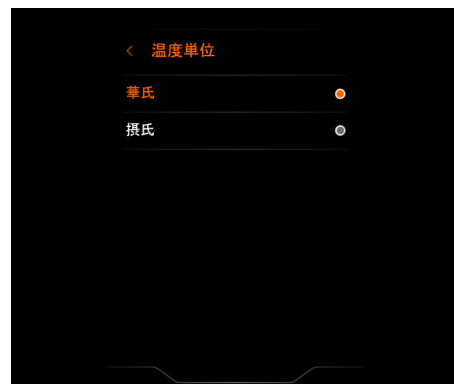
燃料消費単位



「L/100km」、「km/L」、「mpg(UK)」、または「mpg(US)」を選択します。

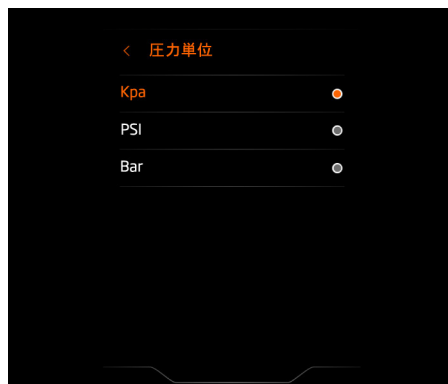
センターディスプレイ 設定

温度単位



「華氏」または「摂氏」を選択します。

圧力単位



「Kpa」、「PSI」、または「Bar」を選択します。

ライト



スタティックアダプティブヘッドランプ

スタティックアダプティブヘッドランプは、コーナリング時にビームを調整し、進行方向を強く照らします。この機能を有効にするにはスタティックアダプティブヘッドランプを「オン」に設定し、無効にするには「オフ」を選択します。

フットウェルおよび車内灯

フットウェルおよび車内灯は、必要に応じて「オン」または「オフ」に設定できます。

センターディスプレイ 設定

乗車および降車照明

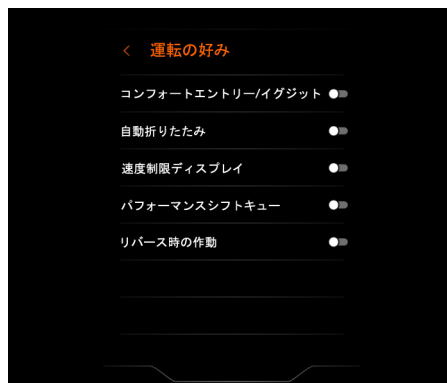
乗車前/降車後ライトは、車両がロック解除およびロックされているときにエクステリアランプを点灯させます。これらの機能を有効にするには、それぞれの時間を 15 秒、30 秒、45 秒、または 60 秒に設定します。無効にするには、「オフ」を選択します。

詳しくは、「室内照明」(5.11 ページ)を参照してください。

夜間照明

夜間照明により、ヘッドランプがオンのときは低レベルのインテリアランプを提供します。有効にするには、1~7 の必要なレベルを選択します。無効にするには、「オフ」を選択します。

運転の好み



以下の運転の好み設定を使用できます。

- 「コンフォートエントリー/イグジット」(4.10 ページ)
- 「自動折りたたみ」(4.10 ページ)
- 「速度制限ディスプレイ」(4.10 ページ)
- 「ギアシフトモード」(4.10 ページ)
- 「リバース時の作動」(4.11 ページ)
- 「ワイパー感度」(4.11 ページ)
- 「タイヤ」(4.11 ページ)
- 「ワイパーモード」(4.11 ページ)

コンフォートエントリー/イグジット

自動シートスライドが「オン」のときは、エンジンをオフにして運転席ドアを開くと、運転席シートが後ろいっぱいまで移動し高さが最低位置になり、ステアリングホイールが内側に移動し最高位置になります。

自動シートスライドが「オフ」の場合、運転席シートおよびステアリングホイールの位置は移動しません。

自動折りたたみ

「オン」を選択した場合、車両をロックすると外部ミラーが折りたたまれ、ドアを開けると展開されます。「オフ」を選択した場合、ミラーは走行位置のままとなります。

速度制限ディスプレイ

「オン」を選択したときは、現在の道路の速度制限が取得できる場合は、それがドライバーディスプレイに表示されます。

ギアシフトモード

ギアシフトモード (PSC) は音が鳴るシフトインジケータで、マニュアルギアボックスモードでフルスロットルの加速中に、最適なパフォーマンスを維持するためにシフトアップが必要になると音を鳴らして知らせます。

「ギアシフトモード」にタッチすると、機能のオンとオフが切り替わります。

センターディスプレイ 設定

リバース時の作動

リアビューカメラ（RVC）は、リアバンパーの中央に取り付けられています。

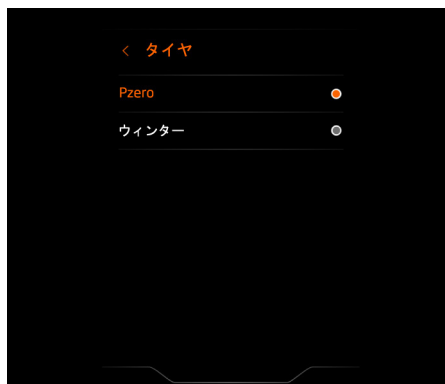
「オン」を選択すると、リバースギアを選択したときにライブビデオ画像がドライバーディスプレイに表示されます。

ワイパー感度



ワイパー動作の好みに合わせて感度レベルを選択します。この設定は雨滴センサーの感度レベルに適用され、断続的なワイパー作動時間の遅延には影響しません。

タイヤ



この画面は、使用できるすべてのタイヤタイプを表示します。車両に装着されているタイヤを選択してください。

ワイパーモード



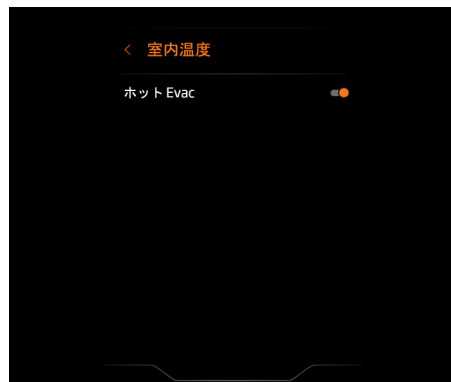
「自動」または「時間指定」を選択します。

「自動」を選択すると、自動位置でのワイパーの動作は雨滴センサーによって制御されます。雨滴センサーの感度の調整方法については、「ワイパー感度」(4.11 ページ)を参照してください。

「時間指定」を選択すると、自動位置でのワイパーの動作は間欠ワイパーになります。

センターディスプレイ 設定

室内温度



ホット Evac 機能はリモコンキーを使用して操作します。「ホット Evac」(5.05 ページ)を参照してください。

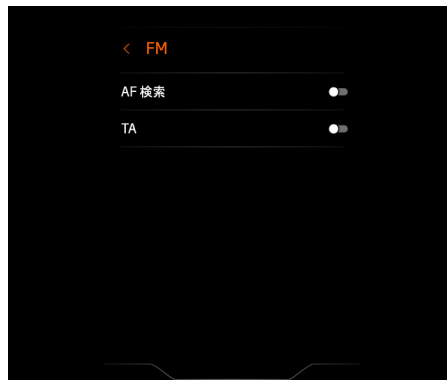
「ホット Evac」にタッチすると、機能の「オン」と「オフ」が切り替わります。

ラジオ

以下のラジオの設定を使用できます。

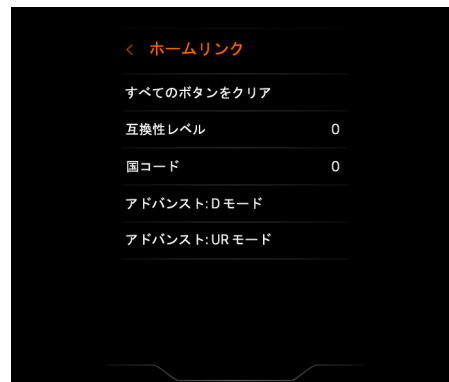
- 「FM」(4.12 ページ)

FM



交通情報 (TA) は、ラジオおよびメディア再生に割り込み、ドライバーに交通状況を知らせます。「TA」にタッチすると、機能の「オン」と「オフ」が切り替わります。

HomeLink



以下のHomeLink®設定を使用できます。

- 「すべてのボタンのクリア」(4.12 ページ)
- 「互換性レベル」(4.13 ページ)
- 「国コード」(4.13 ページ)
- 「アドバンスト:D-モード」(4.13 ページ)
- 「アドバンスト:UR-モード」(4.13 ページ)

すべてのボタンのクリア

「すべてのボタンのクリア」にタッチして、HomeLink®ボタン1、2、3に適用されている設定を削除します。

センターディスプレイ 設定

互換性レベル

HomeLink®制御機器の互換性レベルを表示します。

国コード

HomeLink®制御機器の国コードを表示します。

アドバンスト: D-モード

「アドバンスト: D-モード」を選択して、D-モードをアクティブにします。

アドバンスト: UR-モード

「アドバンスト: UR-モード」を選択して、UR-モードをアクティブにします。

セキュリティ



以下のセキュリティオプションを利用できます。

- 「自動ドアロック」 (4.13 ページ)
- 「自動アラーム」 (4.13 ページ)
- 「サイレントドアロック」 (4.13 ページ)
- 「バレーモード」 (4.14 ページ)
- 「ドアロック解除」 (4.14 ページ)
- 「リバースミラーディップ」 (4.14 ページ)

自動ドアロック

購入時の車両は自動ドアロックが「オン」に設定されています。

この車両のドアは走行を開始すると自動的にロックされます。

この機能を無効にするには、「オフ」を選択します。ドアは手動でロックしない限り走行を開始した後もロックされません。

自動アラーム

自動アラームを「オン」に設定した場合、すべてのドア、ラゲッジルームリッド、およびサービスアクセスパネルを完全に閉じて、車両のロックを 30 秒間解除したままにすると、自動的に車両がロックされ、アラーム機能が作動します。この機能を無効にするには、「オフ」を選択します。

サイレントドアロック

「オン」を選択すると、キーレスエントリーシステムを使用してロックまたはロック解除した際の方向指示器による表示が無効になります。

「オフ」を選択すると、車両のロックまたはロック解除の際に、その方法にかかわらず方向指示器が必ず点滅します。

その他のロックおよびロック解除機能はアクティブのままです。

センターディスプレイ 設定

バレーモード



バレットモードをオンにすると、車速は55km/h（35mph）に制限され、アクティブダイナミクスパネルは無効になり、ラゲッジルーム、センターコンソール収納ボックス、およびグローブボックスもロックされたままになり、インストールメントクラスターに確認メッセージが表示されます。

バレットモードを切り替えるには、「バレットモード」を選択した後、PINコードを入力する必要があります。

オンスクリーンキーパッドを使用して、4桁のPINコードを入力し、「決定」にタッチして確定します。番号を入力するたびに、番号がアスタリスクで表示されます。

工場で設定されたPINコードは0000です。初めてバレットモードをオンにする場合は、このPINコードを使用します。このPINコードはできるだけ早い機会に変更してください。

「PINコード変更」を選択し、オンスクリーンキーパッドを使用して古いPINコードを入力し、続けて新しいPINコードを入力し、「決定」にタッチして確定します。

バレットモードが「オン」の場合は、PINコードを入力してバレットモードをオフに切り替えます。

ドアロック解除



「運転席側」を選択した場合は、リモコンキーまたはドアボタンで車両のロックを解除すると、運転席ドアのロックのみが解除されます。

「両側」を選択した場合は、リモコンキーまたはドアボタンで車両のロックを解除すると、両方のドアのロックが解除されます。

「運転席側」または「両側」のどちらを選択しても、すべてのドアがロックされます。

リバースミラーディップ



「オフ」、「両側」または「助手席側」を選択します。

「オフ」-リバースギアにシフトしてもミラーディップは行われません。

センターディスプレイ 設定

「両側」- リバースギアにシフトすると両方のミラーが下向きになります。

「助手席側」- リバースギアにシフトすると助手席側のミラーが下向きになります。

リバースギアへのシフトに連動したミラーのディップ量を設定するには:

1. イグニッションスイッチをオンにします。
2. クラスターのミラーディップセクションで「両側」または「助手席側」を選択します。
3. ブレーキペダルを踏んでリバースギアにシフトします。
4. 設定したい位置にミラーを調整します。「外部ミラー」(1.32 ページ)を参照してください。
5. ギアをリバース以外にします。

次にリバースギアにシフトしたときには、車両が自動的にミラーを事前に設定したオフセット分だけ標準位置から移動させます。

システム



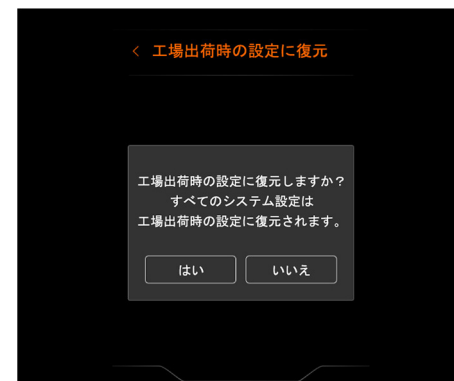
以下のシステム設定を使用できます。

- 「法律情報」(4.15 ページ)
- 「工場出荷時の設定に復元」(4.15 ページ)
- 「すべてのデータと設定の消去」(4.16 ページ)
- 「システムバージョン」(4.16 ページ)
- 「VIN」(4.16 ページ)

法律情報

このオプションを選択すると、車両およびマクラーレンインフォテインメントシステム (MIS) に関する利用可能な法律情報が表示されます。

工場出荷時の設定に復元



「はい」を選択すると、車両およびMISのすべての設定が工場出荷時の設定にリセットされます。

センターディスプレイ 設定

すべてのデータと設定の消去



「はい」を選択すると、すべてのデータが消去され、車両およびMISのすべての設定が工場出荷時の設定にリセットされます。

システムバージョン

MIS にインストールされているソフトウェアバージョンを表示します。

VIN

車両識別番号 (VIN) を表示します。「車両識別番号 (VIN)」(7.03 ページ)を参照してください。

センターディスプレイ 電話

概要

 マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) を使用すると、Bluetooth® を使用して携帯電話を接続することにより、安全にハンズフリーで電話をかけたり受けたりすることができます。

接続すると電話に保存された連絡先や通話履歴にアクセスできます。

MIS では、会議通話を行うこともできます（接続した電話が対応している場合）。ただし、会議通話を開始することはできません。

 **警告: 運転中、電話に気を取られないよう注意してください。事故につながる恐れがあります。**

安全上の注意事項

 **警告: 車両の移動中は決して電話の操作を行わないでください。気を取られて事故につながる恐れがあります。**

 **警告: 電話は常に安全な場所に保管してください。安全な場所に保管されていない物体は、事故の際に急激に移動して危険が生じる場合があります。**

 **警告: 爆発の危険性が高いエリアでは、必ず電話の電源を切ってください。爆発の危険性が高いエリアには、ガソリンスタンド、燃料倉庫のエリア、化学薬品工場、また大気燃料蒸気、化学薬品、金属粉塵などが含まれるエリアがあります。**
電話の使用中は、心臓ペースメーカーや補聴器が正常に作動しない場合があります。医師または機器のメーカーに確認し、このような機器を使用している人が高周波エネルギーから十分に保護されるようにしてください。

干渉を避けるため、携帯電話と心臓ペースメーカーの間は少なくとも 15 cm (6 インチ) 空けることを推奨します。

Bluetooth®

Bluetooth® は、電子機器間でのワイヤレス通信を可能にする短距離無線周波 (RF) 技術です。

互換性のある Bluetooth® 搭載電話を MIS と連動させて使用することができます。

MIS システムは Bluetooth® Hands-Free Profile 1.6 (HFP 1.6) に対応しています。システムに接続されている携帯電話がこのプロファイルにも対応している場合、バッテリーメーターや信号強度が画面に表示されることがあります。

携帯電話は、操作する前に MIS とペアリングされ、接続されている必要があります。詳しくは、「デバイスのペアリング/接続」(4.18 ページ) および「電話の接続」(4.18 ページ) を参照してください。

センターディスプレイ 電話

デバイスのペアリング/接続

1. 初期設定では、Bluetooth®はオンになり、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) は「検索可能」モードになります。Bluetooth®がオンでない場合は手動でオンにします。「Bluetooth」(4.06 ページ)を参照してください。
 2. 携帯電話を使用するには、Bluetooth®機器の検索機能を選択します。
- i** 注意: 電話によっては、これを「ペアリングされた新しいデバイス」と呼ぶ場合もあります。正しい記述については、電話の操作説明書を参照してください。
3. 利用可能なデバイスのリストから「MIS」を選択します。
 4. MIS はパスキーを表示します。



5. 「はい」を選択し、MISに表示されているパスキーが電話に表示されているパスキーと一致することを確認します。
 6. 電話で「ペアリング」を選択します。
 7. Bluetooth®によるインターネット接続の共有に対応しているデバイスをペアリングするときに、デバイスがインターネットアクセスに使用するアクセスポイント名 (APN) を選択しなければならない場合があります。
- デバイスと契約に応じてオプションを選択します。
- 電話の設定を使用すると、Bluetooth®によるインターネット共有は無効にできます。

8. 一度電話をMISとペアリングして接続すると、電話が検出範囲内に入った場合は常に自動的に接続されます。
9. 自動的に接続されない場合は、携帯電話のコントロールを使用して手動でMISに接続する必要があります。

追加デバイスのペアリング

追加デバイスを接続する手順は、最初の電話をペアリングしたときと同じです。「デバイスのペアリング/接続」(4.18 ページ)を参照してください。

MISには最大12台のデバイスをペアリングすることができますが、一度に接続できるのは2機のみです。

i 注意: 最大数のデバイスがすでにMISに接続されている場合、追加のデバイスのペアリングはできませんが、接続はできません。元のデバイスはMISに接続されたままになります。

電話の接続

ペアリングした電話がすでにある場合、その電話が検出範囲内に入ると、他のデバイスが接続されていないければMISは自動的にその電話を再接続します。

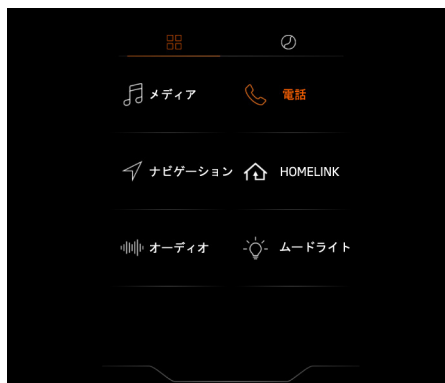
i 注意: 電話によっては、手動で接続しなければならないものもあります。

センターディスプレイ 電話

電話によっては、接続を毎回認証する必要があります。これを避けるには、電話の既知のデバイスリストで MIS を「承認済み」に設定します。

MIS または車両の電源がオフになると電話は切断されます。車両または MIS の電源を再びオンにすると、数秒間で自動的に再接続されます。

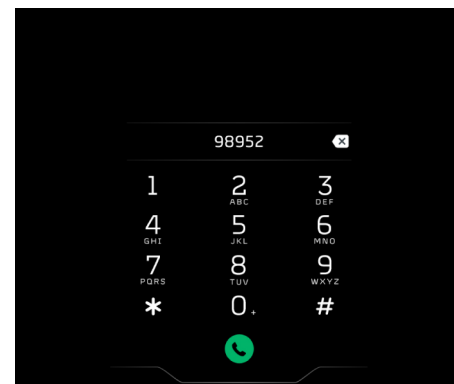
電話をかける



電話をかける方法は、以下のように複数あります。

電話アプリケーションに切り替えるには、マクラーレンインフォテインメントシステム (MIS) のホーム画面から「電話」アイコンにタッチするか、「電話」ボタンを押します。

キーボードを使用



1. 電話画面で、 アイコンにタッチします。
2. オンスクリーンキーパッドを使用して電話番号を入力できます。

 番号または数字の入力を間違えた場合は、アイコンにタッチすると最後に入力した数字が削除されます。

3.  画面にすべての番号が表示されたら、アイコンにタッチして通話を開始します。

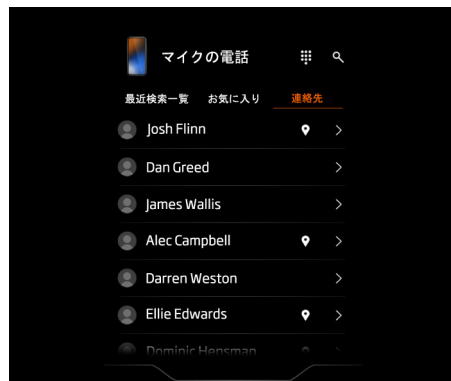
 注意: ダイヤル中は連絡先記号の周りの円が黄色になり、通話が接続されると緑色に変わります。

センターディスプレイ 電話

4. 「通話を終了」または電話ボタンにタッチすると、ダイヤル中に発信をキャンセルできます。

i 注意: 通話中は、メディアやラジオのサウンドはミュートになります。

連絡先の使用



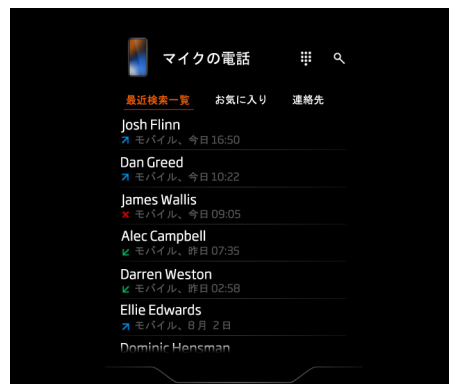
1. 電話画面で、「連絡先」タブにタッチします。
2. 連絡先が表示されたら、リストをスクロールして特定の人物を探することができます。
3. 連絡先を選択すると、その連絡先のすべての電話番号が表示されます。目的の電話番号にタッチして通話を開始します。

i 注意: ダイヤル中は連絡先記号の周りの円が黄色になり、通話が接続されると緑色に変わります。

4. 「通話を終了」または電話ボタンにタッチすると、ダイヤル中に発信をキャンセルできます。

i 注意: 通話中は、メディアやラジオのサウンドはミュートになります。

通話履歴の使用



1. 電話画面で、「最近の通話」タブにタッチします。

2. 通話記録のリスト（発信、不在着信、着信）が、一番新しい通話記録が一番上に日付順に表示されます。

3. 目的の連絡先にタッチして通話を開始します。

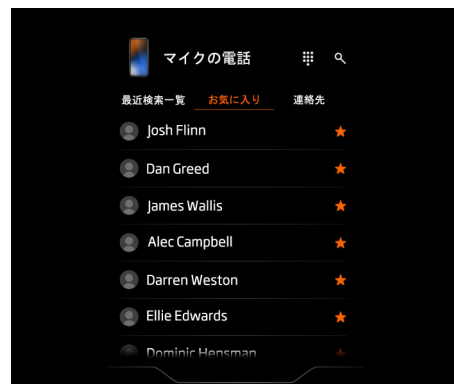
i 注意: ダイヤル中は連絡先記号の周りの円が黄色になり、通話が接続されると緑色に変わります。

4. 「通話を終了」または電話ボタンにタッチすると、ダイヤル中に発信をキャンセルできます。

i 注意: 通話中は、メディアやラジオのサウンドはミュートになります。

センターディスプレイ 電話

お気に入り



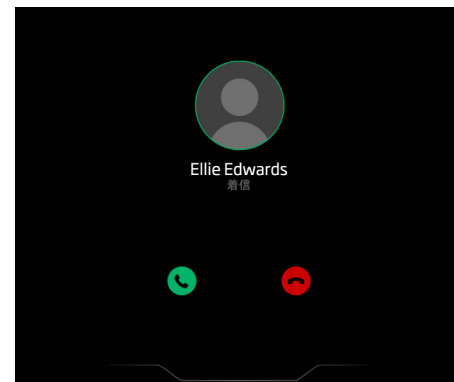
1. 電話画面で、「お気に入り」タブにタッチします。
2. お気に入りの連絡先のリストが表示されます。
3. 目的の連絡先にタッチして通話を開始します。

i 注意: ダイヤル中は連絡先記号の周りの円が黄色になり、通話が接続されると緑色に変わります。

4. 「通話を終了」または電話ボタンにタッチすると、ダイヤル中に発信をキャンセルできます。

i 注意: 通話中は、メディアやラジオのサウンドはミュートになります。

通話を受信



着信通話があると、電話に保存されてマクラレーンインフォテイメントシステム (MIS) と同期されている発信者の詳細がMISに表示されません。

 通話を受けるには、緑色のアイコンにタッチします。

 通話を拒否するには、赤色のアイコンにタッチします。

センターディスプレイ 電話

通話中のオプション

 「キーパッド」アイコンにタッチすると、オンスクリーンキーボードが起動します。もう一度タッチすると無効になります。

 「ミュート」アイコンにタッチすると、マイクが無効になります。もう一度タッチすると有効になります。

 「一時停止」アイコンにタッチすると、通話が保留になります。

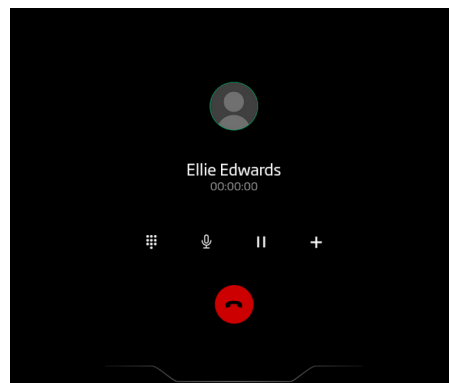
 「プラス」アイコンにタッチすると、通話相手が追加されます。連絡先リストから連絡先を選択し、電話会議を開始します。

 統合アイコンにタッチすると、2つの通話が電話会議に統合されます。オプションが利用できる場合、プラスアイコンは統合アイコンになります。

通話中にホームボタンを押すと、ホーム画面が表示されます。通話中にマクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) の他の機能にアクセスできます。現在の通話は、ディスプレイの上部に最小表示されます。

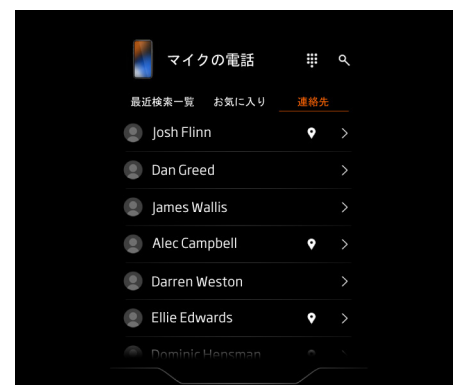
通話の終了

「通話を終了」にタッチして通話を終了します。画面が電話メニューに戻ります。



 別のシステム画面を表示中に通話を終了するには、画面の上部に表示される「通話中」アイコンの横にある赤色の「通話終了」アイコンにタッチします。

連絡先



1. 電話画面で、連絡先タブにタッチします。

 **注意:** 電話機の種類によっては、電話に保存されている連絡先の写真が連絡先の名前とともに画面に表示されます。

2. 連絡先リストが1画面の表示範囲を超える場合は、画面上で指をスワイプして上下にスクロールします。

3. あるいは、オンスクリーンキーボードで連絡先を検索することもできます。詳しくは、「検索」(4.23ページ)を参照してください。

センターディスプレイ 電話

4. 連絡先を選択すると、連絡先に関するすべての情報が表示されます。

i 注意: 電話機の種類に応じて、連絡先の写真が電話に保存されている場合は、通話中に画面に表示されます（連絡先が MIS と同期されている場合）。

5. 目的の電話番号にタッチして通話を開始します。

i 注意: ダイヤル中は連絡先記号の周りの円が黄色になり、通話が接続されると緑色に変わります。

i 注意: あるいは、 にタッチして連絡先住所へのナビゲーションを開始します。

6. 「通話を終了」または電話ボタンにタッチすると、ダイヤル中に発信をキャンセルできます。

i 注意: 通話中は、メディアやラジオのサウンドはミュートになります。

i 注意: 連絡先をお気に入りとしてタグ付けするには、 にタッチします。 にもう一度タッチすると、お気に入りから連絡先が削除されます。

2. オンスクリーンキーボードを使用して少なくとも1文字を入力し、表示される連絡先をフィルター処理します。

番号または数字の入力を間違えた場合は、 アイコンにタッチすると最後に入力した数字が削除されます。

3. 連絡先を選択すると、その連絡先のすべての電話番号が表示されます。目的の電話番号にタッチして通話を開始します。

i 注意: ダイヤル中は連絡先記号の周りの円が黄色になり、通話が接続されると緑色に変わります。

i 注意: 電話機の種類に応じて、連絡先の写真が電話に保存されている場合は、通話中に画面に表示されます（連絡先が MIS と同期されている場合）。

4. 「通話を終了」または電話ボタンにタッチすると、ダイヤル中に発信をキャンセルできます。

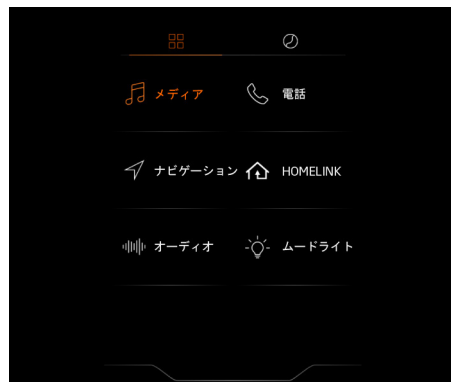
i 注意: 通話中は、メディアやラジオのサウンドはミュートになります。

検索

1. 「連絡先」タブで アイコンを押します。

センターディスプレイ メディア

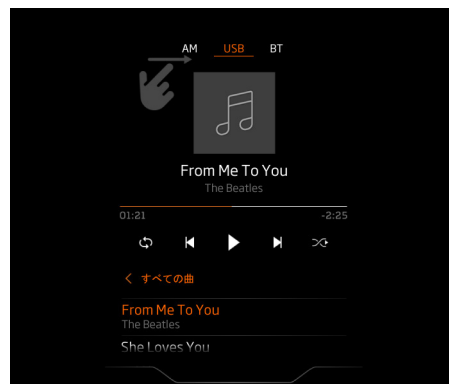
概要



メディアプレーヤーの機能には、マクラレーンインフォテインメントシステム（MIS）のホーム画面から「メディア」アイコンにタッチするか、「メディア」ボタンを押すとアクセスできます。

メディアを選択すると、利用可能なオーディオソースが表示されます。

オーディオソース



音楽デバイスがUSBポートおよびBluetooth®に接続されている場合、すべてのソースが画面に表示され、それぞれの記号が画面の上部に表示されます。

サポートされているメディアデバイス

現在の互換性あるメディアデバイスのリストについては、マクラレーン代理店にご相談ください。

サポートされているメディアファイル

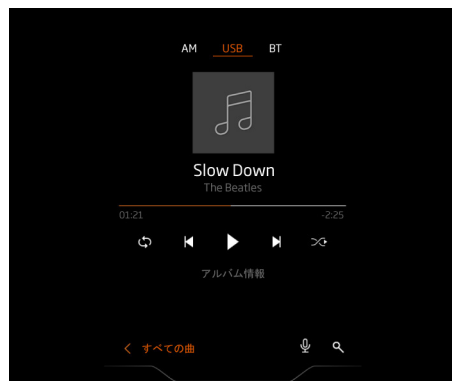
メディアシステムでは、以下の形式とエンコーディングを組み合わせたファイルを再生できます。

オーディオ:

- MP3
- AAC
- WMA
- OGG Vorbis
- AC3
- AMR
- FLAC
- WAV
- AIFF

センターディスプレイ メディア

メディアコントロール



内部ストレージまたは接続デバイスから再生される音楽は、マクラーレンインフォテインメントシステム (MIS) タッチスクリーンを使用して操作できます。

音楽の再生が始まると、アーティスト名、アルバムのタイトル、曲のタイトルが画面に表示されます。曲に関連するアートワークがあれば、それらも表示されます。アートワークがない場合は音符の画像が表示されます。

 または  アイコンをタッチし続けると、現在選択している曲を前に進めたり、元に戻したりできます。あるいは、プログレスバーにタッチしてドラッグすることで、曲の任意の位置に移動できます。

 を1回タッチすると、次の曲にスキップします。 アイコンを1回タッチすると、現在の曲の先頭にスキップします。2回タッチすると、1つ前の曲にスキップします。

次または前のフォルダにスキップするには、 または  アイコンをタッチします。

曲を一時停止するには、 アイコンをタッチします。再生を再開するには、 アイコンをタッチします。画面をタップすることで、曲を一時停止または再開することもできます。

 現在選択している音楽をランダム再生するには、アイコンを押します。ランダムがアクティブの場合、アイコンはアンバー色になります。

 アイコンを押して、使用可能なリピートオプションを切り替えます。

- リピートオフ。
- 1曲リピート - 現在再生中の曲を繰り返します。
- 全曲リピート - 現在のプレイリストにあるすべての曲を繰り返します。

アイコンが変化して、どのリピートオプションがアクティブであるかを表示します。

 注意: この機能は、Bluetooth®機器では使用できません。

センターディスプレイ メディア

外部デバイスへの接続



センターコンソールを開き、必要に応じてUSBデバイスを接続します。

走行前に、センターコンソールが閉じていることを確認します。

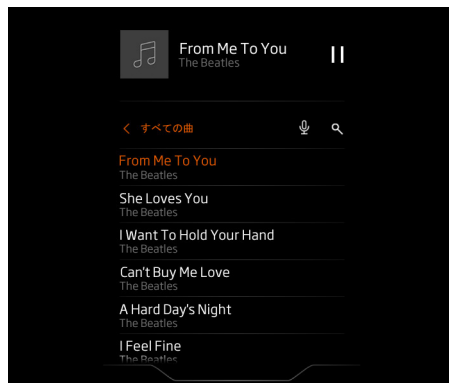
Bluetooth®デバイスの接続に関する詳細については、「デバイスのペアリング/接続」(4.18ページ)を参照してください。

USB および iPod

USBデバイスを接続します。詳しくは、「外部デバイスへの接続」(4.26ページ)を参照してください。

「メディア」画面から、USBを選択します。

i 注意: デバイスに取り付けられた内部バッテリーはUSBポートを介して充電されません。



- すべての曲
- アーティスト
- アルバム
- ジャンル

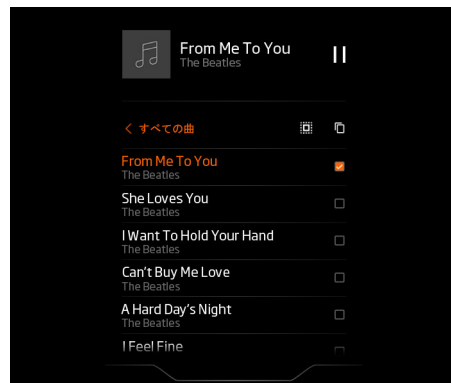
● フォルダ

聞きたいフォルダまたはプレイリストを参照し、再生を開始する曲を選択します。

 にタッチしてオンスクリーンキーボードを使用し、オーディオファイルを検索します。

ストレージへのコピー

コピー機能を使用して、音楽ファイルをUSB機器からストレージにコピーします。



1. コピーするトラックまたはフォルダを長押しします。

センターディスプレイ メディア

2. コピーする他のトラックまたはフォルダを選択するか、 にタッチして現在のリストのすべてのアイテムを選択します。
3.  にタッチして、選択したファイルをコピーします。
4. 目的のフォルダを選択するか、 にタッチして新しいフォルダを作成します。
5. 「貼り付け」にタッチしてアイテムを貼り付けます。

ストレージ

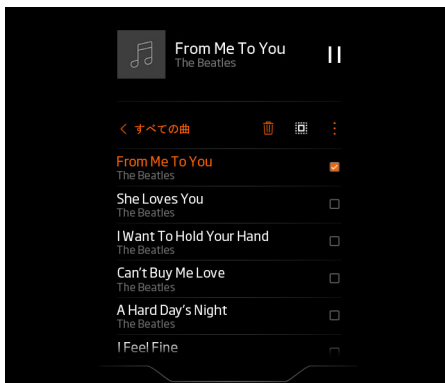
「Media（メディア）」画面から、ストレージを選択します。

聞きたいフォルダまたはプレイリストを参照し、再生を開始する曲を選択します。

ファイルのインポート

ファイルは接続されたUSBデバイスからインポートできます。「ストレージへのコピー」(4.26ページ)を参照してください。

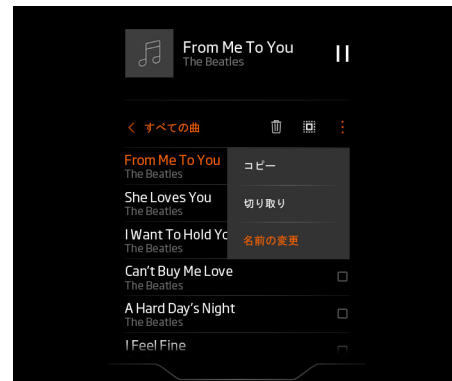
ストレージの消去



1. 消去するトラックまたはフォルダを長押しします。

2. 消去する他のトラックまたはフォルダを選択するか、 にタッチして現在のリストのすべてのアイテムを選択します。
3.  にタッチして選択したファイルを消去します。
4. 選択したアイテムを削除することを確定します。

名前の変更

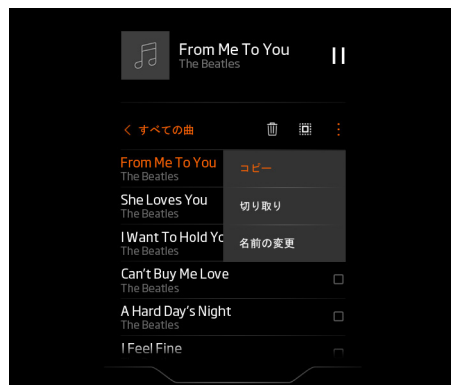


1. 名前を変更するトラックまたはフォルダを長押しします。
2.  にタッチしてメニューを開きます。

センターディスプレイ メディア

3. 「名前の変更」を選択し、新しい名前を入力します。
4. 「OK」にタッチして新しい名前を確定します。
4. 目的のフォルダを選択するか、 にタッチして新しいフォルダを作成します。
5. 「貼り付け」にタッチして選択したフォルダにアイテムを移動またはコピーします。

移動またはコピー



1. 別のフォルダに移動またはコピーするトラックまたはフォルダを長押しします。
2. 移動またはコピーする他のトラックまたはフォルダを選択するか、 にタッチして現在のリスト内のすべてのアイテムを選択します。
3.  にタッチしてメニューを開きます。

Bluetooth オーディオ

Bluetooth®デバイスを接続します。詳しくは、「デバイスのペアリング/接続」(4.18 ページ)を参照してください。

「Media (メディア)」画面から、Bluetooth オーディオソースを選択します。

接続されている Bluetooth® デバイスによっては、音楽の再生が自動的に開始される場合があります。

音楽の再生が自動的に開始されない場合は、デバイス本体で再生を選択します。

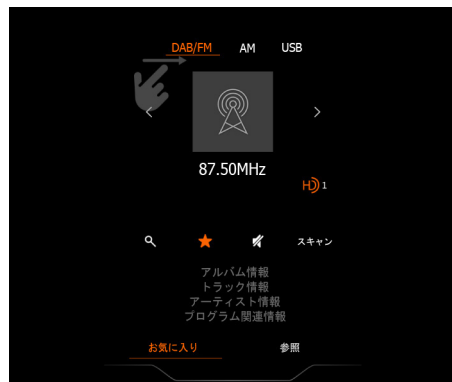
音楽の再生中は、 Bluetooth® 記号が画面の上部に表示されます。

音量は、マクラーレンインフォテインメントシステム (MIS) を使用して調整できます。詳しくは、「システムコントロール」(4.02 ページ)を参照してください。

音量は取り付けられているデバイスの出力レベルと MIS レベルによって変化します。

センターディスプレイ メディア

ラジオ



- DAB/FM
- AM

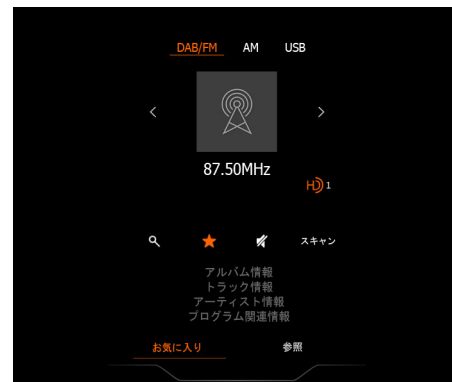
マクラーレンインフォテインメントシステム（MIS）メディア画面でラジオ機能のいずれかを選択します。スワイプジェスチャーは、オーディオソースを切り替えるために使用します。ラジオが起動し、以前に選択した局にチューニングされます。

周波数帯

ラジオはAM、FM、およびDAB局の受信およびチューニングができます。

現在選択されている周波数帯は、画面上部に表示されます。

ラジオコントロール



放送局は、手動チューニングで選択するか、お気に入りを選択します。周波数は、可能な場合は放送局名とともに画面に表示されます。

i 注意: 放送局の周波数が変更された場合は、お気に入りプリセットを再度設定する必要があります。

前または次の利用可能な局に自動的にチューニングするには、**◀** または **▶** アイコンをタッチします。

ラジオ局を検索するために **🔍** アイコンにタッチすると、キーパッドが表示されます。

センターディスプレイ メディア



放送局をお気に入りとして保存するには、アイコンをタッチします。



アイコンにタッチすると、ラジオがミュートされます。

「スキャン」にタッチし、利用可能なラジオ局をスキャンします。

ラジオデータシステム（RDS）

RDS は、デジタルデータを FM 信号と同時にラジオ受信機に送信できるシステムです。

次の2種類のデジタルデータを受信し、それらのステータスを画面に表示できます。代替周波数と交通アラート。

代替周波数（AF）

AF機能では、最も強い信号を自動的に選択して受信します。

車両がある送信機から遠ざかり、別の送信機に近づくと、AFは受信を最良の状態に保つために送信機を切り替えます。

AFは、「設定」メニューで「オン」と「オフ」を切り替えることができます。詳しくは、「FM」（4.12 ページ）を参照してください。

交通アラート（TA）

交通アラートは、ラジオおよびメディア再生に割り込み、ドライバーに交通状況を知らせます。

TAは、「設定」メニューで「オン」と「オフ」を切り替えることができます。詳しくは、「FM」（4.12 ページ）を参照してください。

センターディスプレイ オーディオ

概要

「オーディオ」アイコンにタッチすると、「オーディオ設定」画面が表示されます。

i 注意: 利用可能なオーディオ設定は、お客様の車両に装備されているオーディオオプションによって異なります。

オーディオ設定は、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) のすべての機能に適用されます。



画面の上からスワイプして、次のオプションから選択します。

- 「モード」 (4.31 ページ)
- 「トーン」 (4.31 ページ)

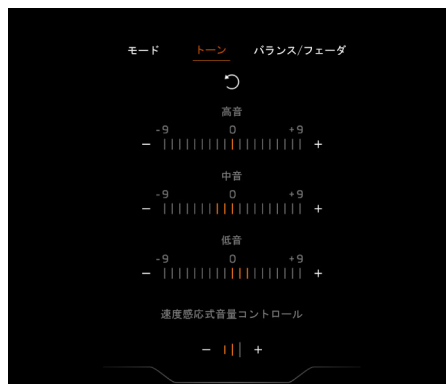
- 「バランス/フェーダー」 (4.32 ページ)

モード

3つのプリセットオーディオモードがあります。

- ドライバーフォーカス - 運転席で聞くのに最適です。これがデフォルトのモードです。
- スタジオ - 忠実なサウンド。アーティストが意図したとおりのもの。
- オンステージ - 包み込まれるサラウンドサウンド。

トーン



高音

「高音」の横にある「+」または「-」アイコンにタッチして、希望するサウンド再生品質を実現します。範囲は1ずつ増減させて0〜+9または0〜-9まで設定できます。

中音

「中音」の横にある「+」または「-」アイコンにタッチして、希望するスピーカーのサウンドを実現します。範囲は1ずつ増減させて0〜L9または0〜R9まで設定できます。

低音

「低音」の横にある「+」または「-」アイコンにタッチして、希望するサウンド再生品質を実現します。範囲は1ずつ増減させて0〜+9または0〜-9まで設定できます。

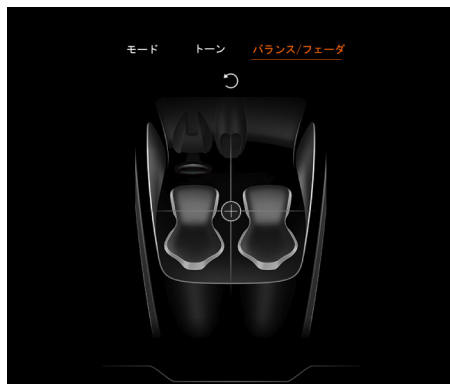
速度感応式音量

この機能は、高速な車速によって生じる機械的ノイズを相殺するために音量設定を高くします。

アイコンに繰り返しタッチして、「オフ」、「1」、「2」、および「3」の間で切り替えます。最適なサウンド再生を提供する設定を選択します。

センターディスプレイ オーディオ

バランス/フェーダ



十字線にタッチしてドラッグし、バランスとフェーダを調整します。

センターディスプレイ ナビゲーション

概要

本ナビゲーションシステムは、グローバルポジショニングシステム（GPS）衛星からの信号と車両センサーからの情報、マクラレーンインフォテイメントシステム（MIS）に保存された地図データを使用して、車両の位置を正確に判断します。

システムはこのデータを使用して、設定した走行方法を考慮して目的地への最適なルートを作成します。

特定のルートは、画面のメニューとMISコントロールを使用して選択します。作成したルートは地図上でハイライトされます。

走行を開始すると、適切な位置で曲がり角の情報がセンターインフォテイメントタッチスクリーンに表示され、必要に応じて音声ガイダンスも行われます。

予定しているルートから大きく外れた場合は、目的地までの別ルートを自動的に計算します。

安全性

警告: 安全のため、ナビゲーションシステムの使用に気を取られ、走行操作がおろそかにならないよう注意してください。
イグニッションをオンにした後、ナビゲーションシステムの使用を開始したときに表示される安全メッセージを読み、従ってください。

国の道路交通法と交通標識には必ず従ってください。

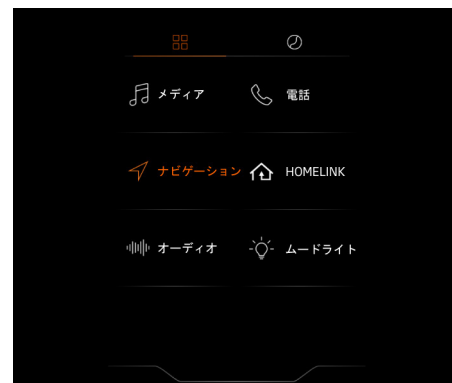
ナビゲーションシステムは最適なルートを決する際の補助を目的とするものであり、決して視界が悪い場合の補助として考えてはなりません。

トンネル内やそれ以外のGPS信号が遮断されるような状況での走行時には、GPS信号が妨害される可能性があります。GPS信号が再取得されるまで、ナビゲーションはそのままルート案内を続けます。

車両位置のエラーは、前述した状況下や以下の状況でも起こる可能性があります。

- 立体駐車場など、建物内を走行する。
- 並行する道路が非常に近い位置にある道路を走行する。
- ターンテーブルを使用して車両を回転させる。
- 車両が異なる場所へ輸送された。

ナビゲーションの使用

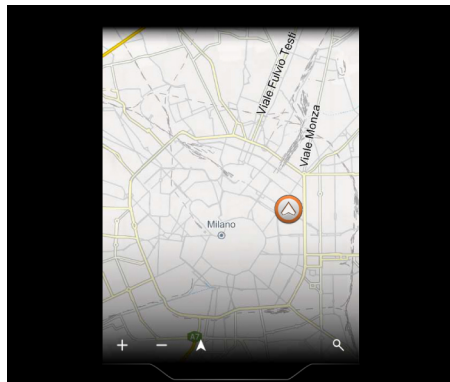


マクラレーンインフォテイメントシステム（MIS）のホーム画面から「ナビゲーション」アイコンをタッチするか、「ナビゲーション」ボタンを押します。

イグニッションをオンにした後、ナビゲーションに初めてアクセスすると、MISに安全警告メッセージが表示されます。これらのメッセージをよくお読みください。

ナビゲーションシステムのロードが完了すると、警告メッセージは自動的に消えます。

センターディスプレイ ナビゲーション



車両の現在位置を示すマップがセンターインフォテイメントタッチスクリーン画面に表示されます。

 車両の位置と進行方向は、進行方向を示す矢印で表示されます。

地図の表示部分をコントロールするには、画面をタッチして、ゆっくりと指を地図内の任意の方向に動かします。

 にタッチして目的地を設定するオプションにアクセスします。「目的地の設定」(4.34 ページ)を参照してください。

MIS はマルチタッチスクリーンを備えており、ピンチジェスチャーによるズームインおよびズームアウトが簡単にできます。親指と人差し指で画面をタッチし、指の間隔を狭めるようにつまむと縮小できます。指の間隔を広げると再び拡大できます。

「+」と「-」アイコンを使用して、ズームイン/ズームアウトすることもできます。

 にタッチして、現在の位置を画面の中央に表示します。

ズーム設定に応じて、画面の詳細度も変わります。例えば、大きくズームインすると、道路名やいくつかの施設が表示されますが、ズームアウトすると表示されなくなります。

また、車速に応じて、あらかじめ設定されたレベルまで自動的にズームインまたはズームアウトされます。

時刻に合わせて視認性を高めるために、画面カラーが昼間モードと夜間モードに自動的に切り替わります。

目的地の設定

画面を使用

地図を手動で動かして、目的地の一般的なエリアを探すのに最も効果的な縮尺で地図を表示します。

地図をタッチして、希望の目的地の位置をマークします。

検索または住所

 「検索」または「住所」にタッチして、市名、町名、または番地を入力します。

前回の目的地

前回の目的地は、リストに日付順で表示されます。前回の目的地にタッチして、新しい目的地として設定します。

お気に入り

 「お気に入り」アイコンにタッチすると、お気に入りの目的地が表示されます。住所にタッチして、新しい目的地として設定します。

連絡先

 「連絡先」アイコンにタッチして、連絡先に保存されている住所情報を表示します。住所にタッチして、新しい目的地として設定します。

センターディスプレイ ナビゲーション

マクラーレン代理店



「マクラーレン」アイコンにタッチして、最寄りのマクラーレン代理店の場所を確認します。マクラーレン代理店のリストが表示され、最寄りの代理店はリストの一番上にきます。住所にタッチして、新しい目的地として設定します。

ガソリンスタンド



「燃料」アイコンにタッチすると、最寄りのガソリンスタンドが表示されます。ガソリンスタンドのリストが表示され、最寄りのガソリンスタンドはリストの一番上にきます。住所にタッチして、新しい目的地として設定します。

駐車場



「駐車場」アイコンにタッチして、最寄りの駐車場を見つけます。駐車場のリストが表示され、最寄りの駐車場はリストの一番上にきます。住所にタッチして、新しい目的地として設定します。

その他の検索カテゴリ



「その他」アイコンにタッチすると、その他の検索カテゴリが表示されます。この機能を使用して、空港、ATM、ホテル、病院、店などの施設を検索します。

ルートの概要

目的地を選択した後、ルートの概要が表示され、ルートがハイライト表示されます。開始位置、現在の位置、中間地点、および目的地は、ハイライト表示されたルートに沿って表示されます。

目的地をお気に入りとして保存するには★を選択し、ナビゲーションを開始するには「Go! (実行)」を選択します。

センターディスプレイ HomeLink

概要

警告: 安全停止および反転機能のないガレージドアオープナーでは、HomeLink®を使用しないでください。

警告: 1982年4月より前に製造されたガレージドアオープナーでは、HomeLink®を使用しないでください。

警告: HomeLink®をガレージドアオープナーまたは入り口ゲートに合わせてプログラミングするときは、作業場所に人や物がいないことを確認してください。プログラミングの最中に門やガレージドアが作動すると、怪我や損傷が発生するおそれがあります。

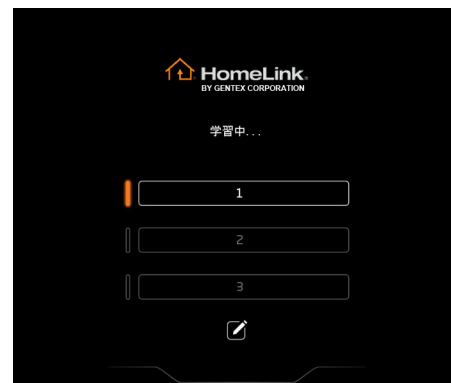
HomeLink®ワイヤレス制御システムは、最大で3つのリモコンの役割を担います。HomeLink®を使用すると、ゲートオペレーターやガレージドアオープナー、入り口ドアロックなどのデバイス、セキュリティシステム、そして家庭用照明を作動させることができます。

プログラミング

警告: ガレージドアオープナーまたはゲートオペレーターをプログラミングするときは、プログラミング手順の最中はデバイスのプラグを抜くことをお勧めします。プラグを抜くことで、繰り返し操作によるガレージドアオープナーやゲートオペレーターへの損傷を予防できます。

注意: 下記の手順は、ほとんどのHomeLink®対応デバイスに該当します。HomeLink®のアプリケーションやHomeLink®対応システムによっては、手順が若干異なる場合があります。対応デバイスの情報および操作手順のビデオについては、www.homelink.comをご確認ください。

注意: 1995年以降に製造されたガレージドアオープナーには、ローリングコード保護が装備されている場合があります。その場合は、メーカーの説明書を参照してください。



1. プログラミングする「HomeLink®」ボタンにタッチすると、「学習」というメッセージがセンターインフォテイメントタッチスクリーンに表示されます。ボタンの横にあるアイコンがゆっくりと点滅します。
ボタンが以前にプログラムされている場合は、ボタンに20秒間タッチして「学習」を開始し、前の設定を置き換えます。
2. ガレージドアオープナーのリモコンを、左側のヘッドランプから2～8 cmの距離に置きます。

センターディスプレイ HomeLink



3. ガレージドアオープナーリモートコントロールのボタンを長押しすると、「学習が成功しました」とセンターインフォテイメントタッチスクリーンに表示されます。センターインフォテイメントタッチスクリーンのボタンの色が変わり、アイコンの点滅が停止します



注意: リモートデバイスのシステムによっては、プログラミングの最中、ガレージドアオープナーのリモコンボタンを2～10秒ごとに押して放さなければならない場合があります。

4. プログラミングした「HomeLink®」ボタンを押します。デバイスが作動した場合、プログラミングは完了です。デバイスが作動しない場合は、手順5～7を続けてください。
5. ガレージドアオープナーのレシーバにある、モーターヘッドユニットの学習ボタンまたはスマートボタンの位置を確認します。学習ボタンまたはスマートボタンの位置については、ガレージドアオープナーのマニュアルを参照してください。
6. 学習ボタンまたはスマートボタンを押して放します。通常、30秒経過してから手順7に進みます。
7. 車両に戻ります。プログラミングした「HomeLink®」ボタンを2秒おきに最大5回押して放し、デバイスを作動させます。デバイスが作動した場合、プログラミングは完了です。

すべてのボタンとHomeLink®の設定を消去するには、「HomeLink」(4.12ページ)を参照してください。

ボタンラベルの編集

HomeLink®のボタンの名前を変更して、ボタンが制御する操作を説明することができます。次の例を参照:「ガレージドア」または「ドライブウェイゲート」。

1.  「編集」アイコンにタッチします。
2.  名前を変更するボタンの横にある「編集」アイコンにタッチします。
3. キーボードを使用して新しいボタン名を入力し、「OK」にタッチして確定します。

センターディスプレイ HomeLink

操作



警告: HomeLink®制御機器を操作する前に、機器が作動するための十分なクリアランスがあることを確認します。駐車する場合はゲートやドアに近すぎないようにしてください。開閉時に車両に接触することがあります。

HomeLink®機能にアクセスするには、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) ホーム画面のアイコンにタッチします。

ボタンにタッチして、プログラムされたホームリンクデバイスを操作します。「送信」が表示され、ライトが点灯します。



注意: 「ガレージドアオープナーが利用できない」と表示される場合は、次を確認します。

- 車両がHomeLink®機器の受信範囲内にある。
- HomeLink®機器の電源がオンになっている。
- マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) HomeLink®機能が正しくプログラムされている。「プログラミング」(4.36 ページ)を参照してください。

快適機能と便利機能

ウィンドウ.....	5.02
安全性.....	5.02
開閉.....	5.02
クライメートコントロール.....	5.04
概要.....	5.04
調節ダイヤル.....	5.04
動作モード.....	5.05
「A/C」（画面）ボタン.....	5.06
曇り取り/デフロスト.....	5.06
温度調整ダイヤル.....	5.07
内気循環モード.....	5.07
ブロアー速度調節ダイヤル.....	5.08
エアディストリビューション設定.....	5.09
オートヒートシート.....	5.09
熱線入りリアウィンドウ.....	5.10
インテリア機能.....	5.11
室内照明.....	5.11
乗車照明.....	5.12
降車照明.....	5.12
エレクトロクロミックルーフ.....	5.13
収納ボックス.....	5.13
カップホルダー.....	5.15
オーナー文書.....	5.16
サンバイザー.....	5.16
アクセサリ電源ソケット.....	5.16
USB ソケット.....	5.17

快適機能と便利機能 ウィンドウ

安全性

⚠ 警告: ウィンドウの開閉時は手などを挟まれないように注意してください。体の一部をウィンドウに触れたまま操作しないでください。ウィンドウの動きによって挟まれるおそれがあります。挟み込みの危険がある場合はウィンドウの動作を止めてください。

開閉

⚠ 警告: リモコンキーはエンジンを始動可能にする他、車両のその他の機能を有効にする場合も使用します。車両を離れる際は、気づかぬうちにウィンドウが作動して怪我の原因になるのを防止するため、リモコンキーを携帯してください。

運転席ドアコンソールには両側のウィンドウのスイッチがあります。助手席ドアコンソールには助手席ウィンドウのスイッチがあります。



1. 運転席ウィンドウスイッチ。
2. 助手席ウィンドウスイッチ。

スイッチ (1) または (2) を押します。ウィンドウはスイッチを押している間だけ開きます。

スイッチ (1) または (2) を引きます。スイッチを引いている間はウィンドウが閉じ続けます。

ウィンドウを完全に開いたり閉じたりするには、スイッチ (1) または (2) をいっぱいを押すかまたは引いて離します。

i 注意: ウィンドウの開閉操作を停止するには、該当するスイッチを押すか引きます。

i 注意: 車両がアウェイクモードの場合、ウィンドウコントロールは使用できません。

ウィンドウのリセット

バッテリーが放電してしまった場合や取り外した場合、あるいは挟み込み防止機能が作動した後ではウィンドウをリセットする必要があります。

両方のドアが閉じており、イグニッションスイッチがオンになっていることを確認します。

快適機能と便利機能 ウィンドウ



スイッチ（1）および（2）をウィンドウが開くまで下に押し、全開後さらに5秒間スイッチを押し続けます。

ウィンドウが完全に閉じるまで両方のスイッチを上引き、完全に閉じた後さらに5秒間引き続けます。

ウィンドウのリセットが完了しました。

この方法で問題が解決しない場合は、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。

挟み込み防止機能



警告: 車内にお子様だけを残さないでください。ウィンドウが作動し、怪我を負うおそれがあります。

挟み込み防止機能は障害物や抵抗を検出すると、ウィンドウを閉じる動作を停止します。

挟み込み防止機能が作動した場合は、再び操作を行う前にウィンドウとウィンドウ開口部を点検し、障害物があれば取り除いてください。ドアを閉じる際に挟み込み防止機能が作動した場合は「ドアを閉じる」（1.08 ページ）を参照してください。

快適機能と便利機能

クライメートコントロール

概要

このシステムはオートマチックモードによる動作と、マニュアルによる設定の調節ができます。

コンビネーションフィルターによって車内に侵入する粉塵や汚染の量を低減しています。

警告: 暖房や冷房の推奨設定に従ってください。ウィンドウが曇ると道路や交通状況を確認できなくなり、事故につながるおそれがあります。

注意: クライメートコントロールシステムはドアやウィンドウを閉じた方が効率良く動作します。ただし、暑い場所に長時間駐車した場合は、短時間ウィンドウを開けて換気を行ってください。

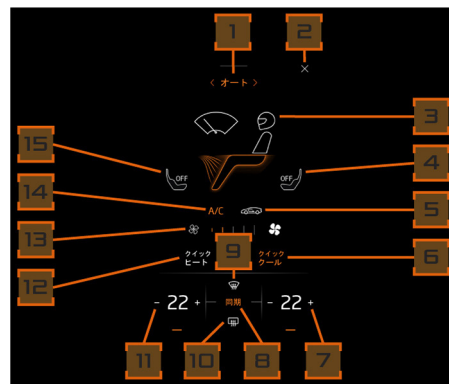
注意: 室温センサーはステアリングホイールとセンターコンソールの間に設置されています。このセンサーへの空気の流れを妨げないでください。妨げた場合、クライメートコントロールシステムのパフォーマンスが低下します。

注意: 車両のイグニッションスイッチをオフにしても、現在の室内温度制御設定は保持されます。

調節ダイヤル

クライメートコントロールシステムは、センターインフォテインメントタッチスクリーンを使用して操作します。☼ ボタンを押すと、室内温度制御画面がオンになります。

クライメートコントロール



1. 「AUTO（オート）」ボタン
2. 室内温度制御メニューを閉じる
3. 「エアディストリビューション」ボタン
4. 「ヒートシート」ボタン-右側
5. 「内気循環」ボタン

6. 「Quick COOL（クイッククール）」ボタン
7. 温度調節-右側
8. 「SYNC（同期）」ボタン
9. 「曇り取り」ボタン
10. 熱線入りリアウィンドウ/ミラー
11. 温度調節-左側
12. 「クイックヒート」ボタン
13. ブローア-速度調節ダイヤル
14. 「エアコン（A/C）」ボタン
15. 「ヒートシート」ボタン-左側

快適機能と便利機能 クライメートコントロール

動作モード

オートマチックモード

オートマチックモードでは、クライメートコントロールシステムは様々なブローアー速度と内気循環およびエアディストリビューションを組み合わせ、設定された室温を維持します。

コントロールパネルでは、色によって動作状態が示されます。

- アンバー色はオンを示しています。
- 白はオフになっているが、使用可能であることを示します。
- グレーは、使用できないことを示します。

オートマチックモードをオンにするには「AUTO」ボタンをタッチします。

ボタンが点灯し、車両の左右両側のエアディストリビューション、温度およびブローアー速度が自動的に調節されます。

AUTO モードでは、ブローアー速度やエアディストリビューションを調節する必要はありません。システムが設定された温度を維持するために必要な調節を行います。

それでもクライメートコントロールシステムのエアディストリビューションを変更したい場合は、希望するボタンをタッチしてください。これでシステムはAUTO ファンモードになります。

これは、ブローアー速度スライダーの色によって示されます。ブローアーがオートマチックコントロールになっている場合、バーはグレーで表示され、スライダーが自動的に移動します。この場合、システムはブローアー速度を調節して、設定温度を維持します。

AUTO がアクティブなときにブローアー速度を調整すると、デフォルトでマニュアルモードが選択されます。その後、「AUTO (オート)」ボタンを押すと、AUTO モードが再度アクティブになります。

必要に応じ、システム設定をマニュアルで調節できます。「マニュアルモード」(5.05 ページ)を参照してください。

マニュアルモード

室温をマニュアルで調節するには、「温度調整ダイヤル」(5.07 ページ)を参照してください。

ブローアー速度をマニュアルで調節するには、「ブローアー速度調節ダイヤル」(5.08 ページ)を参照してください。

SYNC モード

SYNC モードにより、運転席側で行った室温設定の変更を、自動的に助手席側の室温設定に適用することができます。

画面上の「SYNC (同期)」ボタンをタッチすると、ボタンが点灯し、運転席側の室温設定が自動的に助手席側に適用されます。

ドライバーは「SYNC (同期)」ボタンに1回タッチすることで随時 SYNC モードを終了できます。その後、画面上の「SYNC (同期)」ボタンが消えます。

ホット Evac

ホット Evac 機能は、車両設定メニューから有効にすることができます。「室内温度」(4.12 ページ)を参照してください。



i 注意: ドアがホット Evac 操作中に開いている場合、ホット Evac 機能はキャンセルされます。

リモコンキーのロック解除ボタンを2秒間押したままにすると、車両設定メニューでオンになっている場合、ホット Evac 機能は作動します。

快適機能と便利機能 クライメートコントロール

次の機能は、ホットEvac操作中に動作します。

- 室内温度制御のプロアー速度が 30 秒間最大になる
- 室内温度制御の温度が 30 秒間 LO に設定される
- ウィンドウロア

「A/C」 (画面) ボタン

A/C により、さらに温度を下げたり除湿効果を高めることができます。これは最大冷却およびデフロストモードで使用されます。

「A/C」画面ボタンはオン/オフスイッチとして使用します。

曇り取り/デフロスト



画面の曇り取り機能をアクティブにするには、「曇り取り」ボタンをタッチします。機能がアクティブになると、ボタンが点灯し、画面の上部にアイコンが表示されます。エアコンのスイッチがオフになっていた場合はオンになります。プロアーが最高速度で動作し、エア温度が「HI」に設定されます。

- i** 注意: プロアー速度を手動で遅くすることもできます。「プロアー速度調節ダイヤル」(5.08 ページ)を参照してください。
- i** 注意: 曇り取りモードを選択しているとき、内気循環は使用できません。

快適機能と便利機能 クライメートコントロール

曇り取りモードを終了するには、もう一度「曇り取り」ボタンをタッチします。ボタンのアイコンが消灯し、温度とブローア速度が元の設定に戻ります。

温度調整ダイヤル

温度を上げるには **+** にタッチし、下げるには **-** にタッチします。

- i** 注意: 温度は 16°C~28°C (61°F~83°F) の範囲内で、0.5°C (1°F) 刻みで調節できます。
温度を 22°C (72°F) に設定することをお勧めします。

最高温度に設定するには、「HIGH」と表示されるまで、**+** にタッチします。AUTO モードでは、クライメートコントロールシステムによって室温が最高に、ブローア速度が最大に設定され、空気がフットウェルに吹き出されます。

最低温度に設定するには、「LOW」と表示されるまで、**-** にタッチします。AUTO モードでは、クライメートコントロールシステムによって室温が最低に、ブローア速度が最大に設定され、空気がセンターエアイベントから吹き出されます。

設定された温度がセンターインフォテイメントタッチスクリーンに表示されます。

運転席と助手席の温度を同時に調整するには、「同期」にタッチして温度を調整します。温度コントロールは、「同期」に再度タッチするまで同期されたままになります。

- i** 注意: 「LOW」が選択された状態で、エアコンをオフにすることはできません。

内気循環モード



不快な臭いやガスが車内に入ってきたときは内気循環を選択します。外気が車内に取り込まれなくなります。

- !** 警告: 外気温が低い場合は、内気循環モードを長時間使用しないでください。ウィンドウが曇り、視界が失われる可能性があります。結果として、道路や交通状況への注意が散漫になり、事故につながるおそれがあります。

- i** 注意: ウィンドウの曇りを防止するため、エアコンのスイッチをオンにしてください。

快適機能と便利機能 クライメートコントロール

内気循環をアクティブにするには、「内気循環」ボタンをタッチします。ボタンが点灯します。内気循環をオフにするには、再度ボタンをタッチします。ボタンが消灯します。

ブロアー速度調節ダイヤル



- i** 注意: エンジンが冷えた状態で始動したときはエンジンが暖まるまでブロアー速度が制限され、空気はフロントウィンドウに吹き出されます。
- i** 注意: エンジンが暖まった状態で再始動した場合は、ブロアーが低速で動作することがあります。これによってベントから暖かい空気を取り除き、その後に要求された設定までブロアー速度が上がります。

「ファン」アイコンにタッチして、目的の設定にドラッグします。

オートマチックモードになっている場合にブロアー速度を調節すると、「AUTO」ボタンが消えます。

オートマチックモードに戻るには、「AUTO」ボタンを押します。

快適機能と便利機能 クライメートコントロール

エアディストリビューション設定



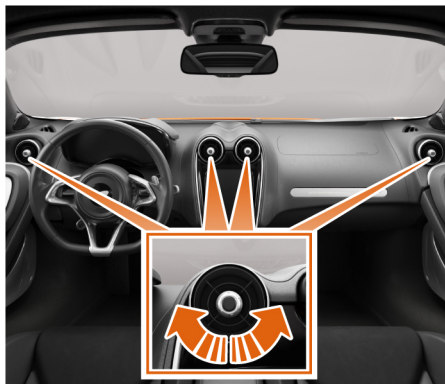
エアディストリビューションはエアディストリビューションボタンを使用して設定できます。

空気をフロントウィンドウに吹き出すには、画面上部を押します。センターエアイベントから吹き出すには、画面中央部を押します。フットウェルイベントから吹き出すには、画面下部を押します。

3つのすべての領域、任意の2つの領域の組み合わせ、あるいは1つの領域をいつでも選択できます。

エアディストリビューション領域を押すと、画面のアイコンが点灯します。

ダッシュボードエアイベント



ベントが開くか閉じるまで、いずれかの方向に4分の1回転させます。

セントラルダッシュボードエアイベント

セントラルダッシュボードエアイベントは、センターブレードを押すことで開閉できます。

オートヒートシート

- ⚠ 警告: 負傷の危険性を防止するために、シート温度を随時確認してください。
- ⚠ 警告: オートヒートシートは選択したレベルに応じた最適の温度になっても、自動的に電源が切れるようにはなっていません。好みの温度/加温時間に達したら、必ずオートヒートシート機能のスイッチを切ってください。



快適機能と便利機能 クライメートコントロール

シートヒーターを低い温度設定に切り替えるには、ボタンを1回タッチします。ボタンのバーが1本点灯します。中程度の温度設定に切り替えるには、再度ボタンをタッチします。ボタンのバーが2本点灯します。高い温度設定に切り替えるには、再度ボタンをタッチします。ボタンのバーが3本点灯します。

スイッチをオフにするには、ボタンを再度タッチします。ボタンのアイコンが消灯します。

シートヒーターはスイッチを切らない限り作動し続けます。

i 注意: シートヒーターは、エンジンが作動している場合にのみ使用可能です。シートヒーターを使用できない場合、ボタンがグレーアウトされて表示されます。

i 注意: シートヒーターは、エンジンがエコスタート-ストップシステムによって停止されたときに自動的にオフになりますが、エンジンが再始動すればヒーターも再開します。「エコスタート-ストップシステム」(2.09 ページ)を参照してください。

熱線入りリアウィンドウ



⚠ 警告: 熱線を作動させる前に、ミラーやウィンドウに付着した氷や雪を取り除いてください。視界が遮られるとドライバーや周囲の者にとって危険です。

ボタンにタッチしてリアウィンドウと外部ミラーを加熱します。ボタンのアイコンが点灯します。スイッチをオフにするには、ボタンを再度タッチします。ボタンのアイコンが消灯します。

熱線入りリアウィンドウは、外気温に応じて設定時間が経過すると自動的にオフになります。

快適機能と便利機能 インテリア機能

室内照明



1. 左側リーディングランプオン/オフ/調光タッチパッド
2. 室内照明オン/オフタッチパッド
3. 右側リーディングランプオン/オフ/調光タッチパッド

すべてのインテリアランプを点灯させるには、タッチパッド (2) をすばやく押します。

i 注意: 車両を離れる際は、すべての室内照明が消灯していることを確認してください。

インテリアランプを消灯させるには、タッチパッド (2) をもう一度押します。

リーディングランプ

リーディングランプを点灯させるには、目的のランプのタッチパッド (1) または (3) を押します。

リーディングランプを調光するには、タッチパッド (1) または (3) を目的の明るさになるまで押し続けます。

それぞれのリーディングランプを消灯させるには、タッチパッド (1) または (3) をもう一度押します。

車内灯

McLarenのインテリアには以下の場所に照明があります:

- ドアを開けた際の運転席および助手席のフットウェル
- センターコンソール（オーバーヘッドライトパネル内のランプにより照明）。イグニッションをオンにすると点灯します
- インテリアドアハンドル。イグニッションをオンにすると点灯します

車内灯はドアを閉じるかイグニッションをオンにしてから 60 秒後に消灯します。

ラゲッジルームを開くと、フロントラゲッジルームランプが点灯します。

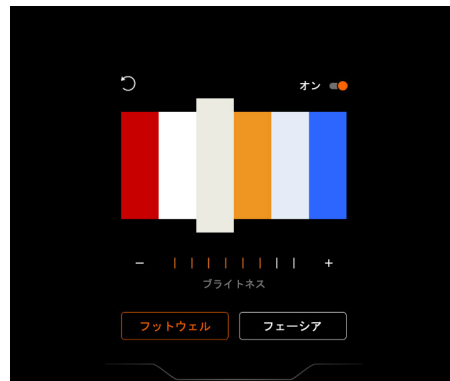
ラゲッジルームを開くと、リアラゲッジルームランプが点灯します。

グローブボックスを開くと、グローブボックスランプが点灯します。

ムードライト

ムードライトは、ドア、ロアコンソール、フットウェル、およびダッシュボードフェイスに取り付けられています。

ムードライトの色と明るさは、マクラーレンインフォテインメントシステム (MIS) の「設定」メニューを使用して調整できます。



「スイッチ」アイコンにタッチすると、ムードライトの「オン」と「オフ」が切り替わります。ムードライトが「オフ」の場合、ムードライトメニューの選択肢は表示されません。

快適機能と便利機能

インテリア機能

カラーバーにタッチしてムードライトの色を選択します。選択した色が展開され、他の色よりも大きく表示されます。

「リセット」にタッチすると、ムードライトがデフォルト設定に戻ります。

「フットウェル」にタッチすると、フットウェルのムードライトの「オン」と「オフ」が切り替わります。

「フェイスア」にタッチすると、フェイスアのムードライトの「オン」と「オフ」が切り替わります。

「+」または「-」記号にタッチすると、ムードライトの明るさが調整されます。あるいは、明るさバーをスワイプします。

乗車照明

乗車照明は、車両に近づいたときの視界と安全性を改善します。

車両のロックを解除すると、ヘッドランプとテールランプが一定時間、またはイグニッションスイッチをオンにするまで点灯します。

乗車照明の点灯時間の設定方法は「乗車および降車照明」(4.10 ページ)を参照してください。

降車照明

降車照明は、ヘッドランプとテールランプを一定時間点灯し、車両を離れる際の視界と安全性を改善します。

降車照明の点灯時間の設定方法は「乗車および降車照明」(4.10 ページ)を参照してください。

降車照明は、方向指示器レバーを手前に3回瞬間的に引くことによって作動させることができます。車両はアウェイク状態で、イグニッションがオフである必要があります。

降車照明が作動中に方向指示器レバーを引くと、1回引く度に15秒ずつ時間が延長されます。

車両から降車してロックし、設定した作動時間が過ぎると、降車照明が消灯してこの機能は使用できなくなります。再度作動させるにはマクラーレンインフォテインメントシステム(MIS)でオンにするか、方向指示器レバーを使用して手動で作動させます。

快適機能と便利機能 インテリア機能

エレクトロクロミックルーフ



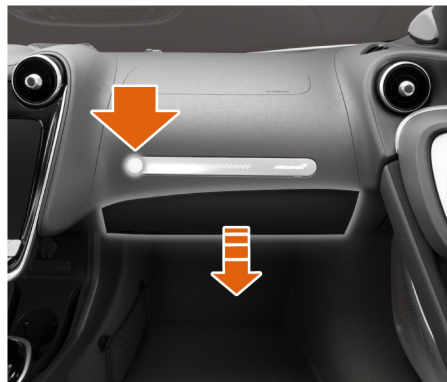
エレクトロクロミックルーフコントロールパネルは、運転席と助手席の間のルーフヘッドライナーにあります。コントロールパネルにタッチすると、エレクトロクロミックルーフの色合いが変わります。

イグニッションをオフにすると、この機能がオフになり、ガラスが着色されます。

イグニッションをオンにすると、ガラスは、以前にオンになっていたとしても、必ずオフ（着色）状態で始動します。

収納ボックス

グローブボックス



小物を収納するために、ダッシュボードの助手席側にグローブボックスが取り付けられています。

ダッシュボードのボタンにタッチすると、グローブボックスは自動的に下がって開位置になります。閉じるには、しっかりとグローブボックスを押し上げ、確実にラッチされていることを確認します。

i 注意: 車両がロックされているか、バレットモードがオンになっている場合、グローブボックスはロックされており、「リリース」ボタンは無効になります。

⚠ 警告: グローブボックスは中に物品を収納しているときは閉じておく必要があります。急ブレーキや急な進路変更時、事故発生時に乗員が飛び出した物品により怪我を負うおそれがあります。

i 注意: 車両を離れる際には必ず収納ボックスを閉じてください。開けたままにした場合、インテリアモーションセンサー（搭載されている場合）が機能しません。

センターコンソール収納ボックス



小物を収納するために、センターコンソールに収納ボックスが設けられています。

快適機能と便利機能 インテリア機能

リッドの下側にある「リリース」ボタンを押し、持ち上げて開きます。閉じるには、しっかりとリッドを押し下げ、確実にラッチされていることを確認します。

i 注意: 車両がロックされているか、パレットモードがオンになっている場合、収納ボックスはロックされており、「リリース」ボタンは無効になります。

! 警告: 収納ボックスは中に物品を収納しているときは閉じておく必要があります。急ブレーキや急な進路変更時、事故発生時に乗員が飛び出した物品により怪我を負うおそれがあります。



USB と 3.5 mm 補助オーディオ入力ソケットが収納ボックス内に設けられています。「外部デバイスへの接続」(4.26 ページ)を参照してください。

i 注意: 車両を離れる際には必ず収納ボックスを閉じてください。開けたままにした場合、インテリアモーションセンサー（搭載されている場合）が機能しません。

i 注意: シート後部はラゲッジやその他の個人的物品を収納するようには設計されていません。

シート収納ポケット

小物を収納するために、運転席前面の端にポケットが取り付けられています。

ドア収納ボックス



小物を収納するために、各ドアに収納ボックスが取り付けられています。

リッド前面の端を引いて開け、押し戻せば閉まります。

! 警告: 収納ボックスは中に物品を収納しているときは閉じておく必要があります。急ブレーキや急な進路変更時、事故発生時に乗員が飛び出した物品により怪我を負うおそれがあります。

! 警告: 物品が落ちる危険性があるため、ドアが開いているときに収納ボックスを開けないでください。

快適機能と便利機能 インテリア機能

収納ネット

センターコンソールの両側には、小物を収納するためのネットが取り付けられています。

カップホルダー



ドライブの際は、蓋付き飲み物の容器を安全で便利に収納できるカップホルダーを利用してください。

 **警告:** 車両走行中に飲み物を飲むと注意が散漫になり、事故につながるおそれがあります。

 **警告:** 車両が動いている間は、カップホルダーに温かい飲み物を入れないでください。高温の飲料がこぼれ、負傷するおそれがあります。

 **警告:** 壊れやすい飲料用容器（ガラスや磁器製など）は使用しないでください。事故が発生した場合、負傷するおそれがあります。

 **注意:** カップホルダー内の飲料容器には、常にふたが付いている必要があります。そうでない場合、飲み物がこぼれ、電子機器やシートカバーなどの車両機器が損傷するおそれがあります。

快適機能と便利機能 インテリア機能

オーナー文書

McLaren 車には以下の文書が備え付けられています:

- サービスおよび保証ガイド-問題発生時の対処方法と連絡先が記載されています。
- オーナーズハンドブック-マクラーレンの操作方法について説明します。



サービスおよび保証ガイドは、助手席側のダッシュボード下のスロットに収納することができます。

サンバイザー



運転の際に直射日光から目を守るためには、サンバイザーを下ろしてください。

バニティミラー

この個人用ミラーを使用するには、サンバイザーのパネルをスライドさせます。

アクセサリ電源ソケット

フロントラゲッジルームソケット



フロントラゲッジルームにあるアクセサリソケットの最大負荷電流は20 アンペアで、このソケットのみがマクラーレンのバッテリーチャージャーを接続するために使用することができます。

i 注意: 車両から電力の供給を受ける機器は、エンジンをかけている場合を除き、このソケットに接続したまま長時間放置しないでください (マクラーレンのバッテリーチャージャーを除く)。バッテリーの過放電の原因となります。

快適機能と便利機能 インテリア機能

インテリアアクセサリ 12V ソケット



インテリアアクセサリ 12V ソケットはセンターコンソールのフロントカップホルダーの横にあり、定格負荷は最大 15 アンペアです。

i 注意: バッテリーチャージャーをインテリアアクセサリソケットに接続しないでください。

USB ソケット

メディア USB ソケット



2つの USB ソケットは、センターコンソール収納ボックスの内側にあります。

USB ソケットを使用すると、USB フラッシュドライブ、iPod などの互換性のある MP3 プレーヤーを接続できます。

これらのソケットは、互換性のある携帯電話やメディアデバイスを充電するために使用することもできます。

メンテナンス

フルードの補充	6.02
エンジンオイル.....	6.02
ギアボックスオイルレベル.....	6.05
クーラント.....	6.05
パワーステアリングフルード.....	6.06
ブレーキフルード.....	6.07
フロントウィンドウウォッシャーフルード.....	6.09
非常用装備	6.10
非常用装備の安全性.....	6.10
フロントラゲッジルーム装備.....	6.10
三角表示板.....	6.10
救急キット.....	6.11
タイヤシーラント.....	6.11
けん引フック.....	6.12
燃料フィルターパイプ.....	6.12
消火器.....	6.12
バッテリーの点検と保守	6.13
バッテリーの安全性.....	6.13
バッテリーの充電.....	6.13
他車両からのブースト始動.....	6.14
ヒューズ	6.17
ヒューズの交換.....	6.17
メインヒューズボックス.....	6.17
セカンダリヒューズボックス.....	6.20
バッテリーヒューズボックス.....	6.21
照明	6.24
車両のランプ.....	6.24

手動ロック解除および開放	6.25
ロック解除 - 放電したバッテリー.....	6.25
車両の始動.....	6.27
車内からドアを開ける - 放電したバッテリー.....	6.27
フロントラゲッジルームを開ける - 放電したバッテリー.....	6.28
リアラゲッジルームを開ける - 放電したバッテリー.....	6.30
リモコンキーの電池の交換.....	6.33
ウォッシャーとワイパー	6.34
ワイパーブレードの交換.....	6.34
ホイールとタイヤ	6.36
ホイールとタイヤ.....	6.36
タイヤがパンクした場合.....	6.39
車両のお手入れ	6.41
McLaren 車の洗車.....	6.41
インテリアのクリーニング.....	6.42
車両カバー.....	6.43
車両のリフト	6.44
車両のリフトポイント.....	6.44
McLaren アシスタンス	6.45
McLaren アシスタンス.....	6.45
交換用バッテリー.....	6.45
故障時.....	6.45
回収のためのけん引.....	6.46
海外での走行	6.47
海外での走行.....	6.47

メンテナンス フルードの補充

エンジンオイル

エンジンがオイルを消費するのは正常であり、消費率は多くの要因によって変化します。車両が新しい場合、または高回転で走行することが多い場合、オイルの消費量は多くなることがあります。

オイルおよびフィルター変更のサービススケジュールに沿って実施し、その間にオイルのレベルを定期的に点検することが重要です。

オイルの消費量は、数千マイルあるいは数千キロメートルを走行した後でないと、測定することはできません。

i 注意: 潤滑油添加剤はエンジンやギアボックスを損傷するおそれがあります。添加剤によって生じた損傷は車両の保証の範囲外となります。詳しい情報はマクラーレン代理店から入手できます。

i 注意: オイル圧力警告灯は、オイルレベル低下インジケータではありません。

エンジンオイルの点検

- 以下の条件を満たしていることを確認します。
 - 車両が静止状態で、水平な地面に置かれている。
 - ニュートラルを選択し、フットブレーキを（左足で）踏んでいる。

i 注意: オイルレベル点検中は常にフットブレーキを踏んでいる必要があります。



- オイルレベルはドライバーディスプレイの車両情報セクションに表示されます。詳しくは「オイルステータス」(3.07 ページ)をご覧ください。
- エンジンを始動し、エンジン回転数を 2,000 rpm に 120 秒間保ちます。エンジンオイル温度が 90°C (194°F) になるまで待ちます。

i 注意: スロットルペダルを完全に踏み込んでも、電子制御によりエンジン回転数は 2,000 rpm に抑制されます。

- タイマーが「0」になると、オイルレベルが説明とともにドライバーディスプレイに表示されます。

i 注意: ディスプレイ上の線は、オイルレベルの読み取り後 19 秒間の最大オイルレベルを示しています。



- エンジンオイルが目標レベル未満の場合、次の手順に従ってエンジンを停止し、オイルを補充します。

メンテナンス フルードの補充

- i** 注意: オイルレベル点検が完了して結果が表示されたら、システムのテストを終了してください。そのままテストを続けると、オイルに空気が混入し、誤った値が返される可能性があります。オイルレベル点検を終了するには、スロットルペダルを放し、メニューレバーを後ろに動かして車両情報メニューに戻ります。

エンジンオイルの補充

- !** 警告: エンジンがエコスタート/ストップシステムにより停止している場合、警告なく再始動の可能性があることに注意する必要があります。

- !** 警告: エンジンオイルの補充を行う前には、必ずエンジンを停止してください。

1. リアラゲッジコンパートメントを開きません。
「リアラゲッジルーム」(1.10 ページ)を参照してください。



2. エンジンオイルフィラーキャップを取り外します。
3. 正しい分量のエンジンオイルを補充します。「補充する量」(6.04 ページ)および「エンジンオイル」(7.10 ページ)を参照してください。

- i** 注意: オイルは過剰に給油しないでください。オイルを 8.0 L 以上給油してもドライバーディスプレイにオイルレベルが低いと表示される場合は、それ以上オイルは給油せず最寄りのマクラーレン代理店にご連絡ください。

- 🌿** 環境: オイルを補充する際は、オイルをこぼさないように注意してください。オイルを地面や水路に流してはなりません。

- i** 注意: 2 分間待って、フィラーチューブからタンクにオイルが流れるようにします。これにより、オイルレベルの読み取り値が正確になります。

4. ドライバーディスプレイでレベルが適正であることを確認します。

- i** 注意: 誤ってエンジンオイルを入れ過ぎてしまった場合は、マクラーレン代理店に入れ過ぎたオイルの抜き取りを依頼する必要があります。エンジンや触媒コンバーターを損傷するおそれがあります。

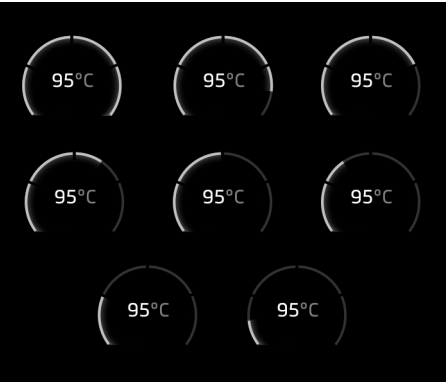
5. エンジンオイルフィラーキャップを取り付けます。

- i** 注意: オイルフィラーキャップが正しく取り付けられていることを確認してください。

6. リアラゲッジルームを閉じます。
「リアラゲッジルーム」(1.10 ページ)を参照してください。

メンテナンス フルードの補充

補充する量



ドライバーディスプレイに表示されているオイルの状態を確認し、下表に表示されている必要量のオイルを追加してから、もう一度エンジンオイルレベルを確認します。

ディスプレイ上のセグメント	必要なオイルの量
½ - 充填不足	0.90 リットル
1 - 最小	0.70 リットル
1 ½ - OK	0 リットル

ディスプレイ上のセグメント	必要なオイルの量
2 - OK	0 リットル
2 ½ - OK	0 リットル
3 - OK	0 リットル
3 ½ - 最大	0 リットル
4 - 過剰充填	マクラーレン代理店にお問い合わせください

オイル温度

オイル温度が高すぎる場合、ドライバーディスプレイに警告が表示されます。警告メッセージが消えるまで、車速とエンジン回転数を下げます。

メンテナンス フルードの補充

ギアボックスオイルレベル

オイルの減少、あるいはギアシフトの問題が生じた場合は、マクラーレン代理店にギアボックスの点検を依頼してください。

i 注意: クラッチオイルとギアボックスオイルの整備間隔は走行距離によって決まります。このメンテナンスは、マクラーレン代理店のみが行えます。

クーラント

クーラントは水と凍結防止剤/防錆剤の混合液です。クーラントの点検時は必ず車両を水平な場所に停車し、エンジンが冷えた状態で行ってください。

クーラントの補充

! 警告: クーラントシステムは加圧されています。エンジンが冷めた状態以外ではキャップを開けないでください。エンジンが熱いうちに開けると高温のクーラントが吹き出し、火傷を負うおそれがあります。

! 警告: クーラントは高い引火性があります。クーラントを取り扱う際には火気、裸火、喫煙は厳禁です。

! 警告: クーラントは有毒です。容器は密封し、お子様の手の届かない場所に保管してください。クーラントを誤飲した場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

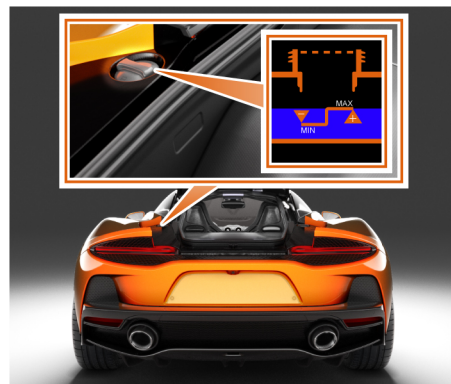
! 警告: エンジンがエコスタート/ストップシステムにより停止している場合、警告なく再始動の可能性があることに注意する必要があります。

! 警告: クーラントレベルのチェックと補充を行う前には、必ずエンジンを停止してください。

1. リアラゲッジコンパートメントを開きます。

「リアラゲッジルーム」(1.10 ページ)を参照してください。

2. キャップを反時計回りにゆっくりと半回転させ、圧力を逃がします。
3. キャップを完全に開けて取り外します。



4. + マーカーの上部にある場合は、クーラントレベルは正常です。
5. 必要に応じてクーラントを補充します。「クーラント」(7.11 ページ)を参照してください。

🌿 環境: クーラントを補充する場合は、こぼさないように注意してください。クーラントを地面や水路に流さないでください。

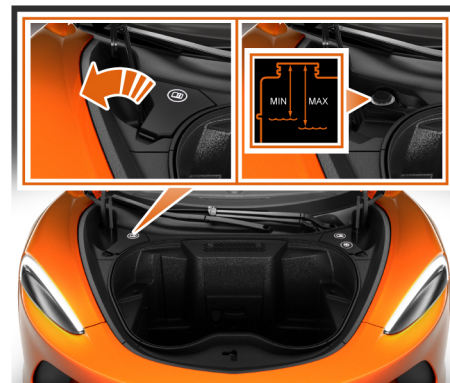
メンテナンス フルードの補充

6. キャップを時計回りに止まるまで回して取り付けます。
7. リアラゲッジルームを閉じます。
「リアラゲッジルーム」(1.10ページ)を参照してください。

パワーステアリングフルード



右ハンドルモデル



左ハンドルモデル

⚠ 警告: パワーステアリングフルードは高い引火性があります。パワーステアリングフルードを取り扱う際には、火気、裸火、喫煙は厳禁です。

⚠ 警告: パワーステアリングフルードは有毒です。容器は密封し、お子様の手の届かない場所に保管してください。フルードを誤飲した場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

メンテナンス フルードの補充

 **警告:** 車両を車両リフトモードにしないでください。パワーステアリングフルードレベルを点検する前に、ドライバーディスプレイに車両リフトアイコンが点灯していないことを確認します。「車両リフト」(1.42 ページ)を参照してください。

フルードレベルの点検

1. イグニッションをオンにしてエンジンを始動します。コンフォートハンドリングモードを選択します（「ハンドリングコントロール」(2.20 ページ)を参照）。
2. フルードレベルを点検する前に、エンジンを 20 秒間アイドリングします。
3. ラゲッジルームを開けます。「フロントラゲッジルーム」(1.09 ページ)を参照してください。
4. アクセスカバーを取り外し、その後キャップを反時計回りに緩めて取り外します。
5. リザーバーの内側からフルードレベルまでの距離を測定します。最大補充レベルはフィアネック上部から 50 mm で、最小補充レベルは 55 mm です。
6. 必要に応じて補充します。必ず Pentosin CHF202 パワーステアリングフルードを補充してください。マクラーレン代理店にお問い合わせください。

 **環境:** パワーステアリングフルードを補充する場合は、こぼさないように注意してください。パワーステアリングフルードを地面や水路に流さないでください。

7. キャップとアクセスカバーを交換します。
8. フロントラゲッジルームを閉じます。「フロントラゲッジルーム」(1.09 ページ)を参照してください。

ブレーキフルード

 **警告:** ブレーキフルードは高い引火性があります。ブレーキフルードを取り扱う際には、火気、裸火、喫煙は厳禁です。

 **警告:** ブレーキフルードは有毒です。容器は密封し、お子様の手の届かない場所に保管してください。フルードを誤飲した場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

 **警告:** 必ず密封された容器に入った新品のブレーキフルードを使用してください。

 **警告:** ブレーキフルードのチェックと補充を行う前には、必ずエンジンを停止してください。

 **注意:** ブレーキフルードは塗装面に有害であるため、こぼさないように注意してください。こぼしてしまったときはすぐにカーシャンプーの水溶液で洗い落としてください。

メンテナンス フルードの補充



右ハンドルモデル



左ハンドルモデル

🌿 環境: ブレーキフルードを補充する場合は、こぼさないように注意してください。ブレーキフルードを地面や水路に流さないでください。

5. キャップとアクセスカバーを交換します。
6. フロントラゲッジルームを閉じます。「フロントラゲッジルーム」(1.09 ページ)を参照してください。

フルードレベルの点検

1. ラゲッジルームを開けます。「フロントラゲッジルーム」(1.09 ページ)を参照してください。
2. アクセスカバーを取り外し、その後キャップを反時計回りに緩めて取り外します。
3. ブレーキフルードは、フィラーネック内のフィルターのベースがちょうど浸る程度であれば適正レベルです。
4. 必要に応じて、新品のブレーキフルードを補充します。「ブレーキフルード」(7.12 ページ)を参照してください。

メンテナンス フルードの補充

フロントウィンドウウォッシャーフルード

警告: 一部のウォッシャーフルードは高い引火性があります。ウォッシャーフルードを取り扱う際には、火気、裸火、喫煙は厳禁です。

警告: ウォッシャーフルードは有毒です。容器は密封し、お子様の手の届かない場所に保管してください。フルードを誤飲した場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

注意: 一年間を通じてウォッシャーフルードをリザーバーに補充してください。

フロントウィンドウウォッシャーフルードの補充

1. ラゲッジルームを開けます。「フロントラゲッジルーム」(1.09ページ)を参照してください。
2. リザーバーに補充する前に、フロントウィンドウウォッシャーフルード濃縮液と水を容器で混合します。フロントウィンドウウォッシャーフルードは気温に適した濃度になるように混合する必要があります。「フロントウィンドウウォッシャーフルード」(7.12ページ)を参照してください。



3. アクセスカバーを取り外します。
4. リザーバーキャップ (1) を開けます。
5. フロントウィンドウウォッシャーフルードを補充します。
6. キャップを閉めます。
7. アクセスカバーを交換します。
8. フロントラゲッジルームを閉じます。「フロントラゲッジルーム」(1.09ページ)を参照してください。

メンテナンス 非常用装備

非常用装備の安全性

非常用装備を使用する前に、以下の安全情報を良くお読みください。

⚠ 警告: 非常用装備を使用する際には必ず、適切な使用法を確認し、本来の目的にのみ使用してください。非常用装備は必ず、安全かつ責任ある方法により、他の交通に注意して使用してください。

フロントラゲッジルーム装備



非常用装備は、フロントラゲッジルームの前壁にあたるフォームブロックに収納されています。

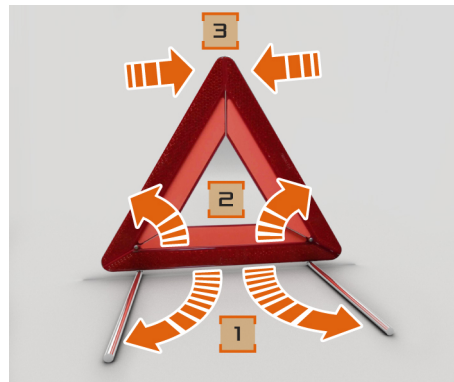
三角表示板



三角表示板（1）はラゲッジルームの最前部、赤いケースの中にあります。2本のストラップを外して、三角表示板を取り出します。

メンテナンス 非常用装備

三角表示板の立て方



脚 (1) を底部から横に広げます。

サイドリフレクター (2) を上に引き上げて三角表示板を作り、スナップボタン (3) で頂点を固定します。

他の交通に故障車の存在を警告するために、車両から適切な距離に三角表示板を置きます。

救急キット



救急キット (2) はラゲッジルームの最前部にあります。

i 注意: 救急キット用品の使用期限を12か月ごとに確認し、必要に応じて交換してください。

タイヤシーラント



タイヤシーラント (3) は、ラゲッジルームの最前部、フォームブロック内にあります。救急キットを取り出し、ストラップ2本を外してタイヤシーラントを取り出します。

タイヤシーラントの使用法の説明は「タイヤがパンクした場合」(6.39 ページ)を参照してください。

i 注意: タイヤシーラントの使用期限を12か月ごとに確認し、必要に応じて交換してください。

メンテナンス 非常用装備

けん引フック



けん引フック (4) は、フロントラゲッジルームの前壁にあたるフォームブロックにあります。

i 注意: お客様のマクラーレンは、フロントけん引フックマウントのみが装備されています。他の車両をけん引することはできません。

けん引フックの取り付け方法については「けん引フックとマウント」(6.46 ページ)を参照してください。

燃料フィラーパイプ



フューエルフィラーパイプ (5) は、フロントラゲッジルームの前壁にあたるフォームブロックに収納されています。

i 注意: 燃料フィラーパイプはガソリンスタンドの給油機以外から燃料を給油する際のみ使用してください。クーラント、エンジンオイル、その他のフルードの補充に燃料フィラーパイプを使用しないでください。

フューエルフィラーパイプの使用方法については、「燃料フィラーパイプを使用した給油」(2.41 ページ)を参照してください。

消火器



消火器はフロントラゲッジルームの後部にあります。

固定ストラップを外し、消火器を取り出します。

使用方法は、消火器側面に記載されているメーカーの説明に従ってください。

i 注意: 消火器は12か月ごとに点検する必要があります。点検を怠ると、緊急時に使用できないおそれがあります。消火器を使用した場合は交換してください。

メンテナンス

バッテリーの点検と保守

バッテリーの安全性

バッテリーチャージャーを使用する前に、以下の安全情報をよくお読みください。

警告: お客様のマクラーレンにはリチウムイオンバッテリーが搭載されています。リチウムイオンバッテリーチャージャー以外は使用しないでください。詳細については、マクラーレン代理店にお問い合わせください。

警告: お客様のマクラーレン車両に搭載されているリチウムイオンバッテリーはシールドタイプです。バッテリーセルの点検のためにバッテリーシールを破壊してはなりません。

警告: 車両を長期間使用しない場合は、リチウムイオンバッテリーを適切なリチウムイオンバッテリーチャージャーに接続し、電源を入れておいてください。そうすることでバッテリーを維持し、寿命を伸ばすことができます。

警告: 使用する前にすべてのケーブルが正常な状態であることを確認してください。傷んだケーブルは使用しないでください。すべてのケーブルが鋭利なものに触れたり、何かに挟まったり、高温の部分に触れたり水に浸かったりしていないことを確認してください。

損傷したバッテリーは決して充電しないでください。バッテリーの充電は必ず風通しの良い場所で行ってください。決してチャージャーに覆いをかけたり、チャージャーをバッテリーの上に置いたりしてはなりません。バッテリーの上に金属製のものを置かないでください。バッテリーがショートし、発火するおそれがあります。チャージャーは常にお子様の手の届かない場所に保管してください。

バッテリーの充電

i 注意: リチウムイオンバッテリーを最適な状態に維持するため、車両を長期間運転しない場合、その間は常にマクラーレンのバッテリーチャージャーをバッテリーに接続し、電源を入れておいてください。

i 注意: バッテリーチャージャーをインテリアアクセサリースocketに接続しないでください。



バッテリーチャージャーの取扱説明書を参照してください。

メンテナンス バッテリーの点検と保守

チャージャーは、フロントラゲッジルームのアクセサリソケットに接続します。「フロントラゲッジルームソケット」(5.16 ページ)を参照してください。

他車両からのブースト始動

ブースターケーブルの使用

 **警告:** 両方の車両のバッテリーが12Vであること、ブースターケーブルのクランプに絶縁が施されていること、12Vバッテリーへの使用が認定されていることを確認してください。

 **警告:** プラス (+) 電極とマイナス (-) 電極を接続しないでください。

 **警告:** エンジンの回転部分の近くで作業を行う場合は十分に注意してください。ケーブルは常に清潔に保ってください。

 **注意:** 24V ブースタースタートシステムは使用しないでください。非常に高電圧であるため、車両の電気系統を損傷するおそれがあります。

 **注意:** バッテリーが放電した場合、車両を押すかけん引して始動することができません。

 **注意:** 救援車を使用する場合は、バッテリーが放電した車両を始動する前に救援車のエンジンを最低2分間作動させてください。

ブースト手順

1. 救援車を使用する場合は、バッテリーの位置が隣り合うように駐車します。ただし、車両同士が接触しないように注意してください。
2. パーキングブレーキをかけ、両方の車両のトランスミッションをニュートラル（または、オートマチック車の場合はパーキングポジション）に入れます。
3. 両方の車両のイグニッションスイッチとすべての電装品のスイッチをオフにします。
4. フロントラゲッジルームを開け、収納されている物をすべて取り出します。



メンテナンス バッテリーの点検と保守

5. バッテリーアクセスカバーの上部を固定しているネジを2分の1回転させて取り外します。



6. バッテリーアクセスカバーの上部を開き、カバー背面にある2個の電気コネクタを外します。
7. その位置決めベグから上向きにバッテリーアクセスカバーを持ち上げ、取り外します。



注意: ブースターケーブルを接続する前に、走行不能車両のバッテリー端子が正しく接続されていること、すべての電装品のスイッチがオフになっていることを確認してください。



8. プラス (+) ブースターケーブルの一方の端を電源供給車両のプラス (+) 端子に接続します。
9. プラス (+) ブースターケーブルの反対側を走行不能車両のバッテリーのプラス (+) 端子 (A) に接続します。
10. マイナス (-) ブースターケーブルの一方の端を電源供給車両のバッテリーのマイナス (-) 端子に接続します。
11. マイナス (-) ブースターケーブルの他方の端を走行不能車両のバッテリーのマイナス (-) 端子 (B) に接続します。
12. ケーブルが可動部分に触れておらず、4箇所の接続部が確実に接続されていることを確認します。



警告: 各接続部が確実に接続されていること、クリップが偶然接続点/バッテリーターミナルからずれ落ちたり引き外されたりする危険性がないことを確認してください。万一外れた場合、火花が散り火災や爆発を引き起こすおそれがあります。

13. 救援車のエンジンをかけて2分間作動させます。
14. これで、バッテリーが放電した車両の電気システムにより、エンジンを始動する準備ができました。
15. バッテリーが放電した車両のエンジンを始動します。
16. 両方の車両を2分間アイドリングします。
17. 救援車のスイッチを切ります。



注意: ブースターケーブルを取り外すまでは、バッテリーが放電した車両の電気回路のスイッチはオンにしないでください。



注意: バッテリーが完全に放電してしまった場合や取り外した場合は、ウィンドウをリセットする必要があります。「ウィンドウのリセット」(5.02 ページ)を参照してください。この方法で問題が解決しない場合は、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。

ケーブルの取り外し

1. ブースターケーブルの取り外しは、接続時と逆の順序で行います。

メンテナンス

バッテリーの点検と保守

2. バッテリーアクセスカバーを再び取り付け、2 個の電気コネクタを接続して、2 本のネジで固定します。

メンテナンス ヒューズ

ヒューズの交換

警告: ヒューズは車両の電気システムを保護しています。ヒューズが故障すると、各ヒューズが保護しているシステムが動作不能になります。

同一の定格と種類の交換用ヒューズを使用してください。誤った定格のヒューズを使用するとシステムに過負荷がかかり、火災や故障の原因になります。切れたヒューズは必ず交換し、決して修理して使用しないでください。

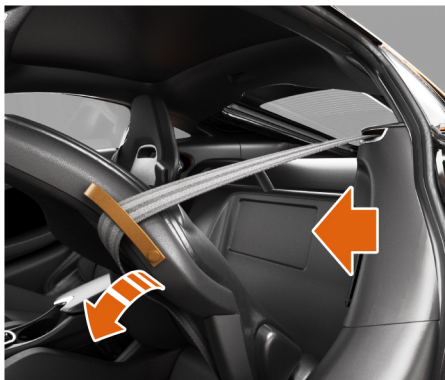
注意: ヒューズを取り外す前にすべての電装品のスイッチを切り、イグニッションスイッチをオフにしてください。

この車両には、以下の3つのヒューズボックスがあります。

ヒューズボックス	場所
メインヒューズボックス	左シート後部のリアバルクヘッド内のパネルの裏側
セカンダリヒューズボックス	助手席側ダッシュボードの下
バッテリーヒューズボックス	バッテリーの上、ラゲッジルーム内、ラゲッジルームカバーの下

メインヒューズボックス

メインヒューズボックスへのアクセス



1. メインヒューズボックスにアクセスするには、次の手順に従います。

- マニュアルシートが装着されている場合、チルトリリースレバーを持ち上げ、左側シートのバックレストを前方に傾けます
- 電動シートが装着されている場合、リリースストラップを引き（上図）、左側シートのバックレストを前方に傾けます



2. パネルをバルクヘッドに固定している2つの下側クリップを外し、パネルを取り外します。
3. 作動しなくなった電気システムを保護しているヒューズを判別するには、ヒューズ規格一覧表を参照してください（「メインヒューズボックスヒューズ規格一覧表」（6.18ページ）を参照）。

- 注意:** アクセスパネルの内側に、ヒューズを識別するラベルが貼付されています。
4. 該当するヒューズを取り外し、同じ値のヒューズに交換します。不確実な場合はヒューズ規格一覧表で確認してください。

メンテナンス ヒューズ

5. アクセスパネルの2つの上部保持クリップをバルクヘッドに挿入して取り付け、2つの下部クリップで固定します。

 注意: ヒューズを交換しても電気系統の問題が解決しない、またはすぐに切れてしまう場合は、マクラーレン代理店にご相談ください。

メインヒューズボックスヒューズ規格一覧表

No.	アンペア	保護対象回路
F1	60	右側セカンダリアエアポンプ
F2	60	左側セカンダリアエアポンプ
F3	-	-
F4	-	-
F5	30	トランスミッションコントロールユニット
F6	30	トランスミッションコントロールユニット
F7	30	スターター
F8	30	熱線入りリアウィンドウ

No.	アンペア	保護対象回路
F9	30	オーディオアンプ (16チャンネル)
F10	-	-
F11	-	-
F12	-	-
F13	5	トランスミッションコントロールユニット
F14	5	エンジンコントロールモジュール
F15	10	リレー
F16	3	テールゲート
F17	3	ドアロックスイッチ
F18	50	ECU メインリレーフィード
F19	40	燃料ポンプ
F20	30	運転席

No.	アンペア	保護対象回路
F21	30	助手席
F22	-	-
F23	5	チルト/マイクロウェーブセンサー
F24	20	インフォテインメントコントロールユニット
F25	10	運転席/助手席ドアラッチ
F26	3	補助 USB ボード
F27	2	インフォテインメント
F28	-	-
F29	20	真空ポンプ
F30	-	-
F31	50	左側クーリングファン
F32	50	右側クーリングファン
F33	-	-

メンテナンス ヒューズ

No.	アンペア	保護対象回路
F34	-	-
F35	-	-
F36	20	ECM 電源
F37	15	キャニスターパージ、ラムダセンサー、クーリングファンリレーコイル
F38	15	燃料インジェクション/イグニッション-左バンク
F39	15	燃料インジェクション/イグニッション-右バンク
F40	10	エンジン補機類
R41	-	-
R42	-	-
R43	-	-
R44	-	-

No.	アンペア	保護対象回路
F45	10	電動サーモスタット、カムシャフトアクチュエーター
F46	3	出力シャフト速度、偶数ギアシャフト速度
F47	3	インプットシャフトスピード、奇数ギアシャフト速度
F48	-	-
F49	5	スターター
R50	-	-
R51	-	熱線入りリアウィンドウ
R52	-	-
R53	-	トランスミッションコントロールユニット
R54	-	トランスミッションコントロールユニット
R55	-	スターター

No.	アンペア	保護対象回路
R56	-	右側セカンダリアエアポンプ
R57	-	クーリングファン
R58	-	ECU メインリレーフィード

拡張診断ポート

拡張診断ポートは、右側シートの後ろにあります。この機能は、マクラーレン代理店ののみが使用できます。

メンテナンス ヒューズ

セカンダリヒューズボックス

セカンダリヒューズボックスへのアクセス

1. セカンダリヒューズボックスは、助手席側ダッシュボード下のクロー징ングパネルを下げることでアクセスが得られます。



2. 正面の2本のねじ (1) を取り外します。
3. 側面の固定クリップ (3) を取り外します。

i 注意: クロー징ングパネルを完全に下げるには、さらに背面のクリップ (2) 2個を取り外します。

4. ヒューズボックスにアクセスできるように、クロー징ングパネルを十分に下げます。

i 注意: クロー징ングパネルが傷つかないように、必要以上には下げないでください。



5. 該当するヒューズを取り外し、同じ値のヒューズに交換します。不確実な場合はヒューズ規格一覧表で確認してください（「セカンダリヒューズボックスヒューズ規格一覧表」(6.20 ページ)を参照）。
6. クロー징ングパネルを元の位置に戻してクリップを取り付け、正面の2つのねじを締め付けます。

セカンダリヒューズボックスヒューズ規格一覧表

No.	アンペア	保護対象回路
F1	20	運転席ドア
F2	20	助手席ドア
F3	25	ランプ
F4	35	ランプ
F5	35	ボディ
F6	35	ボディ
F7	35	アラーム
F8	-	-
F9	-	-
F10	-	-
F11	-	-
F12	-	-
F13	10	インストルメントクラスター

メンテナンス ヒューズ

No.	アンペア	保護対象回路
F14	5	トランスミッションコントロールユニット
F15	10	エアコン
F16	3	アラームコントロールユニット
F17	3	トラッカー
F18	7.5	アラーム
F19	5	センターディスプレイ
F20	3	トランスミッションコントロールユニットリレー
F21	15	コントロールディスプレイユニット
F22	-	-
F23	-	-
F24	5	開発コネクタ
F25	10	OBD2 診断

No.	アンペア	保護対象回路
F26	-	-
F27	-	-
F28	-	-

バッテリーヒューズボックス

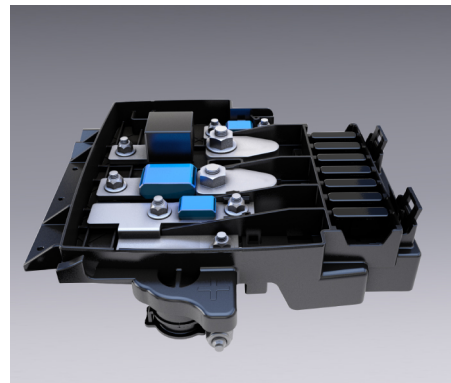
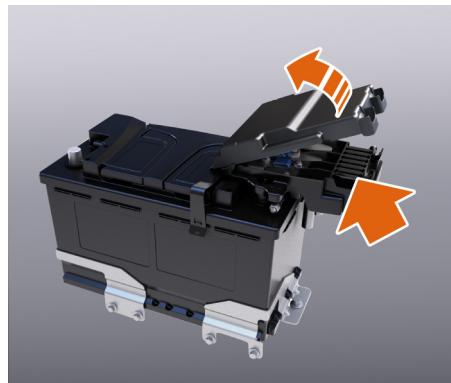
バッテリーヒューズボックスへのアクセス

1. ラゲッジルームリッドを開け、入っているものをすべて取り出します。



2. バッテリーアクセスカバーの上部を固定しているネジを2分の1回転させて取り外します。

メンテナンス ヒューズ



3. バッテリーアクセスカバーの上部を開き、カバー背面にある2個の電気コネクタを外します。
4. その位置決めベグから上向きにバッテリーアクセスカバーを持ち上げ、取り外します。
5. カバーの右側のキャッチ2つを押してヒューズボックスのカバーを取り外します。
6. 該当するヒューズを取り外し、同じ値のヒューズに交換します。不明な場合は、「バッテリーヒューズボックスヒューズ規格一覧表」(6.23ページ)を参照してください。
7. カバーの左側をヒューズボックスにはめ込み、右側をいっばいに押し込んでクリップを完全にかみ合わせます。
8. バッテリーアクセスカバーを再び取り付け、2個の電気コネクタを接続して、2本のネジで固定します。
9. ラゲッジルームから取り出したものを収納します。

メンテナンス ヒューズ

バッテリーヒューズボックスヒューズ規格一覧表

No.	アンペア	保護対象回路
F1	30	トランスミッションコントロールユニット
F2	30	トランスミッションコントロールユニット
F3	30	エアコン - モーター - コントロールモジュール
F4	50	セカンダリヒューズボックス電源
F5	40	エレクトロニクススタビリティコントロールバルブ
F6	40	エレクトロニクススタビリティコントロールモーター
F7	20	補助電源ソケット - ラゲッジルーム
F8	40	セカンダリヒューズボックス電源

No.	アンペア	保護対象回路
F9	100	電動油圧パワーアシストステアリング
F10	200	メインヒューズボックス電源
F11	30	セカンダリヒューズボックス電源

メンテナンス 照明

車両のランプ

照明は車両の安全上重要な局面です。すべてのライトがいつでも点灯することを保証する必要があります。

マクラーレン車のすべての外部ランプは最新の発光ダイオード（LED）技術を使用しています。

従来のフィラメント式電球とは異なりLEDランプは寿命が長く、低消費電力でありながら同等の照度を実現できます。

ヘッドランプ

お客様のマクラーレンには発光ダイオードのヘッドランプが装備されています。これらのランプは、特に悪天候時や走行条件の悪いときに、ロービームでもハイビームでもより広い視界を提供します。



注意: 発光ダイオードをご自分で交換しようとししないでください。車両の照明システムを損傷するおそれがあります。故障の場合は、最寄りのマクラーレン代理店にお問い合わせください。

メンテナンス

手動ロック解除および開放

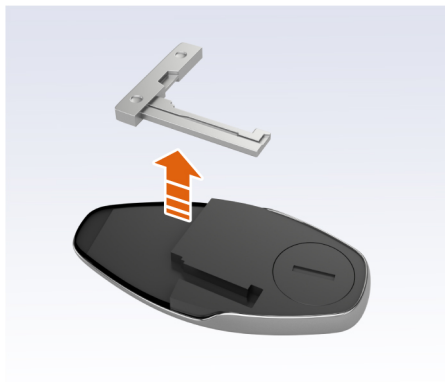
ロック解除 - 放電したバッテリー

車両のバッテリーが放電した場合、またはリモコンキーの電池の放電によって車両をロックまたはロック解除できなくなった場合は、機械式キーを使用してください。

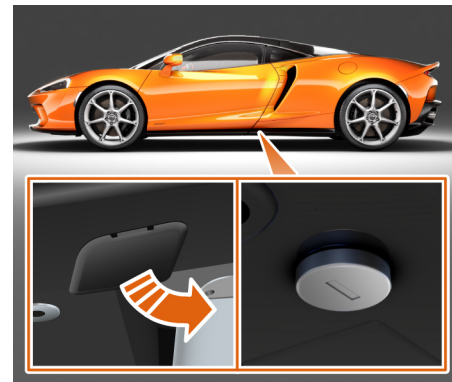
ロックを解除しドアを開ける手順



1. 親指でインデントを押してリモコンキーからバックカバーをスライドさせます。



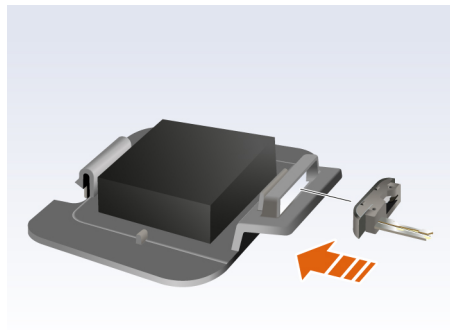
2. 機械式キーをリモコンキーから取り外します。



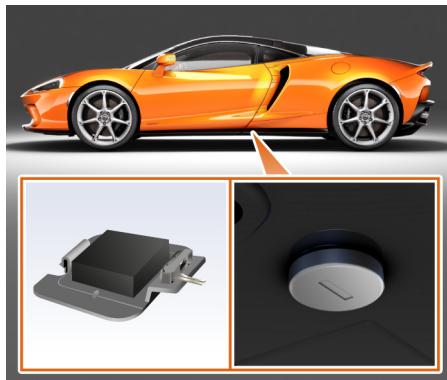
3. 機械式ロックは、ドア下部のシルパネルにある取り外し可能なパネルの下に設置されています。
4. くぼみに指を入れてパネルを外側に引き、パネルを取り外します。

i 注意: パネルは車両に固定されていないので、完全に取り外すことができます。パネルが無理のない状態で格納されていて、機械式キーの使用により損傷するおそれがないことを確認してください。

メンテナンス 手動ロック解除および開放



5. 取り外したパネルのスロットに機械式キーを挿入します。



6. 機械式キーをロックに挿入し、機械的な抵抗によってドアの完全な解除が妨げられている位置までキーを反時計回りに回します。
7. ドアのラッチ部分に圧力をかけ（ドアシールの圧力に対抗するため）、さらにキーを回してドアをリリースします。
8. 機械式キーを元通りリモコンキーに取り付けます。

i 注意: 機械式キーを用いて車両のロックを解除すると盗難防止システムが作動し、アラームが鳴ることがあります。ドアが開いたら、センターコンソール収納ボックスを開き、10 秒以内にリモコンキーを収納ボックスの前壁に置きます。車両がリモコンキーを認識し、アラームの鳴動を中止します。

9. リモコンキーの電池が放電している場合は、できるだけ早い機会にバッテリーを交換してください（「リモコンキーの電池の交換」（6.33 ページ）を参照）。

メンテナンス 手動ロック解除および開放

車両の始動



リモコンキーバッテリーが放電しており、エンジンが始動しない場合

1. センターコンソール収納ボックスを開きます。
2. センターコンソール収納ボックス内の前壁にリモコンキーを置きます。

この場所に置くと車両は有効なリモコンキーの存在を感知でき、車両を始動し、走行することができます。

できるだけ早い機会にリモコンキーの電池を交換してください。「リモコンキーの電池の交換」(6.33 ページ)を参照してください。

車内からドアを開ける - 放電したバッテリー



車内からドアをリリースするには、マニュアルドアリリースストラップリテーナを外し、ストラップを引きます。

ドアラッチが外れると、ドアが少し持ち上がり、外側上方に自動的に回転します。

リリースストラップを取り付けるには、ストラップをホルダー内に入れ、リテーナを元の場所にはめ込みます。

i 注意: このストラップは、バッテリーが放電したとき以外は使用しないでください。

i 注意: 使用後は、マニュアルドアリリースストラップの両方のリテーナがドア開口部の正しい位置に正しく取り付けられていることを確認してください。

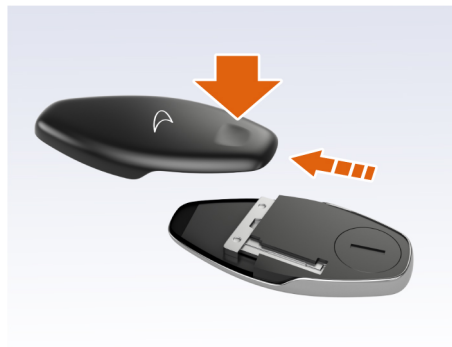
i 注意: リテーナをドア開口部の所定の位置に取り付ける前に、マニュアルドアリリースストラップが完全に巻き取られていることを確認してください。

メンテナンス 手動ロック解除および開放

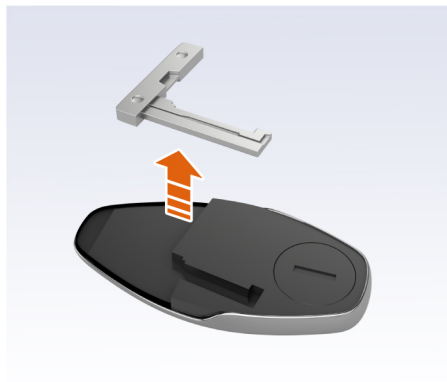
フロントラゲッジルームを開ける - 放電したバッテリー

i 注意: バッテリーが放電してしまった場合、または接続されていない場合、リモコンキーまたはセンターコンソール上の「ラゲッジルーム」ボタンでラゲッジルームを解除できません。その場合はマニュアルリリースメカニズムを使用してください。

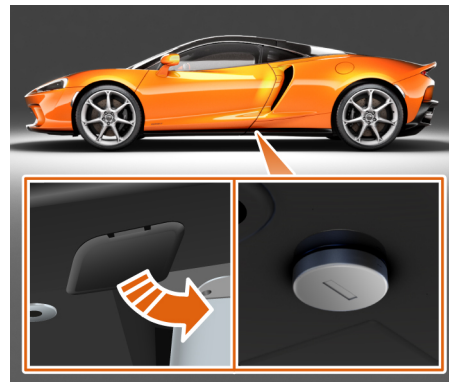
ラゲッジルームを開ける手順



1. 親指でインデントを押してリモコンキーからバックカバーをスライドさせます。



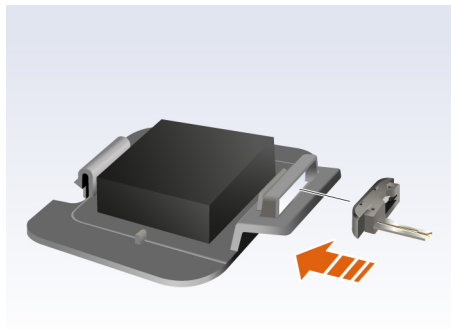
2. 機械式キーをリモコンキーから取り外します。



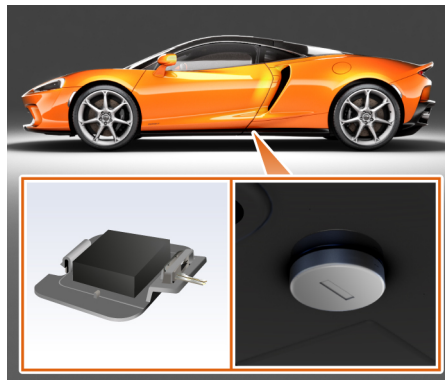
3. 機械式ロックは、ドア下部のシルパネルにある取り外し可能なパネルの下に設置されています。
4. くぼみに指を入れてパネルを外側に引き、パネルを取り外します。

i 注意: パネルは車両に固定されていないので、完全に取り外すことができます。パネルが無理のない状態で格納されていて、機械式キーの使用により損傷するおそれがないことを確認してください。

メンテナンス 手動ロック解除および開放



5. 取り外したパネルのスロットに機械式キーを挿入します。



6. 機械式キーをロックに挿入し、機械的な抵抗によってドアの完全な解除が妨げられている位置までキーを反時計回りに回します。
7. ドアのラッチ部分に圧力をかけ（ドアシールの圧力に対抗するため）、さらにキーを回してドアをリリースします。



注意: 機械式キーを用いて車両のロックを解除すると盗難防止システムが作動し、アラームが鳴ることがあります。ドアが開いたら、センターコンソール収納ボックスを開き、10 秒以内にリモコンキーを収納ボックスの前壁に置きます。車両がリモコンキーを認識し、アラームの鳴動を中止します。



8. 左側ドア開口部のハンドルを押します。
9. ラグジュアリールームのロックが完全に解除され、少し開きます。

メンテナンス 手動ロック解除および開放

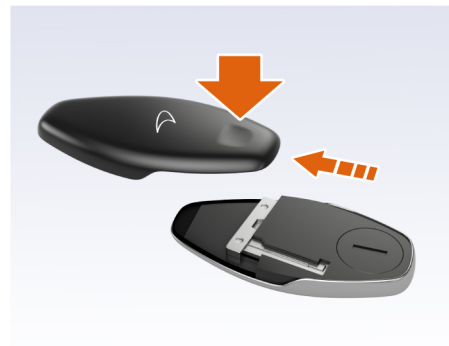


10. ラゲッジルームリッドを持ち上げて、安全ラッチを解除します。
11. ラゲッジルームリッドを開けると、ガストラットにより完全に開いた位置で支持されます。
12. 機械式キーを元通りリモコンキーに取り付けます。
13. リモコンキーの電池が放電している場合は、できるだけ早い機会にバッテリーを交換してください（「リモコンキーの電池の交換」(6.33 ページ)を参照）。

リアラゲッジルームを開ける - 放電したバッテリー

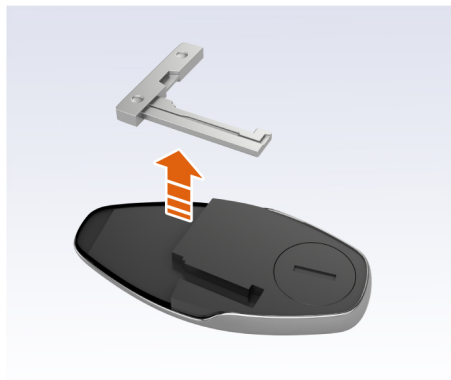
- i** 注意: バッテリーが放電してしまった場合、または接続されていない場合、リモコンキーまたはセンターコンソール上の「ラゲッジルーム」ボタンでラゲッジルームを解除できません。その場合はマニュアルリリースメカニズムを使用してください。
- i** 注意: テールゲートを手動で開くには、車両を持ち上げ、リアホイールアーチライナからファスナを取り外し、ホイールアーチライナを動かしてロックにアクセスする必要があります。
あるいは、フロントラゲッジルームのバッテリーを充電します。「フロントラゲッジルームを開ける - 放電したバッテリー」(6.28 ページ)および「バッテリーの充電」(6.13 ページ)を参照してください。これにより、ダッシュボードのボタンを使用してテールゲートを開くことができます。

ラゲッジルームを開ける手順

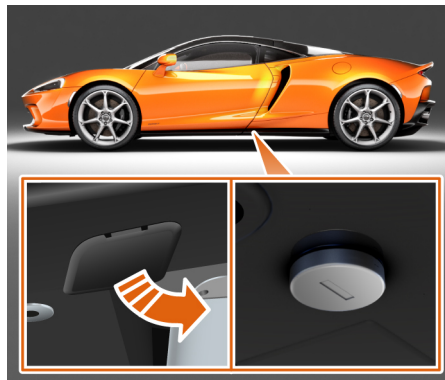


1. 親指でインデントを押してリモコンキーからバックカバーをスライドさせます。

メンテナンス 手動ロック解除および開放

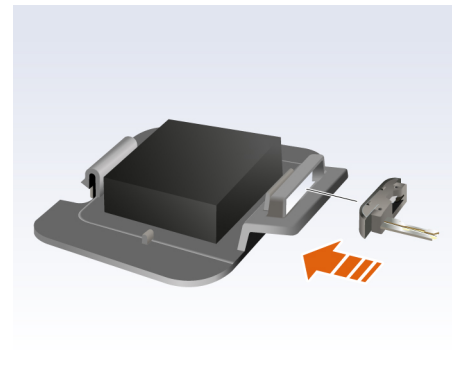


2. 機械式キーをリモコンキーから取り外します。



3. 機械式ロックは、ドア下部のシルパネルにある取り外し可能なパネルの下に設置されています。
4. くぼみに指を入れてパネルを外側に引き、パネルを取り外します。

i 注意: パネルは車両に固定されていないので、完全に取り外すことができます。パネルが無理のない状態で格納されていて、機械式キーの使用により損傷するおそれがないことを確認してください。



5. 取り外したパネルのスロットに機械式キーを挿入します。

メンテナンス 手動ロック解除および開放



6. 機械式キーをロックに挿入し、機械的な抵抗によってドアの完全な解除が妨げられている位置までキーを反時計回りに回します。
7. ドアのラッチ部分に圧力をかけ（ドアシールの圧力に対抗するため）、さらにキーを回してドアをリリースします。

i 注意: 機械式キーを用いて車両のロックを解除すると盗難防止システムが作動し、アラームが鳴ることがあります。ドアが開いたら、センターコンソール収納ボックスを開き、10 秒以内にリモコンキーを収納ボックスの前壁に置きます。車両がリモコンキーを認識し、アラームの鳴動を中止します。

8. 車両を持ち上げて支えます。
9. ファスナをリアホイールアーチライナから取り外します。
10. リアホイールアーチライナの後端を慎重に引き戻し、ロックにアクセスします。



11. 機械式キーをロックに挿入して、キーを反時計回りに回してリアテールゲートを解除します。
12. テールゲートを開けると、ガストラットにより完全に開いた位置で支持されます。
13. 機械式キーを元通りリモコンキーに取り付けます。
14. ホイールアーチライナを取り付けます。

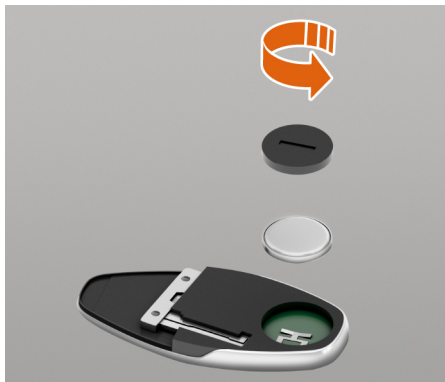
15. リモコンキーの電池が放電している場合は、できるだけ早い機会にバッテリーを交換してください（「リモコンキーの電池の交換」(6.33 ページ) を参照）。

メンテナンス 手動ロック解除および開放

リモコンキーの電池の交換



1. 親指でインデントを押してリモコンキーからバックカバーをスライドさせます。



2. バッテリーカバーのネジを外し、放電したバッテリーを取り出します。
3. 極性が正しいことを確認し、新しいバッテリーを取り付けます。

i 注意: 電池にはできるだけ触れないでください。指の水分と油分によって電池の寿命が縮んだり、接点が腐食したりするおそれがあります。電池を持つ場合は、端のみを持ってください。

4. しっかりと密封されていることを確認して、バッテリーカバーを取り付けます。
5. リモコンキーにバックカバーを取り付けます。

メンテナンス ウォッシャーとワイパー

ワイパーブレードの交換

⚠ 警告: ワイパーブレードを交換する際は、イグニッションスイッチがオフになっていることを確認してください。フロントウィンドウワイパーが作動した場合、負傷するおそれがあります。

⚠ 警告: ワイパーブレードは 12 か月ごとに交換してください。そうしないと、フロントウィンドウを十分に拭き取ることができなくなります。その結果、道路や交通状況が十分に把握できず、事故につながるおそれがあります。

ワイパーブレードの停止

1. 「STOP/START (始動/停止)」ボタンを 1 回押してイグニッションをオンにします。ブレーキペダルは踏まないでください。
2. ワイパーコントロールストークを手前に 2 回引くと、ワイパーは冬季用停止位置に移動し、その後サービス停止位置に向かいます。

冬季用停止位置では、ワイパーアームが垂直になり、水はけを良くして雪が積もらないようにします。

サービス停止位置では、ワイパーアームがワイパーブレードの交換に便利な位置になります。

メインワイパーブレードの取り外し方



1. ワイパーブレードをフロントウィンドウのサービス停止位置に合わせます。「ワイパーブレードの停止」(6.34 ページ)を参照してください。
2. ウィンドウからメインワイパーアームを持ち上げます。
3. ワイパーブレードを 90 度回転させ、矢印の方向に取り外します。

i 注意: ワイパーアームをフロントウィンドウから上げているときは、決してラゲッジルームリッドを開けないでください。ラゲッジルームリッドやワイパーアームを損傷するおそれがあります。

i 注意: ワイパーブレードを装着せずにワイパーアームをフロントウィンドウに下ろさないでください。

新しいメインワイパーブレードの取り付け方

1. ワイパーアームにワイパーブレードをスライドさせ、90 度回転させます。
- i 注意:** ワイパーブレードが確実にワイパーアームに装着されていることを確認します。
2. ワイパーアームをフロントウィンドウに下ろします。
3. ワイパーコントロールストークを手前に 1 回引くと、ワイパーは通常の停止位置に戻ります。

メンテナンス ウォッシャーとワイパー

スモールワイパーブレードの取り外し方



1. ワイパーブレードをフロントウィンドウのサービス停止位置に合わせます。「ワイパーブレードの停止」(6.34ページ)を参照してください。
2. ウィンドウからスモールワイパーアームを持ち上げます。
3. ワイパーブレードクリップを押し下げて、アームから引き抜きます。

i 注意: ワイパーアームをフロントウィンドウから上げているときは、決してラゲッジルームリッドを開けないでください。ラゲッジルームリッドやワイパーアームを損傷するおそれがあります。

i 注意: ワイパーブレードを装着せずにワイパーアームをフロントウィンドウに下ろさないでください。

新しいスモールワイパーブレードの取り付け方

1. ワイパーブレードをワイパーアームにスライドさせ、クリップがアームとかみ合ったことを確認します。

i 注意: ワイパーブレードが確実にワイパーアームに装着されていることを確認します。

2. ワイパーアームをフロントウィンドウに下ろします。
3. ワイパーコントロールストークを手前に1回引くと、ワイパーは通常の停止位置に戻ります。

メンテナンス ホイールとタイヤ

ホイールとタイヤ

⚠ 警告: すり減ったタイヤはアクスルごとに一对で交換し、タイヤが指定通りに取り付けられていることを確認してください。すり減ったタイヤで走行すると、特に高速走行時に車両の安定性に悪影響が生じます。新しいタイヤを装着した場合は、運転スタイルに合わせた適切なベディングについて、マクラーレン代理店にご相談ください。

- 新品タイヤの装着後は、高速でのコーナリングやスピードの出し過ぎは避けてください。
- 必ず同一タイプおよびメーカーのホイールとタイヤを装着してください。
- バンクを修理したタイヤは決して使用しないでください。
- 必ず正しいサイズのタイヤを装着してください。
- タイヤは紫外線、極度の高温や低温、高荷重、環境条件の影響により時間とともに劣化します。タイヤは6年ごと、もしくは必要に応じてそれより短い期間で交換することを推奨します。

マクラーレンはPirelli サマータイヤまたはウィンタータイヤを使用することを推奨します（「ホイールおよびタイヤサイズ」(7.07 ページ)を参照）。

これらのタイヤはMcLarenが特別に認定したタイヤであり、車両の安全システムとの組み合わせによって最高のパフォーマンスを最大限に提供します。

McLarenは他のタイヤおよびホイールの使用によって生じた損傷については責任を負いません。ホイールおよびタイヤに関する詳しい情報は、マクラーレン代理店から入手できます。

⚠ 警告: McLarenの推奨タイヤ以外を使用した場合、タイヤが車体に接触して、ハンドリングに悪影響が生じる可能性があります。その結果、車両をコントロールできなくなり、死亡または重傷を負う可能性があります。騒音レベルおよび燃費にも悪影響が生じる可能性があります。さらに、荷物を積載した場合、またはスノートラクションデバイスを使用した場合、走行中にそれが車体やアクスルコンポーネントに接触する可能性があります。その結果、タイヤもしくは車両が損傷するおそれがあります。

i 注意: 更正タイヤは決して使用してはなりません。中古タイヤは以前の使用状況に関する情報がない限り装着しないでください。

i 注意: ブレーキシステムおよびホイールの改造は認められていません。スペーサープレートやブレーキダストシールドの使用についても同様です。こうした改造を行った場合は、改造箇所に関する車両保証は無効となります。

i 注意: ホイールの交換は、必ずマクラーレン代理店で行ってください。不適切にジャッキアップした場合、車両を損傷するおそれがあります。

i 注意: タイヤは涼しく乾燥した、できれば光の当たらない場所に保管してください。タイヤにオイル、グリス、ガソリンが付着しないように保護してください。

タイヤのマーク



1. ミリメートル単位のタイヤの幅。
2. タイヤ幅のパーセンテージで示されたタイヤの扁平率。
3. ラジアルタイヤであることを示します。

メンテナンス ホイールとタイヤ

4. ホイールリムの直径をインチで示します。
5. 数字はロードインデックスを、文字は速度規格を示します。91は615kg (1,350ポンド)を示し、Yは300 km/h (186 mph)以上の速度を示します。
6. タイヤの最大耐荷重を示します。
7. トレッド摩耗等級番号。数字が大きいほどタイヤの耐久性が高いことを示します。
8. 英字は耐熱規格を示します。「A」規格タイヤの耐熱性は最高です。
9. タイヤの製造に関する情報。製造場所と製造日を表示しています。

タイヤ

⚠ 警告: タイヤはタイヤウォールの標示に従って取り付けてください。ホイールに装着する際、タイヤ外縁の「OUTSIDE」の文字が外側に表示されるようにしなければなりません。そうしないと、特に高速走行時に車両の走行安定性が損なわれます。

非対称タイヤ



非対称タイヤはトレッドの片側が反対側とは違うパターンになっています。このトレッドの組み合わせによって、濡れた路面と乾燥した路面のどちらでも高いグリップ性能を発揮します。

外側のトレッドはより大きく固いトレッドパターンとなっており、高いコーナリング安定性を実現します。内側のトレッドパターンは濡れた路面での安定性を高めます。タイヤの一部の溝は直進安定性に寄与します。

⚠ 警告: 本車両にはマクラーレン推奨タイヤ以外は装着しないでください。

⚠ 警告: タイヤはタイヤウォールの標示に従って取り付けてください。非対称タイヤのメリットを得るためには、タイヤを正しく装着してください。

ホイールとタイヤの点検

少なくとも7日ごとにタイヤに切れ目、パンク、亀裂、瘤、変形、ひび割れなどがないか確認してください。ホイールに著しい腐食がないか確認してください。ホイールが損傷していると空気圧低下の原因になります。

定期的にタイヤトレッドの深さとタイヤ全体のトレッドの状態を点検してください。ハンドルをいっぱいに切り、内側のトレッドまで点検してください。



メンテナンス ホイールとタイヤ

トレッドが1.6 mm まで摩耗すると、トレッドパターンの表面にスリップマークが現れ、タイヤ幅に渡ってゴムの帯ができます。スリップマークが現れたときはすぐに、（あるいは法によりこれより深いトレッドが必要な場合はその前に）タイヤを交換してください。

注意: タイヤは必ずマクラーレン代理店で交換することを推奨します。各ホイールには、タイヤバルブに接続されたタイヤ圧力センサーが装着されています。センサーの損傷を防止するために、正しい手順でタイヤを交換する必要があります。

警告: 濡れた路面や凍結路では、特にトレッドの深さが最低限に近いときはタイヤのグリップが急激に低下します。タイヤグリップの低下のため車両のコントロールを失い、事故に至るおそれがあります。速度を落とし、いつも以上に注意深く運転してください。

注意: タイヤの摩耗がタイヤ全体で偏りがある場合や異常に摩耗している場合は、ホイールアライメントを検査する必要があります。

すべてのタイヤの空気圧を定期的に点検し、必要に応じて調整してください。「タイヤ空気圧」(7.09 ページ)を参照してください。

バルブを泥や水分から守るために、すべてのホイールにバルブキャップを装着する必要があります。

走行時の注意事項

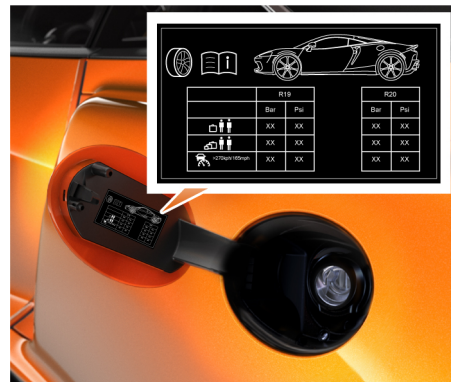
車両を駐車する際には、タイヤが縁石や他の障害物に触れていないことを確認してください。縁石や減速ブロック、窪みを乗り越える必要がある場合は減速し、浅い角度で障害物に接近してください。そうしないと、タイヤを損傷するおそれがあります。

走行中は振動、異音、ハンドルが取られるなどの異常がないか注意してください。もしそのような異常がある場合は、タイヤもしくはホイールが損傷している可能性があります。異常を感じた場合は、安全に速やかに減速して停車し、タイヤやホイールが損傷していないか点検してください。損傷が見られない場合でも、マクラーレン代理店に点検を依頼してください。

タイヤ空気圧

警告: タイヤ空気圧が高過ぎたり低過ぎたりすると車両のアクティブセーフティに悪影響が生じ、事故につながるおそれがあります。すべてのタイヤの空気圧を高い頻度で、特に長距離ドライブに出かける際などに点検し、必要に応じて調整してください。

警告: タイヤの空気圧が繰り返し低下する場合は、タイヤに異物やパンクの兆候がないか、バルブにエア漏れがないか点検してください。



異なる運転条件でのタイヤの空気圧については、「タイヤ空気圧」(7.09 ページ)を参照してください。空気圧は燃料フィルターフラップに貼付されているラベルにも記載されています。

高速走行する際は必ずタイヤの空気圧を点検し、必要に応じて調整する必要があります。

注意: 一部の市場では、タイヤ空気圧ラベルは運転席側ドア下部に貼付されていません。

注意: 低負荷走行用に指定されているタイヤ空気圧は、最適な乗り心地が得られるように最低限の値となっています。負荷が大きいつきは空気圧を上げても車両の走行に悪影響を与えることはありませんが、乗り心地は悪くなります。

メンテナンス ホイールとタイヤ

空気圧の点検はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤが暖まっているときに点検する必要がある場合は、より高い空気圧が必要です。タイヤが暖まっているときに、タイヤが冷えた状態のときの推奨空気圧に合わせてタイヤの空気を抜かないでください。

タイヤの空気圧が高過ぎたり低過ぎたりすると以下の不具合が生じるおそれがあります:

- タイヤが破損し、死傷事故につながる。
- タイヤの寿命が縮まる。
- タイヤの損傷が増大する。
- ハンドリング特性に悪影響が生じる（ハイドロプレーニング現象などが起こる）。



環境: 少なくとも週に 1 回はタイヤ空気圧を点検してください。

ホイールの相互交換



警告: McLaren 車に代替として装着できるのは、ウィンタータイヤを装着した認定ホイールのみです。

タイヤがパンクした場合

マクラーレン車はラゲッジルームにタイヤシーラントのコンテナを備えています。

パンクの際は以下の手順に従ってご自身、他の乗員および他の通行者の安全を確保してください。

パンクの修理

1. 他の交通からできる限り離れた、固く水平な場所に車両を停止します。
2. 高速道路の場合はハザード警告灯を点灯してください。「ハザード警告灯」(1.38 ページ)を参照してください。
3. パーキングブレーキをかけ、ニュートラルを選択します。
4. 乗員は安全に注意しながら車両を降り、車両や他の交通から離れた安全な場所に待避する必要があります。
5. 車両から適切な距離に三角表示板を設置し、他の交通に故障車の存在を警告します。「三角表示板」(6.10 ページ)を参照してください。

タイヤシーラントの使用法



タイヤシーラントは、特にタイヤトレッドの小さなパンクを密閉するために使用することができます。タイヤシーラントは気温が最低 -20 °C (-4 °F) 以上のときに使用できます。



警告: タイヤシーラントは次のようなパンクに使用することはできません。

- タイヤに 4 mm 以上の切れ目や刺し傷がある場合
- ホイールリムが損傷している場合
- タイヤの空気圧が低過ぎる状態やパンクした状態で走行した場合

直ちにマクラーレン代理店にご相談ください。

メンテナンス ホイールとタイヤ

ラゲッジルームからタイヤシーラントを取り出し、容器に記載されている説明に従ってください。

 **注意:** 可能であればパンクの原因を突き止め、シーラントの効果を高めるためにパンクした箇所が一番下の位置になるようにホイールを配置してください。

パンクしたタイヤは速やかに交換を依頼してください。

 **警告:** パンクしたタイヤは交換を依頼してください。McLaren はパンクしたタイヤの修理は推奨しません。

 **警告:** タイヤシーラントが目や皮膚に付いた場合はただちにきれいな水で完全に洗い流し、タイヤシーラントが付着した衣服は交換してください。アレルギー反応が出た場合はただちに医師の診察を受けてください。

 **警告:** タイヤシーラントはお子様の手の届かない場所に保管してください。タイヤシーラントを誤飲した場合はただちに口を十分にすすぎ、大量の水を飲んでください。無理に吐こうとしないでください。ただちに医師の診察を受けてください。タイヤシーラントの蒸気を吸い込まないでください。

 **注意:** タイヤシーラントを使用した場合、タイヤ空気圧モニタリングシステムが組み込まれたタイヤバルブは交換する必要があります。

メンテナンス 車両のお手入れ

McLaren 車の洗車

 環境: 一部の洗剤には環境に有害な化学物質が含まれています。フルードをこぼさないように常に注意し、必要以上には使用しないでください。

手洗いによる洗車

1. はじめにホースパイプを用いて浅い角度でボディ全体に水をかけ、泥などを浮かせてから、塗装面を濡らして洗車の準備をします。エンジンカバーベントには直接水をかけないでください。
2. バケツ一杯のお湯と良質のカーシャンプーを用意します。希釈率はシャンプーメーカーの説明書を参照してください。
3. 車両の上から下に、できればスポンジではなくウールの洗車ミットを使用して洗車します。特に泥がたまりやすい場所に注意し、多量の水を使用して洗います。車両の上部（ルーフ、ラゲッジルームおよびホイールアーチラインより上の部分）に1つの洗車ミット、ホイールアーチラインより下の部分に別のミットを使用してください。

 注意: これらの洗車ミットでホイールを洗わないでください。

 注意: シャンプーを乾燥させないでください。塗装面に色むらが生じる原因になります。

4. タールスポットやしつこいグリスの付着は、揮発油もしくは変性アルコールを使用すると取り除くことができます。取り除くことができたらずちに石けん水で洗い、すべての揮発油またはアルコールを取り除いてください。
5. 車両のクリーニングが終わったら、上部から下に向かってホースパイプにより浅い角度で完全にすすいでください。エンジンカバーベントには直接水をかけないでください。
6. セーム皮または乾燥用タオルを用いて車両を乾かします。

 注意: エンジンベイに水が残っていると思われる場合は、車両を運転して動作温度までエンジンを暖めて、エンジンに残った水分を乾燥させることをお勧めします。

ホイールの洗浄

 注意: ホイールは頻繁に洗浄してください。ブレーキダストがホイールリムの塗膜に深く染み込まないようにしてください。

お湯、良質のカーシャンプーおよびホイールブラシまたはホイール専用の洗浄用ミットを使用してホイールを洗浄します。無塗装仕上げのホイールには、ホイールをきれいに保つためにつや出しを行います。

 注意: 塗装仕上げのホイールには決してつや出しを行わないでください。つや出しを行うと、ホイールの表面に光沢のある部分とない部分の斑模様が生じてしまいます。

 注意: 酸ベースのホイールクリーナーはホイールリムの仕上げを損傷し、腐食の原因になるため使用しないでください。

 注意: ホイールのクリーニングを行った後、車両を車庫に入れる前に、ブレーキが完全に乾いていることを確認してください。

ワイパーブレードとラバーシール

ワイパーブレードやラバーシールは、お湯と良質のカーシャンプーのみでクリーニングします。石油系またはアルコールベースのクリーナーは使用しないでください。

フロントウィンドウ、ウィンドウ、ミラー

すべてのウィンドウの内外面を、ウィンドウ用洗浄液を用いて定期的にクリーニングしてください。自動車用ガラスクリーナーを推奨します。ワックスを含有するカーシャンプーで車両を洗車した後は、フロントウィンドウ外面をガラスクリーナーでクリーニングしてください。研磨剤入りクリーニングコンパウンドは使用しないでください。ミラーガラスは特に傷つきやすくなっています。

メンテナンス 車両のお手入れ

アンダーボディのクリーニング

冬季に道路の融雪や凍結防止に使われる塩分は車両のアンダーボディに蓄積します。これを放置すると腐食が発生します。冬季は特にホイールアーチや泥がたまりやすい場所に注意しながら、ホースを用いてアンダーボディを定期的に水洗いしてください。

つや出し

ときどき、良質のつや出し剤を用いて塗装のつや出しを行い、その後に保護用ワックスをかけてください。

i 注意: カッティングコンパウンド、カラー再生剤、強力な研磨剤を含むつや出し剤は使用しないでください。これらの製品は塗装に傷をつけ、回復不可能な損傷を与えるおそれがあります。

塗装の損傷と修正

塗装に損傷がないか、定期的に点検してください。跳ね石による傷や深い擦り傷は速やかに修理する必要があります。詳細については、マクラーレン代理店にお問い合わせください。

インテリアのクリーニング

i 注意: マクラーレン代理店は、お客様の車両のインテリアクリーニングに合った製品を推奨できます。

カーペットとファブリック

シート表皮をクリーニングする場合は、必ず事前に目立たない場所で洗浄液のテストをしてください。希釈した表皮クリーナーと清浄な布でクリーニングします。

レザー

レザーをクリーニングする場合は、必ず事前に目立たない場所で洗浄液のテストをしてください。お湯と天然石けんまたは専売特許のレザークリーナーを用いてクリーニングしてください。乾いた、清浄なリントフリークロスで乾燥させます。研磨剤入りのクリーニング剤やつや出し剤は使用しないでください。

ダッシュボードの表面はつや出しをしないでください。つや出しを行った表面は光を反射し、ドライバーの視界を遮るおそれがあります。希釈した表皮クリーナーでクリーニングした後、固く絞った布で拭きます。

カーボンファイバー

カーボンファイバー部分をクリーニングする場合は、必ず事前に目立たない場所で洗浄液のテストをしてください。適切なつや消しダッシュボードクリーナーでクリーニングしてください。詳細については、マクラーレン代理店にお問い合わせください。研磨剤入りのクリーニング剤やつや出し剤は使用しないでください。

Alcantara®

注意して埃を払います。柔らかい布またはスポンジを水で湿らせ、完全に水を絞り、Alcantara® 素材全体を拭きます。湿らせ過ぎないように注意してください。布またはスポンジをすすぎ、必要に応じて繰り返し拭きます。

一晩放置して素材を乾かします。

素材が乾いたら、元の風合いになるように柔らかい短毛ブラシで軽くブラッシングします。

シートベルト

ベルトを伸ばし、お湯に溶かした石けん水のみでクリーニングします。合成洗剤や化学洗浄剤は種類にかかわらず使用しないでください。ベルトを伸ばしたまま、できれば直射日光を避けて自然乾燥させます。

メンテナンス 車両のお手入れ

インストルメントとディスプレイ画面

湿った布でドライバーディスプレイとセンターインフォテイメントタッチスクリーンを掃除します。研磨剤入りのクリーニング剤やつや出し剤は使用しないでください。

車両カバー

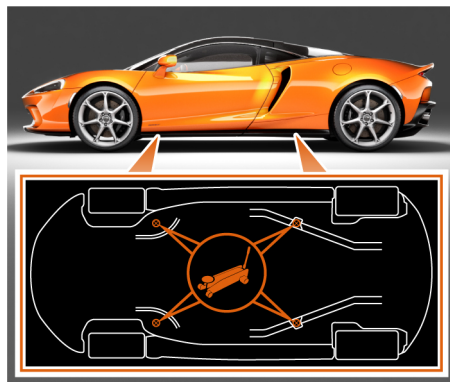
マクラーレン代理店では、ガレージ内での使用に適した車両カバーを販売しています。

マクラーレンでは、車両を2週間以上使用しない場合、カバーをかけておくことを推奨しています。カバーをかける前に車両の内外を清掃し、十分に乾かしてください。

 **注意:** カバーは車両が十分に冷えてからかけてください。高温になったエキゾーストパイプによりカバーが損傷するおそれがあります。

メンテナンス 車両のリフト

車両のリフトポイント



警告: 車両を作業が可能な高さまでリフトする前に、車両がジャッキまたは車両リフトの上に正しく配置されていることを確認してください。車両の下で作業する場合は必ず車両リフト安全ロックをかけるか、適切なスタンドを使用して安全を確保してください。

正しいリフト位置は図と車両に貼付されているラベルを参照してください。

お客様のMcLarenの回収に関係する第三者にこの情報を提供してください。

i 注意: これ以外の場所で車両をリフトした場合、車両が損傷します。

i 注意: ジャッキを使用する場合は、平らなリフト用プラットフォームとシャシー表面の損傷を防止するラバーパッドとともに使用してください。ボディパネルの下はリフトしないでください。

メンテナンス McLaren アシスタンス

McLaren アシスタンス

お客様のマクラーレンが動かなくなった場合は、ご自分で解決しようとししないでください。サービスおよび保証ガイドを参照してください。必要なすべての情報が記載されています。

交換用バッテリー

お客様のマクラーレンが車両バッテリーの不具合で動かなくなった場合、正しい仕様のリチウムイオンバッテリーと交換する必要があります。

故障時

車両が故障した場合は、マクラーレン代理店にご連絡ください。近くにマクラーレン代理店がない場合は、年中無休、24時間対応のロードサイドアシスタンス業者にご連絡ください。

 **注意:** ロードサイドアシスタンス業者の詳しい連絡先は、サービスおよび保証ガイドに記載されています。

マクラーレン代理店またはロードサイドアシスタンス業者は、お客様およびお客様の車両IDを確認して、お客様の正確な現在地を判断します。

その後に、お客様と問題について話し合い、お客様の承諾のもとで最良の解決策を決定します。

メンテナンス McLaren アシスタンス

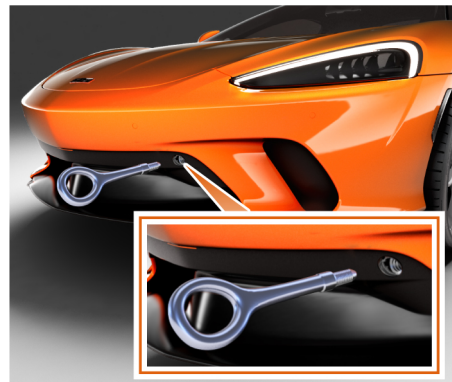
回収のためのけん引

お客様のマクラーレンは、フロントけん引フックマウントのみが装備されています。

- i** 注意: 車両をけん引しないでください。けん引した場合、ギアボックスを損傷するおそれがあります。けん引フックは回収の目的で車両をトレーラーまたは輸送車に積載する場合以外には使用してはなりません。リジッドバーを使用して車両をけん引してはなりません。

けん引フックとマウント

1. フロントバンパー内のけん引フックマウントのカバーを取り外します。



2. けん引フックを時計方向に回し、ねじ山の根元まで完全にマウントホールに取り付けます。
 - i** 注意: けん引フックと車両の損傷を防止するために、けん引フックがフロント構造の対応する構造に完全に密着したことを確認することが重要です。
 - i** 注意: ウィンチケーブル/ストラップはけん引フック以外の場所に固定してはなりません。車両が損傷するおそれがあります。
3. 車両を回収したらすぐにけん引フックを取り外してラゲッジルームに収納し、けん引フックマウントにカバーを取り付けます。

メンテナンス 海外での走行

海外での走行

マクラーレン代理店は、海外を旅行する際にもご利用いただけます。

海外で走行する際の法的要件は国によって異なり、また常に変動しています。旅行先の国の法律に準拠するためには何が必要となるか、必ずマクラーレン代理店にお問い合わせください。

一部の国では低オクタン燃料以外は入手できません。燃料グレードについての詳細は、「推奨燃料」(2.42 ページ)を参照してください。

i 注意:ヘッドランプの非対称ロービームは、路肩に近い側を明るく照らすように設計されています。お客様のマクラーレンは、道路の左側または右側のどちらを走行しても同一のロービームヘッドランプ設定が適用されます。

車両データおよび用語集

純正マクラーレン部品およびアクセサリー.....	7.02
概要.....	7.02
車両識別.....	7.03
車両識別番号 (VIN)	7.03
データ.....	7.04
概要.....	7.04
車両動作温度.....	7.04
エンジン.....	7.04
各ギアの最大速度.....	7.05
ギアレシオ.....	7.05
車体寸法.....	7.05
車両重量.....	7.07
ホイールおよびタイヤサイズ.....	7.07
旋回半径.....	7.08
タイヤ空気圧.....	7.09
サービス製品、フルードと容量.....	7.10
サービス製品.....	7.10
エンジンオイル.....	7.10
燃料.....	7.11
クーラント.....	7.11
パワーステアリングフルード.....	7.12
ブレーキフルード.....	7.12
フロントウィンドウウォッシャーフルード.....	7.12
技術用語集.....	7.13
技術用語集.....	7.13

車両データおよび用語集

純正マクラーレン部品およびアクセサリー

概要

マクラーレンはマクラーレンの純正交換部品およびアクセサリー以外は使用しないことを推奨します。非純正部品を使用した場合、車両の動作や安全に悪影響を及ぼす可能性があります。McLarenは交換部品およびアクセサリーの信頼性、安全性および適合性をテストしています。McLaren車における非純正部品の使用については、たとえ当該部品が単独では認定品であったとしても、McLarenは責任を負いません。

多くの国では、交換部品およびアクセサリーは、当該製品が法的要件に適合している場合にのみ取り付けることが公式に認められています。McLarenのすべての純正交換部品およびアクセサリーは、これらの要件に適合しています。

McLarenの純正部品およびアクセサリーは、専門技師が部品を取り付けるマクラーレン代理店から入手できます。

アクセサリーを使用する際は、お客様のMcLarenに適合したものであることを確認してください。車両の改造に当たるアクセサリーを使用した場合、車両の保証が無効になることがあります。以下の場合がこれに該当します:

- 保証書で承認されている車種に変更が生じる場合。
- 道路使用者に危険を及ぼす可能性がある場合。

- 車両の排出ガスおよび騒音レベルが悪化する場合。

部品またはアクセサリーを注文する場合は、必ず車両識別番号をお知らせください。「車両識別番号 (VIN) 」 (7.03 ページ)を参照してください。

車両データおよび用語集

車両識別

車両識別番号 (VIN)



車両識別番号はフロントウィンドウの左下隅に記載されています。

また、この番号は右側シート下のボディと運転席側ドア開口部下部のプレートとの間に刻まれており、ドライバーディスプレイの車両情報セクションにも表示されます。「車両識別番号」(3.08 ページ)を参照してください。

VIN プレート



車両識別番号プレートには以下の情報も記載されています:

- 最大許容積載量
- トレーラーを含めた最大許容積載量
- 最大許容フロントアクスル荷重
- 最大許容リアアクスル荷重

車両データおよび用語集

データ

概要

本節にはお客様の車両に関して必要な技術データをすべて記載します。このデータは車両の標準装備に適用されます。したがって、オプション装備を装着した車両ではデータが異なる場合があります。マクラーレン代理店から詳細な情報を入手できます。

車両動作温度

最低動作気温	-20 °C (-4 °F)
最高動作気温	+ 50 °C (+ 122 °F)

i 注意: 最低気温から最高気温までの範囲外で車両を使用した場合、性能が低下することがあります。McLaren は車両を標準温度範囲外で使用した場合、もしくは高地において使用した場合、表示エンジン出力を達成できなかったとしても責任を負いません。

エンジン

エンジン仕様	
定格出力 (kW) @rpm	456 @ 7,500
定格出力 (PS) @rpm	620 @ 7,500
定格トルク (Nm) @rpm	630 @ 3,000 ~ 6,500
定格トルク (lb-ft) @rpm	465 @ 3,000 ~ 6,500
気筒数	8
排気量 (cm ³)	3,994
最大回転数 (rpm)	8,500
パワーウェイトレシオ (PS/トン)	425

車両データおよび用語集

データ

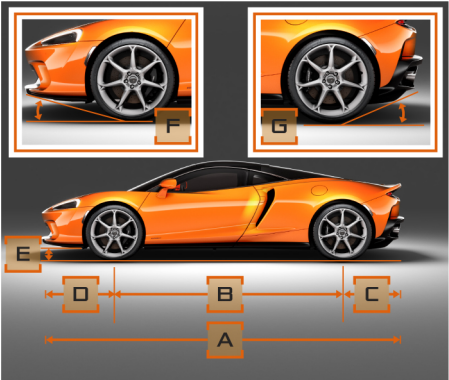
各ギアの最大速度

ギア	mph (km/h)
1 速ギア	50 (80)
2 速ギア	76 (122)
3 速ギア	105 (169)
4 速ギア	136 (218)
5 速ギア	173 (278)
6 速ギア	212 (340)
7 速ギア	197 (317)

ギアレシオ

1 速ギア	3.982:1
2 速ギア	2.612:1
3 速ギア	1.905:1
4 速ギア	1.479:1
5 速ギア	1.160:1
6 速ギア	0.906:1
7 速ギア	0.686:1
ファイナルド ライブ	3.308:1

車体寸法



A	全長	4,683 mm (15 フィート 4 インチ)
B	ホイールベース	2,675 mm (8 フィート 9 インチ)
C	リアオーバーハ ング	907 mm (3 フィート)
D	フロントオーバ ーハング	1,100 mm (3 フィート 7 インチ)

車両データおよび用語集

データ

E	地上高（通常）	110 mm（4 インチ）
	地上高（車両リフト）	131 mm（5 インチ）
F	アプローチアングル（通常）	9.7°
	アプローチアングル（車両リフト）	12.5°
G	脱出角度（通常）	13.9°
	デパーチャーアングル（車両リフト）	13.1°



H	全幅（ドア閉、ミラー折りたたみ）	2,045 mm（9 フィート 6 インチ）
I	全高（ドア閉、通常）	1,213 mm（4 フィート）
	全高（ドア閉、車両リフト）	1,234 mm（5 フィート）



J	全幅（ドア開、最大幅）	3,286 mm（10 フィート 9 インチ）
K	全高（ドア開）	1,977 mm（6 フィート 6 インチ）

 注意: 寸法はすべて近似値です。

車両データおよび用語集

データ

車両重量

重量	Kg (lb)
乾燥重量	1,430 (3,152)
空車重量 (すべてのフルードと90%の燃料)	1,527 (3,366)
車両重量 (+ 75 kg のドライバー)	1,603 (3,534)
車両重量配分- フロントアクスル	684 (1,508)
車両重量配分- リアアクスル	919 (2,026)
最大車両総重量 (GVW)	1,796 (3,959)
最大車両総重量配分 - フロントアクスル	783 (1,726)
最大車両総重量配分 - リアアクスル	1013 (2,232)
最大荷物積載量- フロントラゲッジルーム	50 (110)

最大荷物積載量- リアラゲッジルーム	50 (110)
--------------------	----------

ホイールおよびタイヤサイズ

ホイールサイズ

フロントホイール	8J x 20
リアホイール	10.5J x 21

車両データおよび用語集

データ

サマータイヤ

フロントタイヤ	
- Pirelli P Zero™ (MC)	225/35 ZR20 (90Y)

ウィンタータイヤ

フロントタイヤ	
- Pirelli P Zero™ Winter (MC)	225/35 R20 90W M+S

旋回半径

最小回転直径（タイヤ外縁）	12.1 m（39 フィート 8 インチ）
---------------	-----------------------

リアタイヤ	
- Pirelli P Zero™ (MC)	295/30 ZR21 (102Y)

リアタイヤ	
- Pirelli P Zero™ Winter (MC)	295/30 R21 102W M+S

車両データおよび用語集

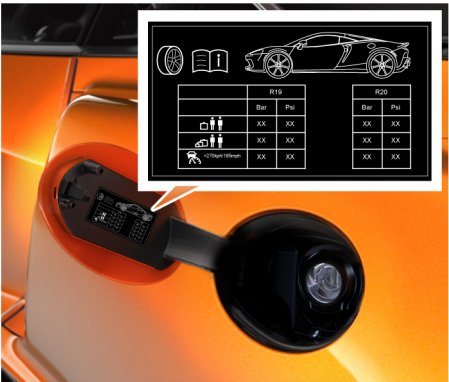
データ

タイヤ空気圧

荷重条件	フロントホイール		リアホイール	
	Bar	Psi	Bar	Psi
通常使用時	2.2	32	2.2	32
270 km/h（165 mph）を超える速度	2.7	39	2.7	39

タイヤ空気圧はフューエルフィラーフラップ内側のラベルにも記載されています。

i 注意: 一部の市場では、タイヤ空気圧ラベルは運転席側ドア開口部下部に貼付されています。



車両データおよび用語集

サービス製品、フルードと容量

サービス製品

サービス製品には燃料、エンジンオイル、クーラント、ブレーキフルードがあります。マクラーレンはテスト済みのマクラーレン用に認定された製品のみを使用を推奨します。未認定サービス製品を使用した結果生じた損害は、材料欠陥に関する保証責任の対象外となります。

警告: サービス製品の取り扱い、保管および処分を行う際は、関連する法規を遵守してください。これを怠った場合、人や環境に危険を生じるおそれがあります。サービス製品が目や傷口に直接触れることがないようにしてください。サービス製品を誤飲した場合はただちに医師の診察を受けてください。

環境: サービス製品は環境に責任ある方法で処分してください。

エンジンオイル



エンジンオイル容量	8.0 リットル
-----------	----------

マクラーレンでは、Gulf Formula Elite 5W-40 (API SP, ACEA C3) の使用を推奨しています。

Gulf Formula Elite は、最先端の完全合成オイルで、堆積物や摩耗からの高度な保護を実現するほか、最新の過給直噴ガソリン (TGDI) エンジンにて起こり得る低速早期着火 (LSPI) からの保護も実現します。

業界標準の試験によると、このオイルを使うと、最大で、

堆積物を 40% 多くコントロールできます¹

摩耗を 37% 減らせます²

煤処理能力を 90% 向上できます³

1 API SP オイルについては、業界標準の試験であるシーケンス IIIH に基づく試験

2 ACEA C3 オイルについては、業界標準の試験である OM646LA 試験

3 ACEA C3 オイルについては、業界標準の試験である DV6C 試験

マクラーレン代理店から詳細な情報を入手できます。

注意: 潤滑油添加剤は使用しないでください。使用すると機械アセンブリの摩耗や損傷を増大させるおそれがあります。未認定添加剤が原因で生じた損害は、McLaren の保証の対象外となります。

車両データおよび用語集

サービス製品、フルードと容量

燃料

 **警告:** 燃料は高い引火性があります。燃料を取り扱う際には火気、裸火、喫煙は厳禁です。
給油の前にエンジンを停止してください。

 **警告:** 燃料が皮膚や衣服に付着しないようにしてください。
燃料が直接皮膚に触れたり、燃料蒸気を吸い込んだりすると健康に害を及ぼすことになります。

燃料に関する詳しい情報は「推奨燃料」(2.42ページ)を参照してください。

燃料タンク

総容量	72 リットル (15.8 UK ガロン)
燃料警告灯アンバー色点灯時の燃料残量	20 リットル (4.4 UK ガロン)
燃料警告灯赤色点灯時の燃料残量	11 リットル (2.4 UK ガロン)

クーラント

クーリングシステムの容量	24.5 リットル (5.4 UK ガロン)
-20°C (-4°F) までの保護用不凍液容量	12.25 リットル (2.7 UK ガロン)

クーラントは水、不凍液、防錆剤の混合液です。クーラントはクーリングシステム内で以下の役割を果たします:

- 凍結防止保護
- クーリングシステムの効率改善
- 腐食防止保護

 **注意:** 季節にかかわらず、一年間を通じてクーラントを使用してください。クーラントを使用しなかった場合、クーリングシステムは腐食に対する十分な保護が得られず、冷却効率が低下します。

 **注意:** エンジンの損傷を防ぐために、目標水準の凍結防止能力を備えた混合済みクーラントを使用してください。

不凍液/防錆剤が正しい濃度で入っていれば、クーラントの沸点は約 130 °C (266 °F) となります。クーリングシステム内の不凍液と防錆剤の濃度は、約 50 % ± 5 % とする必要があります。それによって、クーリングシステムは -40 °C (-40 °F) まで凍結から保護されます。

クーリングシステム内の不凍液と防錆剤の濃度は、-45 °C (-49 °F) まで凍結を防止できる 55 % を超えてはなりません。なぜなら、それ以上の濃度では放熱効果が低下するためです。

車両のクーラントが減っているときは、運転を止め、マクラーレン代理店にご連絡ください。

車両データおよび用語集

サービス製品、フルードと容量

パワーステアリングフルード

必ず Pentosin CHF202 パワーステアリングフルードを使用してください。

ブレーキフルード

必ず Pentosin DoT 5.1 ブレーキフルードを使用してください。

ブレーキフルードは時間とともに空気中の水分を吸収し、その結果沸点が下がります。

 **警告:** ブレーキフルードの沸点が下がり過ぎると、ブレーキを強くかけたとき（長い下り坂やサーキット走行時など）にブレーキシステム内にベーパーポケットができ、ブレーキ効率が低下します。そのため、推奨するサービス間隔でブレーキフルードを交換してください。

 **警告:** 必ず密封された容器に入った新品のブレーキフルードを使用してください。

フロントウィンドウウォッシャーフルード

 **警告:** 一部のウォッシャーフルードは高い引火性があります。ウォッシャーフルードを取り扱う際には、火気、裸火、喫煙は厳禁です。

 **警告:** ウォッシャーフルードは有毒です。容器は密封し、お子様の手の届かない場所に保管してください。フルードを誤飲した場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

リザーバーの容量は約 2.5 リットルです。

ウォッシャーフルードの濃縮液は、ウォッシャーフルードメーカーの指示に従って希釈してください。

 **注意:** 必要なウォッシャーフルードの濃度は、季節によって異なることがあります。

車両データおよび用語集

技術用語集

技術用語集

アクティブダイナミクスコントロール

ドライバーが車両のハンドリング特性やパフォーマンス特性を切り替え可能にするシステムです。

アンチロックブレーキシステム (ABS)

ABSは、ブレーキングによるホイールのロックを防止します。これによって、ブレーキをかけながら車両を操舵することが可能になります。

ドライバー自動認証カード

車両に乗車する人が所持している必要があるカード、または車両が許可無く動かされていることを知らせるトラッカーシステム信号です。

ブレーキアシストシステム

ブレーキアシストシステムは、急ブレーキを踏んだ状況で作動します。急ブレーキを踏むと、ブレーキアシストシステムによりブレーキの踏力が自動的に増大し、停止距離が短縮されます。

ブレーキディスクワイピング

ブレーキディスクワイピングは、フロントウィンドウワイパーのスイッチをオンにすると作動します。パッドがディスクに触れるように瞬間的にブレーキをかけることによって、強雨時にブレーキディスクに水分が付着するのを防止します。

ブレーキステア

ブレーキステアはトルクベクトリングディファレンシャル効果を実現しますが、軽量化と反応速度の改善のためにブレーキシステムに組み込まれています。

コーナリング時に車両がアンダーステアになりつつあることを検知すると、システムはリアの内輪に軽くブレーキをかけます。これによって車両のヨーレートが増大し、車両のアンダーステアに対する抵抗力が増します。横方向のGも増大し、ハンドリング特性が向上します。

ドライバーがコーナーからの立ち上がりでスロットルを開け過ぎると、リアの内輪の速度が増し、ブレーキステアが作動しなければ車両が不安定になるおそれがあります。この状況でも、ブレーキステアが再びリアホイール内側に軽くブレーキをかけることによって、トラクションと走行安定性を回復します。

シリンダーカット

シリンダーカットは、スポーツおよびトラックパワートレインモードのオートマチックアップシフトおよびコンフォートパワートレインモードのマニュアルアップシフトで作動します。

急加速時にシフトアップが必要なときに、指定された数のエンジンシリンダーで燃料供給が中断（カット）されます。こうすることで、エンジントルクおよびエンジン回転数が急速に減少して、よりすばやくアップシフトを達成できます。この結果、通常のシフトアップより、シフトアップ時の音が明確になります。

電子制御ブレーキ予備充填

アクセルペダルを急に離すと電子制御ブレーキ予備充填機能が即座にブレーキパッドをディスクに接触させ、より素早いブレーキの作動を可能にします。

エレクトロニクススタビリティコントロール (ESC)

ESCは走行安定性と、タイヤと路面間のトラクションを監視します。

グローバルポジショニングシステム (GPS)

適切なレシーバにより、衛星信号から車両の地理的位置情報を取得します。これらの信号をデジタルマップと照合し、車両の位置判定とルート案内に利用します。

ハンドリングコントロール

ハンドリングコントロールスイッチは、プロアクティブシャシーコントロールIIシステムに影響を与えます。

車両データおよび用語集

技術用語集

ヒルホールドコントロール

ヒルホールドコントロールは、坂道発進時に車両が後退するのを防ぎます。アクセルペダルが踏まれるまで、ブレーキシステムが自動的にブレーキをかけます。

イグニッションカット

イグニッションカットは、パワートレインモードでのマニュアルシフトアップ中に動作します。

急加速時にシフトアップが必要なときに、指定された数のエンジンシリンダーでイグニッションが中断（カット）されます。こうすることで、エンジントルクおよびエンジン回転数が急速に減少して、よりすばやくアップシフトを達成できます。

慣性ブッシュ

「Non-Active（ノンアクティブ）」を選択している際、または「Track（トラック）」パワートレインモードで急加速時に、エンジン回転数が高い状態でシフトアップ操作を行うと、慣性ブッシュによって加速力が上がります。通常の走行条件で、最大のパフォーマンスを必要としない慣性ブッシュの範囲外であれば、エンジンとトランスミッションの回転数を合わせてスムーズでシームレスなシフトアップを行います。一方、慣性ブッシュの場合は、次のギアを保持しているクラッチがより強い力でつながり、エンジン回転数が完全には落ちないので、内部回転マスの慣性を利用できます。この場合、ギアがつながるときにトルク衝撃が発生しますが、加速性能が向上し、最大のパフォーマンスが得られます。

キーレスエントリー

キーレスエントリーを使用すると、リモコンキーがドアセンサーから 1.2 m（3 フィート 11 インチ）以内にあれば、ドアを開けるだけでロックを解除し、アラームシステムを停止させることができます。

発進コントロール

発進コントロールは、スタンディングスタート時に最大加速が得られるように設計されています。

高速道路ファンクションライティング

高速道路ファンクションライティングは、車速が事前設定したしきい値を超える場合に、ヘッドランプ照明を強くします。

パーキングセンサー

パーキングセンサーシステムは、フロントバンパー内の 4 個の超音波センサー、リアバンパー内の 4 個の超音波センサー、2 個の音響器で構成されています。運転操作時にパーキングセンサーが障害物を検知すると、音響器が警告音を鳴らします。

ギアシフトモード（PSC）

PSC は音が鳴るシフトインジケーターで、最適な性能を維持するためにシフトアップが必要になると音を鳴らして知らせます。

リアビューカメラ（RVC）

RVC は、リアバンパーの中央に取り付けられています。機能が有効な場合、ライブビデオ映像は、ドライバードisplayまたはセンターインフォテイメントタッチスクリーンに表示されます。

車両データおよび用語集

技術用語集

シームレスシフトギアボックス

シームレスシフトギアボックスは、7速のデュアルクラッチギアボックスです。ギアチェンジをフルオートマチックで行ったり、ドライバーが操作したりすることができます。ギアチェンジはほとんど一瞬で行われます。切れ目の無い加速を提供するエンジンからの連続したトルク供給と組み合わせられています。

スタティックアダプティブヘッドランプ

スタティックアダプティブヘッドランプは、ヘッドランプを点灯しながら旋回するとき、進行方向を強く照らします。

補助拘束装置（SRS）

SRSは、事故の際に自動的に展開して付加的な乗員保護を提供する多数のエアバッグで構成されています。

タイヤ空気圧監視システム（TPMS）

TPMSは常に4本のタイヤの空気圧と温度を監視しています。1本または複数のタイヤの空気圧が下がったり温度が上昇したりすると警告を行います。

車両識別番号（VIN）

VINは一意の17桁の数字で、車両に関する情報や製造日、製造場所を示します。

一般的な VIN = SBM22GCB0KW000001

適合性に関する情報

法令遵守.....8.02

 マクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）8.02

 スマートリモコンキー.....8.03

適合性に関する情報 法令遵守

マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS)

すべての地域/市場

製品:ADI GEN 2.0

モデル:ICU

日本



202 SMH046

D190021202

電波について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として技術基準適合証明を受けています（受けた部品を使用しています）。したがって、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。日本国内のみで使用してください。日本国内以外で使用すると各国の電波法に抵触する可能性があります。また、本機は、電気通信事業法に基づく技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。

- 分解 / 改造すること
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと

●本機は2.4GHz帯の周波数を使用しますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。ほかの無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

使用上のご注意

本機の使用周波数帯（2.4GHz）では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局、並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、当社カスタマーサポートセンターにご連絡頂き、混信回避の処置等についてご相談ください。
3. その他、本機から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して、有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、当社カスタマーサポートセンターへお問い合わせください。

製品に表示している周波数表示の意味は下記の通りです。

- Bluetooth



2.4：2.4GHz 帯を使用する無線機器です。

FH：FH-SS 変調方式を表します。

1：電波干渉距離は10m です。

■ ■ ■ ：全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域回避可能です。

- Wi-Fi



2.4：2.4GHz 帯を使用する無線機器です。

DS/OF：DS-SS、OFDM 変調方式を表します。

4：電波干渉距離は40m です。

■ ■ ■ ：全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域回避可能です。

適合性に関する情報 法令遵守

●使用可能距離は見通し距離約10m（Bluetooth）、約40m（Wi-Fi）です。鉄筋コンクリートや金属の壁等をはさんでトランスミッターとレシーバーを設置すると電波を遮ってしまい、音楽が途切れたり、出なくなったりする場合があります。本機を使用する環境により伝送距離が短くなります。

●下記の電子機器と本機との距離が近いと電波干渉により、正常に動作しない、雑音が発生するなどの不具合が生じることがあります。

- ・ 2.4GHzの周波数帯域を利用する無線LAN、電子レンジ、デジタルコードレス電話などの機器の近く。電波が干渉して音が途切れることがあります。
- ・ ラジオ、テレビ、ビデオ、BS/CSチューナー、VICSなどのアンテナ入力

端子を持つAV機器の近く。音声や映像にノイズがのることがあります。

●本機は電波を使用しているため、第3者が故意または偶然に傍受することが考えられます。重要な通信や人命にかかわる通信には使用しないでください。

スマートリモコンキー

モデル

日本:A-0775G45（315 MHz）

日本

マクラーレンスマートキー認定データ。

日本のみ。



203-JN1037

マクラーレンスマートキー認定情報はリアカバーの中にあります。認定情報へのアクセス方法およびバッテリーの交換に関する詳しい情報は、「マクラーレンスマートリモコンキーの電池交換」（8.03 ページ）を参照してください。

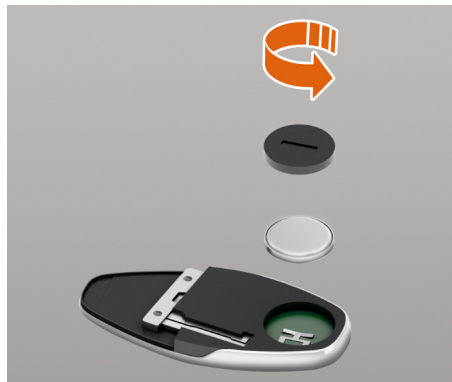
この補足には、バッテリー交換手順およびマクラーレンスマートキーの認定情報が含まれています。必ずオーナーズハンドブックと一緒に保管してください。

マクラーレンスマートリモコンキーの電池交換



1. 親指でインデントを押してリモコンキーからバックカバーをスライドさせます。

適合性に関する情報 法令遵守



2. バッテリーカバーのネジを外し、放電したバッテリーを取り出します。
3. 極性が正しいことを確認し、新しいバッテリーを取り付けます。

i 注意: 電池にはできるだけ触れないでください。指の水分と油分によって電池の寿命が縮んだり、接点が腐食したりするおそれがあります。電池を持つ場合は、端のみを持ってください。

4. しっかりと密封されていることを確認して、バッテリーカバーを取り付けます。
5. リモコンキーにバックカバーを取り付けます。

マクラーレンスマートリモコンキーの廃棄

マクラーレンスマートキーに使用されているコイン電池は、現地政府により廃棄方法（資源のリサイクル、不燃ゴミ、有害ゴミまたは危険ゴミなど）の分類が異なることがあります。そのため、廃棄方法が異なる場合があります。これらの電池を廃棄する際は、お住まいの市区町村における規制に従ってください。

日本

マクラーレンスマートキー承認データ。

日本のみ



203-JN1037

ミクラーレンスマートキーの承認情報は、背面カバーの下にあります。承認情報クハセのストバッテリーの交換の詳細については、「マクラーレンスマートキーのバッテリー交換」のセクションを参照してください。

このサプリメントには、バッテリー交換手順とマクラーレンスマートキーの承認情報が含まれています。オーナーズハンドブックに保管する必要があります。

リモコンキーの電池の交換



1. 親指でインデントを押してリモコンキーからバックカバーをスライドさせます。

適合性に関する情報 法令遵守



マクラーレンスマートキーフォブの処分

McLaren Smart Key Fob 内で使用されるコインセルは、廃棄目的（リサイクル可能な廃棄物、不燃性廃棄物、または有害または有害な廃棄物など）のために、地方自治体ごとに分類される場合があります。このため、廃棄方法も異なる場合があります。これらのバッテリーを廃棄するときは、市または町の規制に従ってください。

2. バッテリーカバーのネジを外し、放電したバッテリーを取り出します。
3. 極性が正しいことを確認し、新しいバッテリーを取り付けます。



注意:注意:電池にはできるだけ触れないでください。指の水分と油分によって電池の寿命が縮んだり、接点が腐食したりするおそれがあります。電池を持つ場合は、端のみを持ってください。

4. しっかりと密封されていることを確認して、バッテリーカバーを取り付けます。
5. リモコンキーにバックカバーを取り付けます。

索引

H

HomeLink.....	4.36
HomeLink.....	4.36
プログラミング.....	4.36
HomeLink.....	4.36
ボタンレベルの編集.....	4.37
HomeLink.....	4.36
概要.....	4.36
HomeLink.....	4.36
設定.....	4.12
HomeLink.....	4.36
操作.....	4.38

M

McLaren アシスタンス.....	6.45
McLaren アシスタンス.....	6.45
故障時.....	6.45

S

SYNC モード - 室内温度制御.....	5.05
------------------------	------

U

USB ソケット.....	5.17
---------------	------

メディア.....	5.17
-----------	------

アクセサリ.....	7.02
アクセルペダル位置.....	2.16
アクティブスピードリミッター.....	2.37
上限速度のキャンセル.....	2.38
速度上限の設定.....	2.37
アクティブダイナミクスパネル.....	2.19
パワートレインコントロール.....	2.21
ハンドリングコントロール.....	2.20
「ACTIVE (アクティブ)」ボタン.....	2.19
発進コントロール.....	2.24
アラーム.....	1.14
パニック.....	1.38
解除.....	1.14
有効化.....	1.14
アンチロックブレーキシステム.....	2.26
イグニッション-スイッチをオンにする.....	2.03
イグニッションのスイッチをオンにする.....	2.03
イモビライザー.....	1.14
インストールメント.....	3.13
エレクトロニクススタビリティコントロール	
モードの表示.....	3.15
オイル温度表示.....	3.15
ギア位置インジケータ.....	3.14
クリーニング.....	6.43
コンフォートモード.....	3.13
シフトライト.....	3.02
スピードメーター.....	3.03
スポーツモード.....	3.13
タコメーター.....	3.02

ディスプレイ.....	3.13
ディスプレイウィンドウ.....	3.13
ドライバーディスプレイの概要.....	2.05
トラックモード.....	3.13
トリップコンピューター.....	3.05
ノンアクティブモード.....	3.13
ハンドリングおよびパワートレインディスプレ	
レイ.....	3.14
メッセージの表示.....	3.09
右側ディスプレイの概要.....	2.06
概要.....	3.02
左側ディスプレイの概要.....	2.05
車両情報.....	3.06
水温表示.....	3.16
到達可能距離表示.....	3.16
燃料残量表示.....	3.16
インストールメントクラスターディスプレイ.....	3.04
インテリアアクセサリ電源ソケット.....	5.16
インテリアミラー.....	1.32
インテリアモーションセンサー.....	1.15
ウィンタータイヤ.....	7.08
ウィンドウ.....	
安全性.....	5.02
開閉.....	5.02
挟み込み防止機能.....	5.03
ウィンドウの曇り取り - クライメートコントロ	
ール.....	5.06
ウィンドウを開ける.....	5.02
ウィンドウを閉じる.....	5.02
ウォッシャーフルード	
フロントウィンドウ.....	6.09, 7.12

索引

エアコンのオン/オフの切り替え.....	5.06	エンジンオイル.....	6.02	オートマチックランプコントロール.....	1.35
エアディストリビューション-クライメートコントロール.....	5.09	レベルの警告.....	6.02	オーナー文書.....	5.16
エアバッグ.....	1.26	温度警告.....	6.04	ガソリンスタンド.....	2.41
サイドヘッドエアバッグ.....	1.27	仕様.....	7.10	カップホルダー.....	5.15
システムの修正.....	1.26	使用状況.....	6.02	カメラ.....	2.13
チャイルドパッセンジャー.....	1.29	点検.....	6.02	リアビュー.....	2.13
フロントエアバッグ.....	1.26	補充.....	6.03	ガレージドアオープナー.....	4.36
交換.....	1.26	容量.....	7.10	プログラミング.....	4.36
乗員分類システム.....	1.27	エンジンオイルの点検.....	6.02	ボタンラベルの編集.....	4.37
正規外着座 (OOP) テスト.....	1.29	エンジンの始動.....	2.08	概要.....	4.36
展開.....	1.28	リモコンキーの電池が切れた場合.....	6.27	設定.....	4.12
エアイベント		エンジンの停止.....	2.09	操作.....	4.38
セントラルダッシュボード.....	5.09	エンジン回転計.....	3.02	ギアシフトインジケーター.....	2.11
ダッシュボード.....	5.09	オイル - エンジン.....	6.02	ギアシフトモード	
エコスタート-ストップシステム.....	2.09	ステータス.....	3.07	設定.....	4.10
エラーメッセージ.....	3.06	レベル.....	6.02	ギアでの速度.....	7.05
エレクトロクロミックルーフ.....	5.13	レベルの警告.....	6.02	ギアボックス.....	2.15
エレクトロニクススタビリティコントロール		温度警告.....	6.04	オイルの補充.....	6.05
.....	2.28	温度表示.....	3.15	ギアシフトパドル.....	2.18
ダイナミックモード.....	2.29	仕様.....	7.10	ギア位置.....	2.15
再開.....	2.30	点検.....	6.02	キックダウン.....	2.16
非アクティブにする.....	2.29	補充.....	6.03	マニュアル/オートマチックモード.....	2.16
エンジン.....	2.08	容量.....	7.10	ギアレシオ.....	7.05
イモビライザー.....	1.14	オイル - ギアボックス.....	6.05	ギア位置.....	2.06
エコスタート-ストップシステム.....	2.09	オドメーター.....	3.06	ギア位置インジケーター.....	3.14
パワー出力.....	7.04	オーディオ		キックダウン.....	2.16
慣らし運転.....	2.39	概要.....	4.31	キット - タイヤリペア.....	6.39
技術データ.....	7.04	オートヒートシート.....	5.09	キット - 救急.....	6.11
警告灯.....	2.11	オートマチックモード - クライメートコントロール.....	5.05	キーレスエントリー.....	1.02
始動.....	2.08	オートマチックモード - トランスミッション		クライメートコントロール.....	5.04
停止.....	2.09		2.16	SYNC モード.....	5.05
				エアコン調節ダイヤル.....	5.04

索引

エアディストリビューション.....	5.09	フック.....	6.12	電動でのバックレストのリクライニング調整.....	1.19
エアベント.....	5.09	けん引防止.....	1.15	電動高さ調節.....	1.19
オン/オフの切り替え.....	5.06	コンフォートエントリー/イグジット		電動前後位置調整.....	1.18
オートヒートシート.....	5.09	設定.....	4.10	電動調整.....	1.18, 1.18
オートマチックモード.....	5.05	サイドヘッドエアバッグ.....	1.27	シートベルト.....	1.24
セントラルエアベント.....	5.09	サイドランプ.....	1.35	テンショナー.....	1.25
ブローア速度.....	5.08	サポートと保証.....	5.16	フォースリミッター.....	1.25
ホット Evac.....	5.05	サマータイヤ.....	7.08	安全性.....	1.24
マニュアルモード.....	5.05	サンバイザー.....	5.16	装着.....	1.25
温度.....	5.07	サーキットでの使用.....	2.40	シートベルトの装着.....	1.25
調節ダイヤル.....	5.04	サーキット走行.....	5	シートベルト警告灯.....	1.25
曇り取り.....	5.06	サービス製品.....	7.10	シート収納ポケット.....	5.14
内気循環モード.....	5.07	システム		シームレスシフトギアボックス.....	2.15
熱線入りミラー.....	5.10	設定.....	4.15	ギアシフトパドル.....	2.18
熱線入りリアウィンドウ.....	5.10	システムコントロール.....	4.02	ギア位置.....	2.15
クリーニング.....	6.41	シフトライト.....	3.02	キックダウン.....	2.16
インストールメントとディスプレイ画面.....	6.43	ジャンプスタート.....	6.14	マニュアル/オートマチックモード.....	2.16
インテリア.....	6.42	シート		シーラント - タイヤ.....	6.11
エクステリア.....	6.41	バックレスト - マニュアルでのリクライニ		スイッチ - 照明.....	1.34
センターディスプレイ.....	6.43	ング調整.....	1.18	ステアリングコラム	
ドライバードisplay.....	6.43	バックレスト - 電動でのリクライニング調整.....	1.19	マニュアル調整.....	1.22
ホイール.....	6.41		1.19	電動調整.....	1.22
クルーズコントロール.....	2.33	ヒーティング.....	1.21, 5.09	ステアリングホイール	
キャンセル.....	2.34	マニュアルでのバックレストのリクライニ		ホーン.....	1.23
設定.....	2.33	ング調整.....	1.18	マニュアル調整.....	1.22
速度の呼び出し.....	2.36	マニュアルでの高さ調整.....	1.18	電動調整.....	1.22
速度を下げる.....	2.35	マニュアル前後位置調整.....	1.17	スノーソックス.....	2.44
速度を上げる.....	2.35	マニュアル調整.....	1.17	スピードメーター.....	3.03
グローブボックス.....	5.13	安全性.....	1.17	セカンダリヒューズボックス.....	6.20
クーラント.....	7.11	収納ポケット.....	5.14	ヒューズ.....	6.20
補充.....	6.05	電動シートおよびミラーメモリー.....	1.19		
けん引.....	6.46	電動シートのランバーサポート調整.....	1.19		

索引

セキュリティ			
設定	4.13		
センサー			
インテリアモーション	1.15		
パーキング	2.12		
センターコンソール収納ボックス	5.13		
センターディスプレイ			
Bluetooth オーディオ	4.28		
HomeLink	4.36, 4.364.37,		
USB および iPod	4.26		
ガレージドアオープナー	4.36, 4.364.37,		
システムコントロール	4.02		
システム設定	4.15		
ストレージ	4.27		
セキュリティ設定	4.13		
デバイスのペアリング/接続	4.18		
ナビゲーションの使用	4.33		
はじめに	4.04		
メディアコントロール	4.25		
ラジオコントロール	4.29		
ラジオデータシステム	4.30		
ラジオの設定	4.12		
安全性	4.33		
運転の好み	4.10		
外部デバイスへの接続	4.26		
概要 - オーディオ	4.31		
概要 - ナビゲーション	4.33		
概要 - メディア	4.24		
概要 - ラジオ	4.29		
概要 - 電話	4.17		
時間と単位の設定	4.06		
室内温度設定	4.12		
照明設定	4.09		
接続設定	4.05		
設定	4.05		
著作権	4.02		
通話の終了	4.22		
通話を受信	4.21		
通話中のオプション	4.22		
電話をかける	4.19		
補足情報	4.02		
目的地の設定	4.34		
連絡先	4.22		
ダイナミック ESC モード	2.29		
ダイナミックヘッドランプ	1.36		
タイヤ	6.37		
ウィンター	7.08		
サマー	7.08		
シーラント	6.11		
マーキング	6.36		
温度監視	2.32		
監視システム	2.31		
空気圧	6.38, 7.09		
空気圧監視	2.31		
検査	6.37		
修理キット	6.39		
非対称	6.37		
タイヤの種類	4.11		
タイヤの点検	6.37		
タイヤ監視	3.07		
タイヤ空気圧	6.38, 7.09		
タコメーター	3.02		
チャイルドシートシステム	1.29		
KISI チャイルドシート機能	1.30		
チャイルドパッセンジャー	1.29		
ディスプレイ	3.13		
インストールメントクラスター	3.04		
エレクトロニクススタビリティコントロール	3.15		
モード	3.15		
オイル温度	3.15		
ギア位置インジケータ	3.14		
コンフォートモード	3.13		
スポーツモード	3.13		
トラックモード	3.13		
トリップコンピューター	3.05		
ノンアクティブモード	3.13		
ハンドリングおよびパワートレインディスプレイ	3.14		
メッセージ	3.09		
車両情報	3.06		
水温	3.16		
到達可能距離 (燃料)	3.16		
燃料残量	3.16		
ディスプレイ画面のクリーニング	6.43		
デフロスト - クライメートコントロール	5.06		
テンショナー - シートベルト	1.25		
データ			
概要	7.04		
ドア			
ロック	1.05		
自動ロック	1.09		
社内から開ける - 放電したバッテリー	6.27		
車外から開ける	1.04		
車外から開ける - 放電したバッテリー	6.25		
車内からロック/ロック解除する	1.07		
車内から開ける	1.07		

索引

車内から手動で開く.....	6.27	目的地の設定.....	4.34	ヒューズボックス	
収納ボックス.....	5.14	ハイビーム.....	1.35	セカンダリ.....	6.20
閉じる.....	1.08	ハザード警告灯.....	1.38	バッテリー.....	6.21
ドアミラーヒーター.....	1.33	はじめに.....	2	メイン.....	6.17
ドアを開ける		概要.....	4.04	ヒルホールドコントロール.....	2.27
車外から.....	1.04	保存データ.....	5	フィラーパイプ - 燃料.....	6.12
車内から.....	1.07	パッセンジャー - チャイルド.....	1.29	フェイルセーフ.....	2.11
ドア収納ボックス.....	5.14	バッテリー.....	6.13	フォースリミッター - シートベルト.....	1.25
ドライバードisplay.....	3.04, 3.13	バッテリーの安全性.....	6.13	フック - けん引.....	6.12
ギア位置インジケータ.....	3.14	バッテリーの状態.....	3.07	フットブレーキ.....	2.08
コンフォートモード.....	3.13	バッテリーの点検と保守		フルード - パワーステアリング.....	7.12
シフトライト.....	3.02	バッテリーの充電.....	6.13, 6.13	補充.....	6.06
スピードメーター.....	3.03	バッテリーヒューズボックス.....	6.21	フルード - ブレーキ.....	7.12
スポーツモード.....	3.13	ヒューズ.....	6.21	補充.....	6.07
タコメーター.....	3.02	パニックアラーム.....	1.38	ブレーキ	
トラックモード.....	3.13	バニティミラー.....	5.16	アンチロックブレーキシステム.....	2.26
トリップコンピューター.....	3.05	バルブの交換.....	6.24	アンチロックブレーキシステム警告灯.....	2.26
ナビゲーション.....	3.08	パワーステアリングフルード.....	7.12	パーキング.....	2.06
ノンアクティブモード.....	3.13	補充.....	6.06	ヒルホールドコントロール.....	2.27
メッセージ.....	3.09	パワートレインコントロール.....	2.21	フット.....	2.08
右側ディスプレイの概要.....	2.05, 2.06	パワー出力.....	7.04	ブレーキアシストシステム.....	2.27
概要.....	2.05, 3.02	エンジン.....	7.04	ブレーキステア.....	2.28
車両情報.....	3.06	パンクリペアキット.....	6.39	ブレーキディスクワイピング.....	2.27
水温.....	3.16	ハンドリングコントロール.....	2.20	ペダル.....	2.08
燃料残量.....	3.16	パーキングセンサー.....	2.12	警告灯.....	2.08
ドライバードisplayの概要.....	2.05	パーキングブレーキ.....	2.06	摺り合わせ.....	2.39
トラクションコントロールシステム.....	2.28	パーキングランプ.....	1.38	電子制御ブレーキ予備充填.....	2.28
ドリンクホルダー.....	5.15	ヒューズ		ブレーキアシストシステム.....	2.27
ナビゲーション.....	3.08	セカンダリヒューズボックス.....	6.20	ブレーキステア.....	2.28
ナビゲーションの使用.....	4.33	バッテリーヒューズボックス.....	6.21	ブレーキディスクワイピング.....	2.27
安全性.....	4.33	メインヒューズボックス.....	6.17	ブレーキフルード.....	7.12
概要.....	4.33	交換.....	6.17	補充.....	6.07

索引

ブレーキペダル.....	2.08	ホイール.....	6.36	概要 - オーディオ.....	4.31
ブローア-速度 - クライメートコントロール.....	5.08	検査.....	6.37	概要 - ナビゲーション.....	4.33
フロントウィンドウウォッシャーフルード.....	6.09, 7.12	交換.....	6.39	概要 - メディア.....	4.24
フロントウィンドウワイパー.....	1.40	ホイールおよびタイヤサイズ.....	7.07	概要 - ラジオ.....	4.29
ウォッシャー/ワイパー.....	1.41	ホイールサイズ.....	7.07	概要 - 電話.....	4.17
ワイパーブレードの交換.....	6.34	ホイール - ステアリング.....		時間と単位の設定.....	4.06
ワイパーモード.....	4.11	マニュアル調整.....	1.22	室内温度設定.....	4.12
ワイパー感度.....	4.11	電動調整.....	1.22	照明設定.....	4.09
一回拭き取り.....	1.40	ホイールとタイヤ.....	6.36	接続設定.....	4.05
雨滴センサー.....	1.40	ホイールの交換.....	6.39	設定.....	4.05
フロントエアバッグ.....	1.26	ホイールの相互交換.....	6.39	著作権.....	4.02
フロントラゲッジルーム.....	1.09	ホイールの点検.....	6.37	通話の終了.....	4.22
ロック解除および開操作.....	1.09	ホット Evac - 室内温度制御.....	5.05	通話を受信.....	4.21
開ける - バッテリーが放電した場合.....	6.28	ポリュメトリックアラーム.....	1.15	通話中のオプション.....	4.22
手動で開ける.....	6.28	ホーン.....	1.23	電話をかける.....	4.19
装備.....	6.10	マクラーレンインフォテイメントシステム.....		補足情報.....	4.02
フロントラゲッジルームのロック解除および開操作.....	1.09	Bluetooth オーディオ.....	4.28	目的地の設定.....	4.34
プーストスタート.....	6.14	USB および iPod.....	4.26	連絡先.....	4.22
ヘッドランプ.....	1.35	システムコントロール.....	4.02	マニュアルシート.....	1.17
ダイナミックヘッドランプ.....	1.36	システム設定.....	4.15	バックレストのリクライニング調整.....	1.18
ハイビーム.....	1.35	ストレージ.....	4.27	高さ調整.....	1.18
パッシング.....	1.35	セキュリティ設定.....	4.13	前後位置調整.....	1.17
ベルト - シート.....	1.24	デバイスのペアリング/接続.....	4.18	マニュアルモード - トランスミッション.....	2.16
ベント.....		ナビゲーションの使用.....	4.33	マニュアルモード - 室内温度制御.....	5.05
セントラルダッシュボード.....	5.09	はじめに.....	4.04	マニュアルロック解除.....	6.25
ダッシュボード.....	5.09	メディアコントロール.....	4.25	ミスロック.....	1.06
ベントの開閉.....		ラジオコントロール.....	4.29	ミラー.....	
セントラルダッシュボードエアイベント.....	5.09	ラジオデータシステム.....	4.30	インテリア.....	1.32
ダッシュボードエアイベント.....	5.09	ラジオの設定.....	4.12	エクステリア.....	1.32
		安全性.....	4.33	パニティ.....	5.16
		運転の好み.....	4.10	ヒーティング.....	1.33, 5.10
		外部デバイスへの接続.....	4.26	メモリー.....	1.19

索引

リバースディップ.....	1.33
外部ミラーを折りたたむ.....	1.33
自動外部ミラー折りたたみ.....	1.33
メインインストルメントの概要.....	2.05
メインヒューズボックス.....	6.17
ヒューズ.....	6.17
メッセージ.....	3.06
メッセージの表示.....	3.09
メディア.....	
Bluetooth オーディオ.....	4.28
USB および iPod.....	4.26
ストレージ.....	4.27
メディアコントロール.....	4.25
外部デバイスへの接続.....	4.26
概要.....	4.24
メディア USB ソケット.....	5.17
モーションセンサー - インテリア.....	1.15
ライト.....	
インテリア.....	5.11
エクステリア.....	1.34
オートマチックコントロール.....	1.35
サイドランプ.....	1.35
スイッチ.....	1.34
ダイナミックヘッドランプ.....	1.36
ハイビーム.....	1.35
ハザード警告灯.....	1.38
パッシングランプ.....	1.35
パーキングランプ.....	1.38
ムードライト.....	5.11
リアフォグランプ.....	1.36
ロービーム.....	1.35
車内灯.....	5.11

設定.....	4.09
方向指示器.....	1.37
ラゲッジルーム.....	
フロント.....	1.09
閉じる.....	1.10
ラゲッジルームを閉じる.....	1.10
ラジオ.....	
ラジオコントロール.....	4.29
ラジオデータシステム.....	4.30
概要.....	4.29
ラジオの設定.....	4.12
ランプ - サイド.....	1.35
ランプスイッチ.....	1.34
リアウィンドウ.....	
ヒーティング.....	5.10
リアビューカメラ.....	2.13
リアビューカメラ (RVC).....	
設定.....	4.11
リアフォグランプ.....	1.36
リアラゲッジルーム.....	1.10
リア.....	1.10
ロック解除および開操作.....	1.10
荷物の固定.....	1.13
開ける - バッテリーが放電した場合.....	6.30
手動で開ける.....	6.30
収納.....	1.13
閉じる.....	1.11
リアラゲッジルームのロック解除および開操作.....	1.10
リアラゲッジルームを閉じる.....	1.11
リフトポイント - 車両.....	6.44
リモコンキー.....	1.02

エントリー.....	1.02
バッテリーの交換.....	6.33
収納.....	1.04
放電したバッテリー.....	1.04
リモコンキーの収納.....	1.04
リモコンキーの電池が切れた場合.....	6.33
エンジンの始動.....	6.27
ロック解除.....	6.25
リーディングランプ.....	5.11
レシオ - ギア.....	7.05
ロック.....	1.05
ミスロック.....	1.06
自動.....	1.09
車外から.....	1.05
車内から.....	1.07
ロック解除 - 放電したバッテリー.....	6.25
ロービームヘッドランプ.....	1.35
ワイパーブレードの交換.....	6.34
ワイパーモード.....	4.11
ワイパー感度.....	4.11

「

「START/STOP」ボタン.....	2.03
----------------------	------

安全性.....	1.24
エアバッグ.....	1.26
エアバッグシステムの修正.....	1.26
エアバッグの交換.....	1.26
シート.....	1.17

索引

シートベルト.....	1.24	乗車照明.....	5.12	リモコンキーの電池.....	6.33
バッテリー.....	6.13	記号.....	4	ワイパーブレード.....	6.34
ミラー.....	1.32	技術データ.....	7.04	車両バッテリー.....	6.45
正規外着座（OOP）対応エアバッグ.....	1.29	エンジン.....	7.04	交換用バッテリー.....	6.45
電動式ウィンドウ.....	5.02	ギアレシオ.....	7.05	拘束装置.....	1.26
燃料.....	7.11	タイヤ空気圧.....	7.09	KISI チャイルドシート機能.....	1.30
一般.....	2.26	ホイールおよびタイヤサイズ.....	7.07	チャイルド.....	1.29
雨滴センサー.....	1.40	車体寸法.....	7.05	補助.....	1.26
運転の好み		車両重量.....	7.07	降車照明.....	5.12
設定.....	4.10	車両動作温度.....	7.04	最低地上高.....	5
温度 - クライメートコントロール.....	5.07	旋回半径.....	7.08	三角形 - 警告.....	6.10
温度表示.....	3.04	速度 - ギア.....	7.05	三角表示板.....	6.10
荷物の固定.....	1.13	技術用語集.....	7.13	三角表示板の立て方.....	6.11
海外での走行.....	6.47	救急キット.....	6.11	仕様.....	7.04
外気温表示.....	3.04	給油.....	2.41	仕様 - エンジンオイル.....	7.10
外部ミラー.....	1.32	挟み込み防止機能 - ウィンドウ.....	5.03	始動および走行	
ヒーター.....	1.33	緊急給油フィルターパイプ.....	6.12	イグニッションのスイッチをオンにする	
ミラーの自動折りたたみ.....	1.33	空気圧 - タイヤ.....	6.38, 7.09		2.03
ミラー折りたたみ.....	1.33	経済走行.....	2.11	インストルメントと警告灯.....	2.03
メモリー.....	1.19	警告 - エンジンオイルのレベル.....	6.02	エンジンの始動.....	2.08
リパースディップ.....	1.33	警告 - エンジンオイルの温度.....	6.04	ギア位置.....	2.06
外部照明.....	1.34	警告灯.....	2.03	パーキングブレーキ.....	2.06
慣らし運転.....	2.39	アンチロックブレーキシステム.....	2.26	フットブレーキ.....	2.08
機能		エンジン.....	2.11	メインインストルメント.....	2.05
12V ソケット.....	5.16	シートベルト.....	1.25	警告灯.....	2.03
USB ソケット.....	5.17	ブレーキ.....	2.08	通知灯.....	2.04
エレクトロクロミックルーフ.....	5.13	補助拘束装置.....	1.29	時計.....	3.04
カップホルダー.....	5.15	個人用アンロック設定.....	1.07	自動ミラー開閉	
サンバイザー.....	5.16	故障.....	6.45	設定.....	4.10
降車照明.....	5.12	交換		自動ロック.....	1.09
室内照明.....	5.11	バルブ.....	6.24	自動ワイパー.....	1.40
収納ボックス.....	5.13	ヒューズ.....	6.17	識別番号 - 車両.....	7.03

索引

室内温度	
ホット Evac.....	4.12
室内照明.....	5.11
ムードライト.....	5.11
車内灯.....	5.11
車外からのロック解除	
キーレス.....	1.04
リモコンキー.....	1.02
車高の下降.....	1.42
車高の上昇.....	1.42
車速.....	7.05
車体寸法.....	7.05
車内からロック解除.....	1.07
車両カバー.....	6.43
車両のジャッキアップ.....	6.44
車両のリフトポイント.....	6.44
車両の移送.....	6.46
車両の回収.....	6.45, 6.45
車両の使用.....	2.39
車両の始動.....	2.08
リモコンキーの電池が切れた場合.....	6.27
車両の電気的狀態.....	2.02
車両リフト.....	1.42
下降.....	1.43
上昇.....	1.42
車両識別番号.....	3.08, 7.03
車両重量.....	7.07
車両情報.....	3.06
エラーメッセージ.....	3.06
オイルステータス.....	3.07
タイヤ監視.....	3.07
バッテリーの狀態.....	3.07

車両識別番号.....	3.08
整備間隔.....	3.08
収納	
リアラゲッジルーム.....	1.13
収納ネット.....	5.15
収納ボックス.....	5.13
グローブボックス.....	5.13
シート.....	5.14
センターコンソール.....	5.13
ドア.....	5.14
ネット.....	5.15
重量.....	7.07
循環モード-クライメートコントロール.....	5.07
純正 McLaren 部品およびアクセサリ.....	7.02
消火器.....	6.12, 6.12
乗車照明.....	5.12
触媒コンバーター.....	2.12
高温.....	2.12
診断ポート.....	6.17
推奨燃料品質.....	2.42
水温表示.....	3.16
寸法.....	7.05
整備間隔.....	3.08
製品 - サービス.....	7.10
設定	
Bluetooth.....	4.05
HomeLink.....	4.12
Wi-Fi.....	4.05
ガレージドアオープナー.....	4.12
ギアシフトモード.....	4.10
コンフォートエントリー/イグジット.....	4.10
システム.....	4.15

セキュリティ.....	4.13
タイヤの種類.....	4.11
ホット Evac.....	4.12
ライト.....	4.09
リアビューカメラ (RVC)	4.11
ワイパーモード.....	4.11
ワイパー感度.....	4.11
運転の好み.....	4.10
概要.....	4.05
時間と単位.....	4.06
自動ミラー開閉.....	4.10
室内温度.....	4.12
接続.....	4.05
速度制限.....	4.10
設定 - 個人用アンロック.....	1.07
洗車.....	6.41, 6.41
エクステリア.....	6.41
ホイール.....	6.41
旋回半径.....	7.08
装備.....	6.10
フロントラゲッジルーム.....	6.10
走行安全システム	
一般.....	2.26
走行時の注意事項.....	6.38
速度 - ギア.....	7.05
速度上限	
キャンセル.....	2.38
設定.....	2.37
速度制限の表示	
設定.....	4.10
注意事項 - 走行.....	6.38
駐車日数.....	2.02

索引

著作権.....	3, 4.02
通知灯.....	2.04
展開 - エアバッグ.....	1.28
電気の状態.....	2.02
電子ユーザーマニュアル.....	3
電子制御ブレーキ予備充填.....	2.28
電池の交換 - リモコンキー.....	6.33
電動シート.....	1.18
バックレストのリクライニング調整.....	1.19
ランバーサポート調整.....	1.19
高さ調整.....	1.19
前後位置調整.....	1.18
電動シートおよびミラーメモリー.....	1.19
電動式ウィンドウ	
安全性.....	5.02
電話	
デバイスのペアリング/接続.....	4.18
概要.....	4.17
通話の終了.....	4.22
通話を受信.....	4.21
通話中のオプション.....	4.22
電話をかける.....	4.19
連絡先.....	4.22
冬季の走行.....	2.44, 2.44
到達可能距離表示.....	3.16
動作温度 - 車両.....	7.04
曇り取り - クライメートコントロール.....	5.06
内気循環モード - クライメートコントロール	
.....	5.07
熱線入りミラー.....	1.33
熱線入りリアウィンドウ.....	5.10

燃料	
タンク.....	7.11
フィルターパイプ.....	6.12
安全性.....	7.11
品質.....	2.42
燃料の給油.....	2.41
燃料残量表示.....	3.16
排気ガス.....	2.12
温度監視.....	2.12
発進.....	2.10
発進コントロール.....	2.24
非常用装備.....	6.10
けん引フック.....	6.12
タイヤシーラント.....	6.11
安全性.....	6.10
救急キット.....	6.11
三角表示板.....	6.10
消火器.....	6.12
燃料フィルターパイプ.....	6.12
部品.....	7.02
部品およびアクセサリー.....	7.02
保存データ.....	5
補充.....	6.02
エンジンオイル.....	6.03
ギアボックスオイル.....	6.05
クーラント.....	6.05
パワーステアリングフルード.....	6.06
ブレーキフルード.....	6.07
フロントウィンドウウォッシャーフルード	
.....	6.09
補助拘束装置.....	1.26
補足情報.....	4.02

放電したバッテリー.....	1.04
方向指示器.....	1.37
容量.....	7.10
エンジンオイル.....	7.10
クーリングシステム.....	7.11
燃料タンク.....	7.11
用語集 - 技術.....	7.13

